

# 2013年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

# 科目一覽

【発行日：2021/6/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹	【C2001】	行政法の基礎 [後藤 彌彦] 秋学期	1
基幹	【C2002】	民法 I [花立 文子] 春学期	1
基幹	【C2003】	民法 II [花立 文子] 秋学期	2
基幹	【C2004】	国際法 I [土屋 志穂] 春学期	3
基幹	【C2005】	国際法 II [土屋 志穂] 秋学期	4
基幹	【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 春学期	4
基幹	【C2007】	行政学 [吉川 富夫] 年間授業	5
基幹	【C2008】	国際関係論 [土屋 志穂] 春学期	6
基幹	【C2009】	アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期	6
基幹	【C2010】	地方自治論 [小島 聡] 春学期	7
基幹	【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 秋学期	8
基幹	【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 秋学期	9
政策	【C2013】	環境法 I [後藤 彌彦] 春学期	10
政策	【C2014】	環境法 II [永野 秀雄] 秋学期	10
政策	【C2015】	環境法 III [後藤 彌彦] 春学期	11
政策	【C2016】	環境法 IV [長井 圓] 春学期	12
政策	【C2017】	国際環境法 [土屋 志穂] 秋学期	13
政策	【C2018】	比較環境法 [後藤 彌彦] 秋学期	13
政策	【C2019】	労働環境法 [沼田 雅之] 春学期	14
政策	【C2020】	自治体環境政策論 I [小島 聡] 春学期	15
政策	【C2021】	自治体環境政策論 II [小島 聡] 秋学期	16
政策	【C2022】	日本公害史と法 [後藤 彌彦] 秋学期	17
政策	【C2023】	アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期	17
政策	【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期	18
政策	【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期	19
政策	【C2027】	地方自治論 I [小島 聡] 春学期	20
政策	【C2028】	地方自治論 II [小島 聡] 春学期	21
政策	【C2029】	国際環境法 I [土屋 志穂] 秋学期	22
政策	【C2030】	国際環境法 II [後藤 彌彦] 秋学期	22
基幹	【C2031】	国際法 I (教職) [土屋 志穂] 春学期	23
基幹	【C2032】	国際法 II (教職) [土屋 志穂] 秋学期	23
基幹	【C2100】	ミクロ経済学 I [林 直嗣] 春学期	24
基幹	【C2102】	ミクロ経済学 II [林 直嗣] 秋学期	25
基幹	【C2104】	マクロ経済学 I [田中 茉莉子] 春学期	26
基幹	【C2105】	マクロ経済学 II [田中 茉莉子] 秋学期	26
基幹	【C2106】	公共経済学 [小田 圭一郎] 秋学期	27
基幹	【C2107】	簿記入門 I・II [北田 皓嗣] 年間授業	28
基幹	【C2108】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期	29
政策	【C2109】	環境経済論 I [内山 勝久] 春学期	30
政策	【C2110】	環境経済論 II [内山 勝久] 秋学期	30
政策	【C2111】	環境経営論 I [川村 雅彦] 春学期	31
政策	【C2112】	環境経営論 II [川村 雅彦] 秋学期	32
政策	【C2113】	環境経営実践論 I [花田 正明] 春学期	33
政策	【C2114】	環境経営実践論 II [花田 正明] 秋学期	34
政策	【C2115】	CSR 論 I [長谷川 直哉] 春学期	35
政策	【C2116】	CSR 論 II [長谷川 直哉] 秋学期	36
政策	【C2117】	EMS 論 [長谷川 直哉] 秋学期	37
政策	【C2118】	国際環境政策 I [國則 守生] 春学期	37
政策	【C2119】	国際環境政策 II [國則 守生] 秋学期	38
政策	【C2120】	途上国経済論 I [武貞 稔彦] 春学期	39
政策	【C2121】	途上国経済論 II [武貞 稔彦] 秋学期	40
政策	【C2122】	国際経済協力論 I [武貞 稔彦] 春学期	41
政策	【C2123】	国際経済協力論 II [武貞 稔彦] 秋学期	42

政策	【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期	43
政策	【C2127】	国際環境政策 [國則 守生] 春学期	44
基幹	【C2200】	現代社会論Ⅰ [田中 勉] 春学期	45
基幹	【C2201】	現代社会論Ⅱ [田中 勉] 春学期	46
基幹	【C2202】	現代社会論Ⅲ [田中 勉] 秋学期	47
基幹	【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 秋学期	48
基幹	【C2204】	フィールド調査論 [西城戸 誠] 春学期	49
基幹	【C2205】	フィールド調査論 [田中 勉] 秋学期	50
基幹	【C2206】	フィールド調査論 [安岡 宏和] 春学期	51
基幹	【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 秋学期	51
基幹	【C2208】	ファシリテーション論 [三田地 真実] 秋学期	53
基幹	【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期	54
政策	【C2210】	地域形成論 [石神 隆] 春学期	55
政策	【C2211】	地域経済論 [石神 隆] 秋学期	56
政策	【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期	57
政策	【C2213】	地域コモンズ論 [平野 悠一郎] 秋学期	58
政策	【C2214】	都市環境論Ⅰ [石神 隆] 春学期	59
政策	【C2215】	都市環境論Ⅱ [石神 隆] 秋学期	60
政策	【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 春学期	61
政策	【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 春学期	62
政策	【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期	63
政策	【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期	64
政策	【C2220】	労働環境論Ⅰ [金子 良事] 春学期	65
政策	【C2221】	労働環境論Ⅱ [金子 良事] 秋学期	66
政策	【C2223】	NGO活動論 [中村 玲子] 秋学期	67
政策	【C2225】	地域環境ケーススタディⅠ [船戸 修一] 秋学期	68
政策	【C2226】	地域環境ケーススタディⅡ [後藤 純] 秋学期	69
政策	【C2227】	災害政策論 [鍵屋 一] 春学期	70
政策	【C2228】	科学技術社会論 [野澤 聡] 春学期	71
政策	【C2229】	社会開発論 [秋吉 恵] 秋学期	72
政策	【C2230】	グローバルコミュニティ [荒川 裕子] 秋学期	73
政策	【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期	74
政策	【C2232】	人間環境特論 (ファシリテーションの基礎) [三田地 真実] 秋学期	75
政策	【C2233】	人間環境特論 (環境と地域の持続性を考える) [西城戸 誠] 秋学期	76
政策	【C2234】	人間環境特論 (農と食から考える現代日本社会) [船戸 修一] 秋学期	77
基幹	【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 秋学期	78
基幹	【C2301】	仏教思想 [関口 和男] 春学期	78
基幹	【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期	79
基幹	【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期	79
基幹	【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期	80
基幹	【C2305】	伝統芸能論Ⅰ [安藤 俊次] 春学期	81
基幹	【C2306】	伝統芸能論Ⅱ [安藤 俊次] 秋学期	82
基幹	【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期	83
基幹	【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期	84
基幹	【C2309】	生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 春学期	85
基幹	【C2310】	環境倫理学 [鶴岡 健] 秋学期	86
政策	【C2311】	環境哲学基礎論 [関口 和男] 秋学期	87
政策	【C2312】	日本環境史論Ⅰ [加藤 貴] 春学期	88
政策	【C2313】	日本環境史論Ⅱ [加藤 貴] 秋学期	89
政策	【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期	90
政策	【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期	91
政策	【C2316】	環境人類学Ⅰ [安岡 宏和] 春学期	92
政策	【C2317】	環境人類学Ⅱ [安岡 宏和] 秋学期	92
政策	【C2318】	人間環境特論 (ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ) [辻 英史] 春学期	93
政策	【C2319】	人間環境特論 (ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ) [辻 英史] 秋学期	94
基幹	【C2320】	日本美術の系譜 [豊田 和平] 秋学期	95
政策	【C2321】	環境人類学Ⅲ [安岡 宏和] 秋学期	96

政策	【C2322】	環境表象論Ⅰ	[梶 裕史]	春学期	96
政策	【C2323】	環境表象論Ⅱ	[梶 裕史]	秋学期	97
政策	【C2324】	環境表象論Ⅰ	[梶 裕史]	春学期	98
基幹	【C2400】	自然環境科学の基礎 (化学)	[藤倉 良]	秋学期	100
基幹	【C2401】	自然環境科学の基礎 (生物学)	[宮川 路子]	秋学期	100
基幹	【C2402】	自然環境科学の基礎 (生態学)	[高田 雅之]	春学期	101
基幹	【C2403】	自然環境論Ⅰ	[杉戸 信彦]	春学期	102
基幹	【C2404】	自然環境論Ⅱ	[杉戸 信彦]	秋学期	103
基幹	【C2405】	自然環境論Ⅲ	[杉戸 信彦]	春学期	103
基幹	【C2406】	エネルギー論Ⅰ	[北川 徹哉]	春学期	104
基幹	【C2407】	地球科学史Ⅰ	[谷本 勉]	春学期	104
基幹	【C2408】	地球科学史Ⅱ	[谷本 勉]	秋学期	105
基幹	【C2409】	環境健康論Ⅰ	[朝比奈 茂]	春学期	106
基幹	【C2410】	環境健康論Ⅱ	[朝比奈 茂]	秋学期	107
基幹	【C2411】	気候変動論Ⅰ	[松本 倫明]	春学期	108
基幹	【C2412】	気候変動論Ⅱ	[松本 倫明]	秋学期	109
政策	【C2413】	自然環境政策論Ⅰ	[高田 雅之]	春学期	109
政策	【C2414】	自然環境政策論Ⅱ	[高田 雅之]	秋学期	110
政策	【C2416】	環境科学Ⅰ	[藤倉 良]	春学期	112
政策	【C2417】	環境科学Ⅱ	[藤倉 良]	秋学期	112
政策	【C2418】	環境科学Ⅲ	[藤倉 良]	春学期	113
政策	【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ	[宮川 路子]	春学期	113
政策	【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ	[宮川 路子]	秋学期	114
政策	【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ	[宮川 路子]	春学期	115
政策	【C2422】	エネルギー論Ⅱ	[北川 徹哉]	秋学期	115
政策	【C2423】	大気と社会Ⅰ	[北川 徹哉]	春学期	116
政策	【C2424】	大気と社会Ⅱ	[北川 徹哉]	秋学期	116
政策	【C2425】	自然環境政策論	[高田 雅之]	春学期	117
政策	【C2426】	人間環境特論 (天然資源の科学)	[藤倉 良]	春学期	118
政策	【C2427】	人間環境特論 (気流と社会環境Ⅰ)	[北川 徹哉]	春学期	118
政策	【C2428】	人間環境特論 (気流と社会環境Ⅱ)	[北川 徹哉]	秋学期	119
基幹	【C2429】	自然環境科学の基礎 (物理学)	[渡邊 誠]	春学期	120
基幹	【C2430】	環境モデル論Ⅰ	[渡邊 誠]	春学期	121
基幹	【C2431】	環境モデル論Ⅱ	[渡邊 誠]	秋学期	122
基幹	【C2432】	自然災害論	[杉戸 信彦]	秋学期	123
政策	【C2433】	自然環境論Ⅳ	[高田 雅之]	秋学期	123
	【C2500】	公害防止管理論Ⅰ	[大岡 健三]	春学期	124
	【C2501】	公害防止管理論Ⅱ	[大野 香代]	秋学期	125
	【C2502】	廃棄物・リサイクル論	[鏑木 儀郎]	秋学期	127
	【C2503】	環境教育論	[吉川 まみ]	秋学期	128
	【C2505】	食と農の環境学Ⅰ	[西川 邦夫]	春学期	129
	【C2506】	食と農の環境学Ⅱ	[船戸 修一]	秋学期	130
	【C2507】	食と農の環境学Ⅲ	[吉田 岳志]	春学期	131
	【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ	[千田 利史]	春学期	132
	【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ	[千田 利史]	秋学期	132
	【C2510】	リサイクル論	[鏑木 儀郎]	秋学期	133
	【C2552】	人間環境特論 (交通モビリティと持続可能性)	[田中 勝昭]	秋学期	134
	【C2553】	人間環境特論 (観光と地域振興)	[沓掛 博光]	秋学期	135
フレッシュマン	【C2600】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	春学期	136
フレッシュマン	【C2601】	人間環境学入門	[人間環境学部教員]	春学期	137
フレッシュマン	【C2602】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	春学期	138
フレッシュマン	【C2603】	人間環境学入門	[人間環境学部教員]	春学期	139
フレッシュマン	【C2604】	環境科学入門	[藤倉 良]	秋学期	140
フレッシュマン	【C2605】	環境科学入門	[宮川 路子]	秋学期	140
フレッシュマン	【C2606】	環境科学入門	[高田 雅之]	春学期	141
フレッシュマン	【C2607】	環境科学入門	[杉戸 信彦]	春学期	142
フレッシュマン	【C2608】	環境科学入門	[北川 徹哉]	春学期	143

フレッシュマン 【C2609】 環境科学入門 [谷本 勉] 春学期	143
フレッシュマン 【C2610】 環境科学入門 [朝比奈 茂] 春学期	144
フレッシュマン 【C2611】 環境科学入門 [松本 倫明] 春学期	145
フレッシュマン 【C2612】 環境科学入門 [渡邊 誠] 春学期	146
フレッシュマン 【C2700】 基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期	147
スキルアップ 【C2800】 情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	147
スキルアップ 【C2801】 情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期	148
スキルアップ 【C2802】 情報処理基礎 [本郷 茂] 春学期	148
スキルアップ 【C2803】 情報処理基礎 [本郷 茂] 秋学期	149
スキルアップ 【C2804】 情報処理基礎 [本郷 茂] 春学期	149
スキルアップ 【C2805】 情報処理基礎 [本郷 茂] 秋学期	150
スキルアップ 【C2806】 情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	151
スキルアップ 【C2807】 ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期	151
スキルアップ 【C2808】 ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期	152
スキルアップ 【C2809】 統計とデータ分析 [渡邊 誠] 秋学期	154
基幹 【C2810】 統計概論 [渡邊 誠] 秋学期	155
スキルアップ 【C2900】 英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期	156
【C2901】 英語Ⅰ (4群必修) [平野井 ちえ子] 春学期	157
【C2902】 英語Ⅰ (4群選択) [平野井 ちえ子] 春学期	158
スキルアップ 【C2903】 英語Ⅰ (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期	159
【C2904】 英語Ⅰ (4群必修) [板橋 美也] 春学期	160
【C2905】 英語Ⅰ (4群選択) [板橋 美也] 春学期	161
スキルアップ 【C2909】 英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	162
【C2910】 英語Ⅱ (4群必修) [磯部 芳恵] 秋学期	163
【C2911】 英語Ⅱ (4群選択) [磯部 芳恵] 秋学期	164
スキルアップ 【C2915】 英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期	165
【C2916】 英語Ⅲ (4群必修) [磯部 芳恵] 春学期	165
【C2917】 英語Ⅲ (4群選択) [磯部 芳恵] 春学期	166
スキルアップ 【C2921】 英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	166
【C2922】 英語Ⅳ (4群必修) [磯部 芳恵] 秋学期	167
【C2923】 英語Ⅳ (4群選択) [磯部 芳恵] 秋学期	167
スキルアップ 【C2950】 テーマ別英語1 (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期	168
【C2951】 テーマ別英語1 (4群必修) [板橋 美也] 春学期	169
【C2952】 テーマ別英語1 (4群選択) [板橋 美也] 春学期	170
スキルアップ 【C2953】 テーマ別英語2 (スキルアップ科目) [ESTHER STOCKWELL] 秋学期	171
【C2954】 テーマ別英語2 (4群必修) [ESTHER STOCKWELL] 秋学期	172
【C2955】 テーマ別英語2 (4群選択) [ESTHER STOCKWELL] 秋学期	173
スキルアップ 【C2956】 テーマ別英語3 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 春学期	174
【C2957】 テーマ別英語3 (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 春学期	174
【C2958】 テーマ別英語3 (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 春学期	175
スキルアップ 【C2959】 テーマ別英語4 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 秋学期	175
【C2960】 テーマ別英語4 (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 秋学期	176
【C2961】 テーマ別英語4 (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 秋学期	176
【C3000】 研究会 (A) [朝比奈 茂] 年間授業	177
【C3001】 研究会 (A) [安藤 俊次] 年間授業	178
【C3002】 研究会 (A) [石神 隆] 年間授業	179
【C3003】 研究会 (A) [板橋 美也] 年間授業	180
【C3004】 研究会 (A) [杉戸 信彦] 年間授業	181
【C3005】 研究会 (A) [小中 さつき、岡松 暁子] 年間授業	181
【C3006】 研究会 (A) [梶 裕史] 年間授業	182
【C3007】 研究会 (A) [北川 徹哉] 年間授業	183
【C3008】 研究会 (A) [内山 勝久] 年間授業	184
【C3009】 研究会 (A) [國則 守生] 年間授業	184
【C3010】 研究会 (A) [小島 聡] 年間授業	185
【C3011】 研究会 (A) [小島 聡] 年間授業	186
【C3012】 研究会 (A) [ESTHER STOCKWELL] 年間授業	187
【C3013】 研究会 (A) [後藤 彌彦] 年間授業	188

【C3014】	研究会 (A)	[関口 和男] 年間授業	188
【C3015】	研究会 (A)	[武貞 稔彦] 年間授業	189
【C3016】	研究会 (A)	[田中 勉] 年間授業	190
【C3017】	研究会 (A)	[辻 英史] 年間授業	191
【C3018】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	192
【C3019】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	193
【C3020】	研究会 (A)	[金子 良事] 年間授業	194
【C3021】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	195
【C3022】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	196
【C3023】	研究会 (A)	[加藤 貴、根崎 光男] 年間授業	197
【C3024】	研究会 (A)	[長谷川 直哉] 年間授業	198
【C3025】	研究会 (A)	[日原 傳] 年間授業	199
【C3026】	研究会 (A)	[平野井 ちえ子] 年間授業	200
【C3027】	研究会 (A)	[藤倉 良] 年間授業	201
【C3029】	研究会 (A)	[松本 倫明] 年間授業	202
【C3030】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	203
【C3031】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	204
【C3032】	研究会 (A)	[安岡 宏和] 年間授業	205
【C3034】	研究会 (A)	[渡邊 誠] 年間授業	206
【C3035】	研究会 (A)	[高田 雅之] 年間授業	207
【C3036】	研究会 (B)	[杉戸 信彦] 年間授業	208
【C3037】	研究会 (B)	[小中 さつき、岡松 暁子] 年間授業	208
【C3038】	研究会 (B)	[梶 裕史] 年間授業	209
【C3039】	研究会 (B)	[北川 徹哉] 年間授業	210
【C3040】	研究会 (B)	[ESTHER STOCKWELL] 年間授業	211
【C3041】	研究会 (B)	[後藤 彌彦] 年間授業	212
【C3042】	研究会 (B)	[関口 和男] 年間授業	212
【C3043】	研究会 (B)	[武貞 稔彦] 年間授業	213
【C3044】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	214
【C3045】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	215
【C3046】	研究会 (A)	[谷本 勉] 年間授業	216
【C3047】	研究会 (B)	[金子 良事] 年間授業	216
【C3048】	研究会 (B)	[加藤 貴、根崎 光男] 年間授業	217
【C3049】	研究会 (B)	[長谷川 直哉] 年間授業	218
【C3051】	研究会 (B)	[吉田 秀美] 年間授業	219
【C3052】	研究会 (B)	[高田 雅之] 年間授業	220
【C3054】	研究会 (B)	[永野 秀雄] 春学期	221
【C3055】	研究会 (B)	[日原 傳] 秋学期	221
【C3057】	研究会 (B)	[谷本 有美子] 秋学期	222
【C3058】	研究会 (B)	[石神 隆] 年間授業	223
【C3059】	研究会 (B)	[安岡 宏和] 年間授業	224
【C3060】	研究会 (B)	[渡邊 誠] 年間授業	225
【C3100】	研究会修了論文 [人間環境学部教員]	秋学期	226
【C3200】	人間環境セミナー I [人間環境学部教員]	春学期	226
【C3201】	人間環境セミナー II [人間環境学部教員]	秋学期	227
【C3202】	インターンシップ [人間環境学部教員]		227
【C3300】	フィールドスタディ [人間環境学部教員]		228



## 行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。この行政法の基礎を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

行政法の基礎原理、行為形式等を理解することにより、現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが習得できる。

【】

### 【授業の概要と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の基礎原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。講義形式により行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か
第2回	行政の組織Ⅰ	行政の担い手 ①中央政府
第3回	行政の組織Ⅱ	行政の担い手 ②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政の裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の義務履行の確保
第13回	行政救済法 1	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法 2	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

### 【テキスト】

開講時指定 行政法の改正が頻繁に行われるため、できるだけ最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

具体的事例、条文をあげ、初めて法律に接するものにわかりやすくなるように努める。

### 【その他】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 民事法Ⅰ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

### 【授業の到達目標】

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度の理解

【】

### 【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがある。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車でも人にぶつかって怪我をさせてしまった、ということもあろう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることも多い。このような法律問題をどのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法律的な考え方、法律の構造・全体を理解したい。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げる。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていく。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進捗と異なることもあることをお断りしておく。

はじめに市民間のトラブルの例をあげ、それを通じて講義全体を示す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民事法上の問題と司法制度	民法法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるのか等をみる。
第2回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのようにとられるのか、裁判制度(民事)の全体像をみる。
第3回	裁判制度(刑事)	民事上の裁判制度をより理解するために、刑事法上の裁判制度を比較し概観し、裁判員制度も概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはいつか、人と法人および、出生問題をみる
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第7回	人が行方不明の場合について	人が行方不明になったときの財産はどうなるか、不在者の財産管理等についてみる。
第8回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
第9回	取引の対象について	取引の対象は、物権と債権であり、各々の違い、物とは何か、物権・債権の種類を整理する。
第10回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第11回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第12回	法律上の家族	法律上、家族とはどのように考えられているか、家族の成立、範囲等をみる(親子)



- 第13回 夫婦の問題 法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
- 第14回 死亡の際の家族の財産の行方 死亡した場合に、その財産がどのようになるのか、相続問題を考える
- 第15回 まとめ ここでは、全体のまとめをみる。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト】

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

【参考書】

開講時説明する。

【成績評価基準】

ミニテスト、法律問題について書いていただいたことと（平常点 40 点）、最後に行なわれる試験（60 点）で、総合評価する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に活用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもって、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、身近でない問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 民法法Ⅱ

### 花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

【授業の到達目標】

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

【】

【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げるため、シラバスと異なることもあることをお断りする。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に答えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民法法の体系、法体系の概観	民法法の授業での対象、民法法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	未成年者の契約問題について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える（成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係）
第3回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第4回	法律行為について	契約する際に予定したことと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第5回	契約と代理について	契約は本人でなく誰かに代わってしてもらった場合に法律上どうなるかをみる。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	リボルビング制度	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	不法行為制度①	自転車走行中の事故を通じてと不法行為制度をみる。
第11回	不法行為制度②	自動車事故の判例を読み、交通事故について考える。
第12回	近隣問題と法	具体的事例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを検討する。
第13回	インターネットと法	現代の問題として、知的財産法について概観する。
第14回	現代の契約	民法13典型契約以外の現代の契約について概観する。

## 第 15 回 まとめ

ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価基準】

平常点（ミニテスト、法律問題について考えたことを適宜書いていただく（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、身近でない問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 国際法 I

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成及び紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

## 【授業の到達目標】

国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。  
国際社会への日本の参加について知る。

【】

## 【授業の概要と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国際法とは？ 本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

## 【成績評価基準】

原則として期末試験による

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度に合わせて行う。

## 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース

## 国際法Ⅱ

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

### 【授業の到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

[]

### 【授業の概要と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法(1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法(2)	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法(3)	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄(1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄(2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決(1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決(2)	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決(3)	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規(国際人道法)(1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規(国際人道法)(2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法[第2版]』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選[第2版]』有斐閣、2011年。

### 【成績評価基準】

原則として期末試験による

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度に合わせて講義を行う。

### 【その他】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース

## 市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、本講座では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に扱います。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO(市民セクター)と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治(ガバナンス)という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

### 【授業の到達目標】

市民が政策形成に与える影響やその手法を学び、政治・行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる。

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業のテーマ及び到達目標」に沿って、講義形式で進めます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第2回	市民セクターの活動と政府(1)	1990年代後半からの動向
第3回	市民セクターの活動と政府(2)	国内の動向
第4回	市民セクターの活動と政府(3)	国際的な動向
第5回	戦後日本の市民セクターと政治(1)	「運動」の変遷
第6回	戦後日本の市民セクターと政治(2)	「市民参加」の系譜
第7回	市民セクターと自治体の政策形成	21世紀の市民参加の傾向
第8回	市民セクターと自治体の意思決定(1)	住民投票のしくみと近年の動向
第9回	市民セクターと自治体の意思決定(2)	地域における意思決定の課題を事例から考える
第10回	市民セクターと自治体の意思決定(3)	地域住民の意思表示と国政との関係を考える
第11回	市民セクターの合意形成	市民参加の新たな取組
第12回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試み
第13回	市民社会のガバナンスを考える(1)	事例検討
第14回	市民社会のガバナンスを考える(2)	事例検討
第15回	まとめ	全体の振り返り

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

### 【テキスト】

特定の教科書は特に使用しません。授業内にレジュメと資料を配付します。

### 【参考書】

授業内で必要に応じて、参考文献等を紹介します。

### 【成績評価基準】

期末の論述試験と出席状況を勘案し、総合的に評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオ等を活用して、具体的事例から考える機会を提供します。

### 【その他】

地方自治論、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済みか、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース

## 行政学

【関連の深いコース】  
地域環境共生コース

吉川 富夫

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

行政とは、社会を治める統治機構の1つであることは間違いないが、この統治機能を市場における契約関係、民主主義による信託関係、信頼に基づく協力関係という3つの局面とその変遷の中で捉える。具体的課題分野としては、財政赤字、官僚制の非効率、民主主義の希薄化等に対して、どのような処方箋がありうるかを考える。

### 【授業の到達目標】

後日お知らせします。

[]

### 【授業の概要と方法】

後日お知らせします。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	公共経営の勘どころと授業ガイダンス	テーマに沿って講義する
第2回	公共経営とガバナンス	テーマに沿って講義する
第3回	日本の行政改革の歴史	テーマに沿って講義する
第4回	行政評価の役割と生い立ち	テーマに沿って講義する
第5回	行政評価の理論と新展開	テーマに沿って講義する
第6回	戦略計画と業績測定の理論	テーマに沿って講義する
第7回	行政経営の先進事例	テーマに沿って講義する
第8回	N P M（新公共経営）とは何か	テーマに沿って講義する
第9回	英国における行政改革	テーマに沿って講義する
第10回	米国における行政改革	テーマに沿って講義する
第11回	アカウンタビリティを考える	テーマに沿って講義する
第12回	民営化と民間化	テーマに沿って講義する
第13回	規制緩和とアウトソーシング	テーマに沿って講義する
第14回	公会計	テーマに沿って講義する
第15回	P P P s（公民連携）	テーマに沿って講義する
第16回	日本国憲法と地方自治	テーマに沿って講義する
第17回	地方自治制度の歴史としくみ	テーマに沿って講義する
第18回	二元代表制における議会	テーマに沿って講義する
第19回	内部組織と地方公務員の仕事	テーマに沿って講義する
第20回	地方公務員賃金と人事評価	テーマに沿って講義する
第21回	地方財政の役割と仕組み	テーマに沿って講義する
第22回	地方財政破たんと健全化	テーマに沿って講義する
第23回	参加と公開	テーマに沿って講義する
第24回	協働と市民自治	テーマに沿って講義する
第25回	国と自治体の事務配分と処理	テーマに沿って講義する
第26回	地方分権と広域行政	テーマに沿って講義する
第27回	平成の大合併と「小さな自治」	テーマに沿って講義する
第28回	新しい自治体経営	テーマに沿って講義する
第29回	計画行政とマニフェスト	テーマに沿って講義する
第30回	政策課題研究「子育て支援」	テーマに沿って講義する

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

後日お知らせします。

### 【テキスト】

後日お知らせします。

### 【参考書】

後日お知らせします。

### 【成績評価基準】

出席（25%）、授業参加度（25%）、  
期末試験（50%：春学期25%、秋学期25%）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 国際関係論

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際社会における平和の構築について考察する。  
国際社会の諸問題に関する知識を深める。

### 【授業の到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。  
講義の進行上、シラバスを変更する可能性もある。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み
第15回	国際社会における課題	国際社会における諸問題と今後の課題

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

復習

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

原則として期末試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度の講義を参考に講義を行う。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## アメリカ法の基礎

永野 秀雄

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

### 【授業の到達目標】

学生が、この授業をとって、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、法律問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。最後に、日本とアメリカ法の間隔を一緒に考えてみたいと思います。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について
第15回	日本とアメリカ法	その関係性の検討

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第6版）』（有斐閣、2008年）。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 地方自治論

小島 聡

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、自治体環境政策、自治体政策全般、まちづくり・地域づくり、さらに現代の地域社会の状況を理解する前提として、地方自治の基本的考え方や歴史とともに、地方自治の制度と動向について検討する。また地方自治の視点から現代社会を考察し、これからの時代を展望する。

### 【授業の到達目標】

- ・地方自治の歴史・理論、制度、現在の動向に関する基礎知識や思考方法の習得により、市民・地域人としての教養を身につける。
- ・報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を理解する力を身につける。
- ・人間環境学部の地域に関する政策科目の履修の基礎となる知識、思考方法を身につける。
- ・地方自治や地域に関連した職業を志望する場合の基礎教養を身につける。

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに自治体環境政策、自治体政策全般との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と自治体の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、その論理と改革の構図をみていく。最後に、自治体が市民に対して責任を負い、地域社会において総合かつ自主的にまちづくり・地域づくりを担う「市民の政府」になっていくという理念について、最新の動向とともに検討する。なお、可能なかぎり新聞記事などの資料を配付し、地方自治、地域社会という視点から時事問題をとりあげ、学生と対話する機会をつくる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第2回	地方自治の歴史と世界	地方自治の歴史について世界史的視野から再検討する。
第3回	地方自治の歴史と近代日本	近代日本の地方自治史について、地域環境の視点を交えて再検討する。
第4回	地方自治の基礎理論	地方自治の理論に関する基礎的な部分を取り上げる。
第5回	二層制と基礎自治体の再編	日本の地方自治の基本構造である二層制を説明した上で、市町村合併による基礎自治体の再編について検討する。
第6回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第7回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第8回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第9回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について検討する。
第10回	二元代表制と地域政治	権力分立と機関対立主義の考え方、地域政治の歴史的推移の検討により、二元代表制における首長と議会の関係性を再考する。
第11回	二元代表制のこれから	二元代表制の現状と課題、展望について検討する。
第12回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。
第13回	政府間関係のモデルと中央集権システム	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論とともに、明治時代以降形成にされてきた日本の中央集権システムについて検討する。
第14回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第15回	「市民の政府」に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」でもある自治体の課題と自己改革について検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。

- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する情報についてアンテナをつくるために、新聞やテレビの報道に接するように努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配布する。

### 【参考書】

- ・『ホーンブック 地方自治（改訂版）』北樹出版、2011年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（80～90%）＋ミニレポート（10～20%）で評価する。配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成するなど、復習をしっかりに行えば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年3月11日の東日本大震災以後、地方自治の視点から被災地の状況についてたびたび言及してきました。その結果、時事情報の読み方として役立ったようです。また時事情報に目を向ける機会を提供したようです。私も、リアルタイムの情報を活用していくことが、地方自治のリテラシー教育として重要であると再認識し、同時に学問の社会的関連性を考えさせられ、貴重な経験になっています。したがって、今後とも地方自治の制度解説などにとどまらず、地方自治を手がかりとして現代社会を考えるスタンスでのぞみたいと思います。

- ・技術的には、専門用語の説明、パワーポイントの使い方などについて、なお工夫が必要であると感じています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

- ・基幹科目として実施する「地方自治論」は、法学政治系の「自治体環境政策論Ⅰ」、「自治体環境政策論Ⅱ」だけではなく、「地域環境共生コース」に関連する政策科目の基礎という位置にあります。
- さらに他の4つのコースも含め、人間環境学部で幅広く学んでいく時にどこかで地方自治の話は関連してくるといえます。ですからこの授業を通して、学生のみなさんとともに、人間環境学部で地方自治を学ぶ意義について考えていきたいと思います。
- ・「地方自治論」と同様の基礎的な位置にある関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、学部専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」、「地域形成論」なども履修することを推奨します。
- ・2011年度までに旧名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目は履修できません。「地方自治論Ⅰ」の再履修者は「地方自治論Ⅰ」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

### 【授業の到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解することを目的とする。憲法と関連して問題となっている社会問題について理解を深めることにより、将来の社会問題を法的に分析する視点を持つことを目指す。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式による。  
場合によっては、映像などを取り入れることもある。  
シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 憲法とは？	憲法とはどのような法律か。
第2回	日本国憲法の成り立ち	日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第3回	天皇の国事行為	天皇制について考える
第4回	平和主義①	日本国憲法と自衛隊 日本と国際社会
第5回	基本的人権の尊重①	基本的人権とは何か？
第6回	基本的人権の尊重②	日本国憲法における人権保障の枠組 平等権
第7回	基本的人権の尊重③	精神的自由権 身体的自由権
第8回	基本的人権の尊重④	経済的自由権 社会権
第9回	基本的人権の尊重	その他の人権 新しい人権
第10回	統治機構①	三権分立 選挙制度の問題点
第11回	統治機構②	国会
第12回	統治機構③	内閣制度
第13回	統治機構④	裁判所
第14回	地方自治 まとめ	地方自治とは
第15回	試験	学期末試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくことのほかは、とくに必要なし。  
(必要がある際には、授業のときに指示します)

### 【テキスト】

授業で配布する資料による。

### 【参考書】

声部信喜『憲法【第5版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2011年）  
ポケット六法（有斐閣）などの六法。  
その他授業の際に指示する。

### 【成績評価基準】

学期末試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度と同様に行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや映像機器を使用する可能性もある。

### 【その他】

#### 【関連する科目・分野】

行政法、国際法などの法律関連科目  
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

刑法は、「犯罪」として市民の生命・身体・自由・財産等を害する行為を処罰しながら、「刑罰」として市民の生命・身体・自由・財産等を侵害する。この矛盾をどのように正当化したらよいのだろうか。その基礎を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

刑法と倫理・道徳との相違、刑法と民法等との関係および犯罪の成立要件の基礎等を理解し、刑法が犯罪の抑止・制裁のためだけではなく、加害者を含めた私たち市民の人権保障のための法律でもあると理解することができる。

II

### 【授業の概要と方法】

本授業では、各回ごとにレジュメを配布し、判例などの具体的な事例について検討し理解をはかる。また、その理解を深めるため、講師が学生に質問をして、それに対する学生の回答を踏まえて、さらに解説等を加えることも予定している。

II

II

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 刑法と倫理・道徳	倫理・道徳によって、事前に抑止されるはずの犯罪行為がなぜなされるのか。犯罪行為をすると、倫理・道徳による社会的な非難がなされるのに加えて、刑罰が科せられるのはなぜか。
第2回	刑罰の目的・役割	民事不法行為に対する損害賠償と犯罪に対する刑罰との違いは何か、刑罰の目的は応報か予防かなどを学ぶ。
第3回	罪刑法定主義 法律主義・刑罰法規の明確性の原則・類推解釈の禁止	「法律なければ犯罪なし、犯罪なければ刑罰なし」とされるのはなぜか。学校や駅などでのスマホ等の無断の充電行為は、「財物」の窃盗に当たるかなどを例にしながら、罪刑法定主義の基礎を学ぶ。
第4回	構成要件（1） 行為の主体	刑罰の対象となる行為は、どのようなものか、また、自然人のみならず法人も犯罪行為の主体として処罰されるかなどを学ぶ。
第5回	構成要件（2） 因果関係	刑法上の因果関係とは何か。また、その判断方法は、どのようなにすべきかなどについて学ぶ。
第6回	違法性阻却事由	廃棄物の不法投棄者を殺害することが許されるかなどを例にしながら、正当防衛について学ぶ。また、法令行為、緊急避難等についても学ぶ。
第7回	責任主義（1） 故意・過失と責任能力	故意・過失のない行為が犯罪とならないのはなぜか、精神障害者や少年の行為が処罰されないのはなぜかなどを学ぶ。
第8回	責任主義（2） 故意・錯誤・過失	刑法上の故意と過失との違いは何か。また、行為者の認識と生じた結果との間に「錯誤」がある場合の犯罪の成否について学ぶ。
第9回	未遂と共犯	実行の着手、不能犯、中止未遂および共犯の類型（教唆、幫助、共同正犯、共謀共同正犯）等について学ぶ。
第10回	個人的法益に対する罪（1）	殺人罪、自殺関与罪、暴行罪・傷害（致死傷）罪、過失傷害・致死罪等を学ぶ。
第11回	生命・身体に対する罪 個人的法益に対する罪（2）	脅迫罪、逮捕・監禁罪、強要罪、強姦罪、名誉棄損罪・侮辱罪、業務妨害罪等を学ぶ。
第12回	自由・人格に対する罪 個人的法益に対する罪（3） 財産に対する罪①	いやがらせのために友人のiPadを勝手に持ち去ってすぐに損壊した場合にも、窃盗罪は成立するかなどを例にしながら、財産犯罪の保護法益などの基礎を学ぶ。また、窃盗罪、強盗罪等を学ぶ。
第13回	個人的法益に対する罪（4） 財産に対する罪②	未成年者が成年と偽ったうえ、酒やタバコを代金と引き換えに受け取った場合などを例にしながら、詐欺罪を学ぶ。また、恐喝罪・背任罪および盗品関与罪、器物損壊罪なども学ぶ。

第14回 社会的法益に対する罪 放火罪、偽造罪、わいせつ罪、騒乱罪などを学ぶ。

第15回 国家的法益に対する罪 内乱罪、公務執行妨害罪、犯人蔵匿罪、職権濫用罪、贈収賄罪などを学ぶ。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習を欠かさずに行ってください。

### 【テキスト】

なし。配布レジュメを使用する。

### 【参考書】

授業時に指示しますが、例えば「刑法基本講義」（佐久間修ほか・有斐閣・2009）は、1冊に刑法の総論・各論が収められています。

### 【成績評価基準】

成績評価は、基本的に、定期試験7割、小テスト3割の合計で行いますが、その具体的な算定方法については、開講時等にお知らせします。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

「レジュメが丁寧」、「他の法律科目を学ぶ上で役に立った」、「事例の提示が分かりやすかった」、「知識がついた」など好意的なコメントも多くみられましたが、その一方で、「早すぎてついていけないところも多々あった」、「おちついてしゃべってほしい」など、授業の進行度とそれに関連した私の話し方については、改善を求めるコメントもありました。また、昨年の本科目の出席率が、他の教員による科目と比べて大幅に下回っていることも分かりました。多くの受講者が出席して授業を聴いても分からないという印象を持った結果として、出席率が低下したとすれば、大いに反省したいと思います。確かに、昨年度の授業では、できるだけ多くの情報を受講者に伝えようとして、難しい用語や概念を難しく分りやすい解説を加えず、しかも早口で話してしまったこともあり。本年度は、その反省を生かして、授業の内容について良い意味で「断捨離」をして重要なポイントをさらに絞りたいと思っています。また、できるだけゆっくと落ち着いた口調を心がけて、多くの受講者が授業の内容をより理解できるようにしていきます。

### 【その他】

春学期開講科目の「環境法Ⅳ」（環境刑法）の授業では、主として環境保護のための犯罪と刑罰を学びますが、その学習を通じて、刑法の基礎理論の概要を理解することもできます。それゆえ、「環境法Ⅳ」を履修しておけば、「刑法の基礎」の授業の内容をより容易に理解することができるでしょう。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース



**環境法Ⅰ**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

**【授業の到達目標】**

環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

[]

**【授業の概要と方法】**

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ばいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方と概要
第2回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第3回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第4回	公害事例と法Ⅰ	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第5回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第6回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第7回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第8回	公害国会	公害14法の整備
第9回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第10回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第11回	環境基本法	環境基本法の概要
第12回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第13回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第14回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第15回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

テキスト、プリントを学習する。興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト】**

開講時に指定するテキストとプリントによる。

**【参考書】**

授業内で紹介。

**【成績評価基準】**

定期試験による

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

**【その他】**

この講義は、各論として環境法Ⅲ、比較環境法へ発展する。また、過去の公害経験やそれに対する対応は、詳しくは「日本公害史と法」で扱う。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

**環境法Ⅱ**

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

**【授業の到達目標】**

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

[]

**【授業の概要と方法】**

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟や、原子力施設をはじめとする嫌悪施設に関する訴訟とそのあり方を検証します。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法(1)	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法(2)	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法(3)	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ
第15回	原子力施設関連訴訟等	原子力損害賠償法とその関連法、その他の嫌悪施設に関する訴訟

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価基準】**

定期試験により評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、プロジェクター。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 環境法Ⅲ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

### 【授業の到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

### 【参考書】

授業内で紹介。

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

### 【その他】

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 環境法Ⅳ

## 長井 圓

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境保護のための法体系は、①環境民法、②環境（憲法）行政法および③環境刑法に区別される。この授業では、環境刑法すなわち「環境保護のために刑法がどのような犯罪に対して、どのような刑罰を科すべきか」について、基礎から応用までをやさしく学ぶ。

## 【授業の到達目標】

豊かな自然環境を未来の世代にも残すために、環境に有害ならゆるる行為（生産消費・環境負荷）を犯罪として処罰するならば、私たちの生活自体が極めて困難になる。その適正な犯罪処罰の基本原則および限界を理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

特に、環境行政法と環境刑法との関係について理解するために、「総論」として、1. 刑法の基礎理論、2. 公害刑法から環境刑法への発展、3. 環境刑法の保護法益と経済法則、「各論」として、1. 公害刑法・公害罪処罰法および2. 廃棄物処理法（廃掃法）の判例について解説する。教科書『環境刑法の保護法益と基礎理論』（刊行予定）を使用してその理解を進める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 環境倫理と環境刑法	罪刑法定主義・責任主義などの刑法の特色を学び、環境保護における倫理・道徳と刑法の役割を理解する。
第2回	環境の法的保護における刑法の役割	環境保護のための民法・行政法・刑法の果たすべき各法的役割を理解する。
第3回	企業犯罪と行政刑法での法人処罰	両罰規定における行為者の処罰と事業主（自然人・法人）の処罰について理解する。
第4回	公害刑法および環境刑法の歴史	四大公害事件の公害対策基本法と地球環境時代の環境基本法との理論的差異について学ぶ。
第5回	公害刑法による生命・健康の保護	熊本水俣病事件刑事判決（環境判例百選 105 事件）における胎児性致死傷と公訴時効の問題点について学ぶ。
第6回	公害罪処罰法の危険犯と業務上過失傷害	日本アイロジル塩素ガス流出事件判決（環境判例百選 106 事件）における危険犯処罰・因果関係の推定を理解する
第7回	環境刑法の保護法益（未来世代法益）	リスク社会・執行の赤字と近代刑法の危機に直面する環境刑法の保護法益と犯罪構成要件について学ぶ。
第8回	環境刑法の経済法則と最終手段性	水・空気・生態系等の日常的侵害を防止するには、外部不経済を内部化する犯罪規定が必要になることを理解する。
第9回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（1）	「おから」は、食品（有用物）になることも、産業廃棄物になることもある（環境判例百選 49 事件）。
第10回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（2）	不要物として排出された「木くず」をリサイクルしても「廃棄物」にあたる可能性がある（東京高判平成 20・4・24、同平成 20・5・19）。
第11回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（1）	産業廃棄物の「野積み」も不法投棄にあたる可能性がある（最決平成 18・2・20 刑集 60 巻 2 号 182 頁）。
第12回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（2）（共罰的行為）	産業廃棄物の「野積み」後の「覆土」も不法投棄にあたる（東京高判平 21・4・27）。
第13回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（3）	「し尿汚泥」の処理施設への投入も不法投棄にあたる可能性がある（最決平 18・2・28 刑集 60 巻 2 号 269 頁）。
第14回	廃棄物処理法の不法投棄の共謀共同正犯	硫酸ビッチの処理を委託しただけでも未必の故意による不法投棄罪の共謀共同正犯にあたる（最決平 19・11・14 刑集 61 巻 8 号 757 頁）。
第15回	廃棄物処理法の「産業廃棄物の処理の委託」の意義	産業廃棄物を直接許可業者に委託する場合以外には委託処理違反の罪（25 条 4 号・12 条 3 項）が成立する（最決平 18・1・16 刑集 60 巻 1 号 401 頁）。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業で取り扱った事項について、時折、課題レポートの提出が求められます。

## 【テキスト】

長井 圓著『環境刑法の保護法益と基礎理論』（刊行予定）。

## 【参考書】

『環境法判例百選』（第2版・有斐閣 別冊ジュリスト・2011）、町野朔（長井 圓分担執筆）『環境刑法の総合的研究』（信山社・2003）、中山研一ほか編『環境刑法概説』（成文堂・2003）。

## 【成績評価基準】

出席、課題レポートの提出および小テストで総合評価する予定である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

環境法の理解に不可欠な知識が得られる面白い授業なので、ふるって受講して下さい。

## 【その他】

この授業で刑法に関心を抱いた受講生は、秋学期の開講科目として「刑法の基礎」履修することで、さらに理解が深まります。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 国際環境法

土屋 志穂

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

### 【授業の到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【】

### 【授業の概要と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第14回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第15回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として期末試験による。

授業内で行うアクションペーパーについては、加点要素としてのみ考慮する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

### 【その他】

2011年度までに旧名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目は履修できない。「国際環境法Ⅰ」の再履修者は「国際環境法Ⅰ」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 比較環境法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

### 【授業の到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

【】

### 【授業の概要と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩み I	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩み II	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度 I	わが国の制度と NEPA ①
第5回	環境影響評価制度 II	わが国の制度と NEPA ②
第6回	環境影響評価制度 III	SEA
第7回	自動車排出ガス規制	マスキー規制
第8回	自動車排出ガス規制 2	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策 I	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策 II	外国の制度 ダイオキシン REACH PRTR
第12回	有害物質対策 III	スーパーフンド法とわが国の制度
第13回	土壤汚染対策	温室効果ガス算定報告
第14回	地球環境問題 新エネルギー	RPS法、FIT法など
第15回	むすび	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考書】

授業内で紹介

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

### 【その他】

・この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。  
・2011年度までに旧名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。「国際環境法Ⅱ」の再履修者は「国際環境法Ⅱ」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

## 労働環境法

沼田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

### 【授業の到達目標】

職場における労働環境問題について、基本的な知識が身につく。  
法的問題を通して、労働環境問題について、具体的なイメージをもって考察できる。  
さらに、これらの問題について、私見を述べられる。

【】

### 【授業の概要と方法】

2008年のリーマンショックを契機に、雇用問題についての関心が高まっています。その際によくいわれるのは、「人らしい扱いを。」というものです。このことをILOでは、「ディーセントワーク」といい、その確立を大きな課題としています。労働の現場では、人とモノが有機的に結合して何かを生み出すわけですが、だからといって人は「モノ」ではありません。現代の就労モデルを念頭におく限り、一日のうちの多くの時間が労働に割られます。であれば、労働の環境そのものも、「人らしい扱い」をうけるに相応しいものでなければなりません。

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

また、講義形式を基本とします。

講義では、パワーポイントを利用します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、法学の基礎知識。	講義の進め方や評価方法の説明。簡単な法学全体の話し。
第2回	労働法の全体像と基本原則	「労働環境法」をとりまく講義上の概念である「労働法」の簡単な全体像の説明と基本原則を学習する。
第3回	労働環境と労働基準法上の規制(1)	労働基準法上の規制を守らせるための実効性確保手段を説明する。
第4回	労働環境と労働基準法上の規制(2)	労働時間規制を中心とした問題を扱う。
第5回	労働環境と労働基準法上の規制(3)	時間外労働について説明する。
第6回	職場の人間関係をめぐる問題(1) -セクシュアル・ハラスメント-	セクシュアル・ハラスメントの問題を扱う。
第7回	職場の人間関係をめぐる問題(2) -いじめ-	職場のいじめやパワーハラスメントの問題を扱う。
第8回	安全配慮義務(1)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第9回	安全配慮義務(2)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第10回	労働安全衛生法(1) 安全衛生管理体制ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第11回	労働安全衛生法(2) 健康の維持・増進の措置、快適な職場環境の形成のための措置ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第12回	労働者災害補償保険法(1) 保険関係ほか	実際に労働者が業務上げがをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第13回	労働者災害補償保険法(2) 業務上認定	実際に労働者が業務上げがをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第14回	過重労働、特別な疾病	いわゆる過労死の問題を扱う。
第15回	まとめ	講義のまとめをします。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

配付するプリントを事前に見ておいてください。

### 【テキスト】

プリント教材を配布します。

プリント教材は、事前にホームページからダウンロードして、各自で準備をしてもらいます。ご協力をお願いします。

### 【参考書】

参考書が必要な場合は、講義中に適宜指示いたします。

### 【成績評価基準】

試験と平常点で評価します。

試験と平常点の割合は、9：1です。

試験は期末試験のみ実施します。

平常点は出席調査書に記載される質問内容等で評価します。

講義開始後10～15分後に出席調査票を配布しますので、それ以降の遅刻は正当な理由がない限り、欠席扱いします。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

より具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「自治体環境政策論 I」では、行政学・公共政策学の基礎的な理論や各地の多様な政策実践と関連づけながら、自治体環境政策の構造と過程について検討する。その上で、高度経済成長期から現代に至る自治体環境政策の政策開発の軌跡について検討しながら、現在の状況を確認し、今後を展望する。

## 【授業の到達目標】

・自治体環境政策さらに自治体政策全般に関する行政学や公共政策学の見方を理解する。  
・市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。  
・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を修得し、政策の歴史社会学的な見方を理解する。  
・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。

I]

## 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになってきている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたれている。この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念と総合的な地域環境空間づくりをプロローグとして、次に自治体環境政策を素材としながら、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。取り上げる個別政策領域としては、ヒートアイランド対策、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策、地球温暖化対策などである。

I]

I]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	政策の体系性と地域環境空間形成	自治体の政策体系を確認した後、地域環境空間づくりのモデルにより、政策の総合性について検討する。
第3回	地域環境空間形成のケース	地域環境空間形成に関する具体的なケースを取り上げながら、政策実践上の論点を検討する。
第4回	政策過程のサイクル・モデルと問題の定義	公共政策としての自治体環境政策の動態を理するため、政策過程のサイクルモデルを提示した上で、初期のステージである「公共問題の構造化」について検討する。
第5回	ヒートアイランドの問題構造と公共政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。
第6回	政策課題の設定（アジェンダ・セッティング）と自治体環境政策	「政策の窓が開く」時である「政策課題の設定」の局面について、NPO・NGOの役割、環境正義、市民参加との関連性をふまえながら検討する。
第7回	政策構造と自治体環境政策	政策資源、政策手段の設計と政策の表現形態という側面から政策構造について、自治体環境政策とのかかわりで検討する。
第8回	自治体環境政策における政策選択と政策責任	自治体環境政策の政策選択について、「二重の不確実性」という特性から検討した上で、政策責任の履行について課題を提示する。
第9回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第10回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。

第11回	第1世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第12回	第2世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第13回	アーバンデザインと現代の都市政策	第2世代の自治体環境政策の時代からはじまったアーバンデザインについて検討し、地域の持続可能性という視点から、現代の都市政策の課題について言及する。
第14回	第3世代の自治体環境政策の登場	地球環境問題への対応を目的として登場した第3世代の自治体環境政策に関する法制度、行政計画などについて、「環境政策の多次元化」の進展という文脈で、20世紀後半から現代に至る社会情勢をふまえながら検討する。
第15回	第3世代の自治体環境政策の動向と近未来	第3世代の自治体環境政策にかかわる政策実践の動向、地球温暖化問題に対する「緩和」と「適応」という政策類型をふまえた地域におけるこれからの政策課題について検討する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

## 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

成績は、論述試験（80～90%）＋ミニレポート（10～20%）で評価する。配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成するなど、復習をしっかり行えば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

- ・自治体は身近なところにあるながら具体的にどのような政策を行っているのか、学生は意外と知らなかったようですが、様々な自治体の政策実践に関する最新情報の提供は、イメージをつかむのに役立ったようです。
- ・用語の説明をさらにていねいに行うこと、学生との対話をさらに増やしていくことが必要だと感じました。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

## 【その他】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・「地域環境共生コース」の関連科目をあわせて履修することも推奨します。
- ・「自治体環境政策論 I」から「自治体環境政策論 II」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。
- ・2011年度までに旧名称「地方自治論 II」を修得済の場合、本科目は履修できません。「地方自治論 II」の再履修者は「地方自治論 II」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 自治体環境政策論 II

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「地方自治論」および「自治体環境政策論 I」の各論として、この講義では、「持続可能な地域社会」とは何かということを考えながら、そのような社会を構築するための自治体環境政策と自治体政策全体について検討する。

## 【授業の到達目標】

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範・政策原則を理解する。
- ・持続可能性からみた自治体政策の構図を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。

[]

## 【授業の概要と方法】

「自治体環境政策論 I」で提示する政策の歴史的發展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった視野の広さと言い換えが必要である。

この講義では、第1に、「持続可能な地域社会」の概念の構成と政策規範・政策原則について、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という言説や都市的地域－非都市的地域（農山村、漁村等）の関係性などを手がかりとしながら検討する。

第2に、自治体環境政策の推進メカニズムとして、政策統合、政策手段の複合（ポリシー・ミックス）などを取り上げる。

第3に、具体的な政策展開として、「持続可能な地域社会」に関する都市的地域と非都市的地域のそれぞれの取り組みについて、海外と国内の動向を検討する。さらに自治体環境政策の個別テーマのうち循環型社会の構築と都市緑地の保全を取り上げる。

最後に、政治学や行政学概念である「ガバナンス」という言葉が、1990年代から、公共政策の領域において世界的に広がっていき、「環境ガバナンス」という言葉も使われるようになってきたことをふまえて、市民参加やステークホルダーとの協働、環境マネジメントシステム、環境アセスメントに言及しながら、この講義を総括する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「持続可能な地域社会」の社会像	はじめにこの講義の導入として、「持続可能性」の概念を2つの政策倫理の視点から確認しながら、「持続可能な地域社会」のイメージと政策課題を検討する。
第2回	「グローバルに考え、ローカルに行動する」の再考	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という言説を再検討しながら、政策規範として再構成する。
第3回	地域間責任共有論と自治体間の政策協調	政策規範としての地域間責任共有論と自治体間の政策協調に関するモデルを提示しながら、現在の政策課題を検討し、さらに今後の方向性について展望する。
第4回	持続可能性の多面的構成と地域政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成とそれらの関係性について、地域社会における具体的な政策課題とともに検討する。
第5回	「政策統合」と自治体環境政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「政策統合」の考え方と、具体的な政策実践を検討する。
第6回	自治体環境政策の手段構成とポリシー・ミックス	環境行政法政策の分類を援用しながら行政学・公共政策学の視点により、自治体環境政策の手段類型を検討し、さらにポリシー・ミックスの重要性について言及する。
第7回	「持続可能な都市」のトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第8回	「持続可能な都市」への政策実践と関連概念	「持続可能な都市」に関する政策実践について検討した後、関連概念であるコンパクトシティや創造都市について言及する。

第9回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的發展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第10回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第11回	循環型社会と自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、家庭系一般廃棄物の有料化や容器包装リサイクル法に関する政策動向について検討する。
第12回	「地域循環圏」の構築と自治体環境政策の多様性	「地域循環圏」という政策原則の提唱について検討した上で、地域特性に応じた自治体環境政策による圏域構築の可能性について展望する。
第13回	里地・里山保全に関する政策実践のケース	都市における緑の保全のうち、里地・里山保全に関する自治体環境政策のケースについて検討する。
第14回	緑の保全に関する自治体環境政策のスキーム	都市における緑の保全に関する法制度、ナショナルトラスト、「新しい公共」といわれる協働型管理など、自治体環境政策のスキームを確認し、さらに今後の方向性について展望する。
第15回	「環境ガバナンス」と自治体環境政策	主として政治学や行政学の一般的概念である「ガバナンス」と、「環境ガバナンス」という概念を確認しながら、市民参加、NPO・NGO、企業などのステークホルダーと自治体の協働、環境マネジメントシステムや環境アセスメントなどのツールなどについて言及する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関する報道などの情報収集に努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

## 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
- ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
- ・『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
- ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。

上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

成績は、論述試験（80～90%）＋ミニレポート（10～20%）で評価する。配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成するなど、復習をしっかり行えば、試験において一定水準以上の論述は可能である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

- ・新規科目の担当のため、アンケートはありませんが、2012年度の授業の内容をさらに発展させていくつもりです。
- ・学生との対話をさらに増やしていく必要があると感じました。
- ・この授業については、新規ということもあり、あえてパワーポイントの利用は最小限にして、板書と話を中心に展開しましたが、さらに進め方を工夫していくつもりです。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配布資料以外の情報をスクリーンで投影する。

## 【その他】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・「地域環境共生コース」の関連科目を合わせて履修することも推奨します。
- ・「自治体環境政策論 I」から「自治体環境政策論 II」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 日本公害史と法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

我が国は殖産興業政策のもとで明治時代から鉱害や産業公害に対応してきたが、戦後経済成長期にそのスケールを増して被害を引き起こした。この授業では、これらの産業公害に対する企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築へ向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

【】

### 【授業の概要と方法】

我が国が経験してきた鉱害や産業公害について具体的事例に関して企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。その内容は単に公害環境法の歴史ではなく、日本公害史であるとともに産業史の側面を有している。この授業は環境法Ⅰの高次科目であり、講義ののち学生からの意見、感想、質問を求めることにより講義と研究会の中間形態を目指している。このため、受講者は環境法Ⅰを受講済みであるものを優先し、かつ最大27人の人数制限を設ける。(多数の場合他の講義の受講状況等により選考する)

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ 概要
第2回	殖産興業政策	たたら製鉄 富岡製糸場等 財閥
第3回	紡績	三井、三菱 倉敷
第4回	鉱業と鉱害1	足尾銅山
第5回	鉱業と鉱害2	別子銅山
第6回	鉱業と鉱害3	小坂鉱山 日立鉱山
第7回	石炭と鉱害	筑豊炭坑 三池炭坑
第8回	製鉄と公害	八幡製鉄等 北九州の公害
第9回	自動車	トヨタと日産
第10回	都市公害	大阪、東京のばい煙 浅野セメント
第11回	電気化学工業	野口遵
第12回	化学工業	水俣病、新潟水俣病等
第13回	石油化学工業	コンビナート公害 水鳥等
第14回	自然保護	ナショナルトラスト等
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プリントを学習する。興味をもったテーマを掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考書】

全般にわたるものはない 個別テーマに関しては授業内で紹介

### 【成績評価基準】

授業への貢献度とレポート（公害事件とその対応に関するもの）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

シラバス作成の段階では、授業改善アンケートの結果を受領していない。

### 【その他】

受講者多数の場合は、初回授業において受講者を選考するので初回授業に必ず出席すること。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## アメリカ環境法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

### 【授業の到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、法学を専門としない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割 環境規制の始まりと現代的展開
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境影響評価の仕組み
第3回	連邦環境政策法（1）	具体的事例の検討
第4回	連邦環境政策法（2）	規制内容と具体的訴訟
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	スーパーファンド法等
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制
第15回	自然災害と住民保護	自然災害による損害から住民を救済する法制度

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

まだ授業改善アンケート結果を得ていないので、今後、受講した学生の声を反映して授業を行いたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース



## エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

福島原発事故以来、日本のエネルギー政策が不透明となってきた中、社会問題と経済問題に関する国際的、国内的視野に立って我々の生活の基盤となるエネルギー問題を政策立案という視野に立って議論する。

### 【授業の到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【】

### 【授業の概要と方法】

エネルギーに関する基本的な技術要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を理解する。

90分授業の最初の70分を講義に当て、残りの20分間受講生と質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギー政策論講義概観とエネルギー概論	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、受講背景の基礎となるエネルギーとは何か？その種類は？用途としての特徴は？等の基本概念を解説する。
第2回	エネルギー資源、エネルギーの多様性と利用効率	エネルギーの需給バランスについて資源別に解説すると共に、エネルギーの特性に基づく利用方法のベストミックスの考え方や、利用時のエネルギー損失について解説する。
第3回	エネルギー消費と産業構造、エネルギー供給メカニズム	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までのエネルギーライフサイクルとエネルギー伝達のメカニズムについて解説する。
第4回	公共財としてのエネルギーとエネルギーコスト	公共財としてのエネルギーの特徴とエネルギー価格（コスト）を構成する要素を解説する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を解説する。
第6回	エネルギー供給体制（再生可能エネルギーと省エネルギー）	エネルギー供給体制の実態と課題、及び、利用効率向上のための省エネルギー対策について解説する。
第7回	エネルギー利用とリスク	エネルギーを国民に安心安全な環境で提供するために配慮すべきリスクのあり方について、食糧問題や環境問題にも敷衍して解説する。
第8回	エネルギー税制	エネルギー利用に付帯する各種税とのその用途、活用法の実態を解説する。
第9回	エネルギー価格の変動と各国の需給戦略	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることからエネルギー価格の変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー戦略について解説する。
第10回	エネルギー消費と国際関係	エネルギー消費に付帯する需給問題や、温暖化問題に関連する国際関係について解説する。
第11回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について解説する。

第12回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に、今後の方向性について解説する。
第13回	エネルギー需給予測と将来展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、将来展望について紹介する。
第14回	講義内容のレビューと討論（質疑応答）	これまでの講義内容をレビューし質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。
第15回	期末試験	筆記試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事業日前に次回講義で使用する資料を配信する。受講日までにその内容をよく予習し、授業後半の質疑応答に応じられるように準備学習活動を行うを求める。

### 【テキスト】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

### 【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (2011)
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

### 【成績評価基準】

出席点：10点（ただし出席率70%以上）  
期末試験結果90点（論述式試験による）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター及びパソコン

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みや京都議定書などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

### 【授業の到達目標】

- ・ポスト京都議定書などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベル多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。

[]

### 【授業の概要と方法】

京都議定書の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。この講義では、グローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球環境政治論総論（1）	地球環境政治とは何か
第2回	地球環境政治論総論（2）	地球環境政治の歩み
第3回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方
第4回	地球環境政治へのアプローチ（2）	グローバル・ガバナンスとは何か
第5回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第6回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第7回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター
第8回	地球環境政治のメカニズム（4）	地球環境政治と国内政治
第9回	地球環境政治の 이슈（1）	グローバルとローカルとの相互関係
第10回	地球環境政治の 이슈（2）	環境リージョナリズムの動向
第11回	地球環境政治の 이슈（3）	安全保障の緑化
第12回	地球環境政治の 이슈（4）	地球環境政治とジェンダー
第13回	ポスト京都議定書の国際枠組み（1）	全体像の把握
第14回	ポスト京都議定書の国際枠組み（2）	グローバル・ガバナンスからみた問題点
第15回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく

### 【テキスト】

宮脇昇・庄司真理子編『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年

### 【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年

亀山康子・高村ゆかり編『気候変動と国際協調』慈学社、2011年

山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論 新版』有斐閣、2011年

### 【成績評価基準】

レポート類の提出を前提とし、筆記試験の結果で評価する

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生のペースに配慮すること

### 【その他】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。進度により講義内容を変更することがあります。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 地方自治論Ⅰ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、自治体環境政策、自治体政策全般、まちづくり・地域づくり、さらに現代の地域社会の状況を理解する前提として、地方自治の基本的考え方や歴史とともに、地方自治の制度と動向について検討する。また地方自治の視点から現代社会を考察し、これからの時代を展望する。

### 【授業の到達目標】

- ・地方自治の歴史・理論、制度、現在の動向に関する基礎知識や思考方法の習得により、市民・地域人としての教養を身につける。
- ・報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を理解する力を身につける。
- ・人間環境学部の地域に関する政策科目の履修の基礎となる知識、思考方法を身につける。
- ・地方自治や地域に関連した職業を志望する場合の基礎教養を身につける。

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに自治体環境政策、自治体政策全般との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と自治体の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、その論理と改革の構図をみていく。最後に、自治体が市民に対して責任を負い、地域社会において総合かつ自主的にまちづくり・地域づくりを担う「市民の政府」になっていくという理念について、最新の動向とともに検討する。なお、可能なかぎり新聞記事などの資料を配付し、地方自治、地域社会という視点から時事問題をとりあげ、学生と対話する機会をつくる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第2回	地方自治の歴史と世界	地方自治の歴史について世界史的視野から再検討する。
第3回	地方自治の歴史と近代日本	近代日本の地方自治史について、地域環境の視点を交えて再検討する。
第4回	地方自治の基礎理論	地方自治の理論に関する基礎的な部分を取り上げる。
第5回	二層制と基礎自治体の再編	日本の地方自治の基本構造である二層制を説明した上で、市町村合併による基礎自治体の再編について検討する。
第6回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第7回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第8回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第9回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について検討する。
第10回	二元代表制と地域政治	権力分立と機関対立主義の考え方、地域政治の歴史的推移の検討により、二元代表制における首長と議会の関係性を再考する。
第11回	二元代表制のこれから	二元代表制の現状と課題、展望について検討する。
第12回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。
第13回	政府間関係のモデルと中央集権システム	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論とともに、明治時代以降形成にされてきた日本の中央集権システムについて検討する。
第14回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第15回	「市民の政府」に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」でもある自治体の課題と自己改革について検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。

- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する情報についてアンテナをつくるために、新聞やテレビの報道に接するように努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配布する。

### 【参考書】

- ・『ホーンブック 地方自治（改訂版）』北樹出版、2011年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（80～90%）＋ミニレポート（10～20%）で評価する。配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成するなど、復習をしっかりといえれば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年3月11日の東日本大震災以後、地方自治の視点から被災地の状況についてたびたび言及してきました。その結果、時事情報の読み方として役立ったようです。また時事情報に目を向ける機会を提供したようです。私も、リアルタイムの情報を活用していくことが、地方自治のリテラシー教育として重要であると再認識し、同時に学問の社会的関連性を考えさせられ、貴重な経験になっています。したがって、今後とも地方自治の制度解説などにとどまらず、地方自治を手がかりとして現代社会を考えるスタンスでのぞみたいと思います。

- ・技術的には、専門用語の説明、パワーポイントの使い方などについて、なお工夫が必要であると感じています。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

- ・基幹科目として実施する「地方自治論」は、法学政治系の「自治体環境政策論Ⅰ」、「自治体環境政策論Ⅱ」だけではなく、「地域環境共生コース」に関連する政策科目の基礎という位置にあります。
- さらに他の4つのコースも含め、人間環境学部で幅広く学んでいく時にどこかで地方自治の話は関連してくるといえます。ですからこの授業を通して、学生のみならずとともに、人間環境学部で地方自治を学ぶ意義について考えていきたいと思っています。
- ・「地方自治論」と同様の基礎的な位置にある関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、学部専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」、「地域形成論」なども履修することを推奨します。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 地方自治論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「地方自治論Ⅱ」（新「自治体環境政策論Ⅰ」）では、行政学・公共政策学の基礎的な理論や各地の多様な政策実践と関連づけながら、自治体環境政策の構造と過程について検討する。その上で、高度経済成長期から現代に至る自治体環境政策の政策開発の軌跡について検討しながら、現在の状況を確認し、今後を展望する。

### 【授業の到達目標】

- ・自治体環境政策さらに自治体政策全般に関する行政学や公共政策学の見方を理解する。
- ・市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。
- ・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を修得し、政策の歴史社会学的な見方を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。

【】

### 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになってきている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたれている。

この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念と総合的な地域環境空間づくりをプロローグとして、次に自治体環境政策を素材としながら、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。

取り上げる個別政策領域としては、ヒートアイランド対策、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策、地球温暖化対策などである。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	政策の体系性と地域環境空間形成	自治体の政策体系を確認した後、地域環境空間づくりのモデルにより、政策の総合性について検討する。
第3回	地域環境空間形成のケース	地域環境空間形成に関する具体的なケースを取り上げながら、政策実践上の論点を検討する。
第4回	政策過程のサイクル・モデルと問題の定義	公共政策としての自治体環境政策の動態を理するために、政策過程のサイクルモデルを提示した上で、初期的ステージである「公共問題の構造化」について検討する。
第5回	ヒートアイランドの問題構造と公共政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。
第6回	政策課題の設定（アジェンダ・セッティング）と自治体環境政策	「政策の窓が開く」時である「政策課題の設定」の局面について、NPO・NGOの役割、環境正義、市民参加との関連性をふまえながら検討する。
第7回	政策構造と自治体環境政策	政策資源、政策手段の設計と政策の表現形態という側面から政策構造について、自治体環境政策とのかかわりについて検討する。
第8回	自治体環境政策における政策選択と政策責任	自治体環境政策の政策選択について、「二重の不確実性」という特性から検討した上で、政策責任の履行について課題を提示する。
第9回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。

第10回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第12回	第2世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第13回	アーバンデザインと現代の都市政策	第2世代の自治体環境政策の時代からはじまったアーバンデザインについて検討し、地域の持続可能性という視点から、現代の都市政策の課題について言及する。
第14回	第3世代の自治体環境政策の登場	地球環境問題への対応を目的として登場した第3世代の自治体環境政策に関する法制度、行政計画などについて、「環境政策の多次元化」の進展という文脈で、20世紀後半から現代に至る社会情勢をふまえながら検討する。
第15回	第3世代の自治体環境政策の動向と近未来	第3世代の自治体環境政策にかかわる政策実践の動向、地球温暖化問題に対する「緩和」と「適応」という政策類型をふまえた地域におけるこれからの政策課題について検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

### 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（80～90%）＋ミニレポート（10～20%）で評価する。配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成する、復習をしっかりと行えば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

- ・自治体は身近なところにありながら具体的にどのような政策を行っているのか、学生は意外と知らなかったようですが、様々な自治体の政策実践に関する最新情報の提供は、イメージをつかむのに役立ったようです。
- ・用語の説明をさらにていねいに行うこと、学生との対話をさらに増やしていくことが必要だと感じました。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

- ・基幹科目の「地方自治論」（旧「地方自治論Ⅰ」）はこの授業の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・「地域環境共生コース」の関連科目をあわせて履修することも推奨します。
- ・「地方自治論Ⅱ」（新「自治体環境政策論Ⅰ」）から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**国際環境法 I**

土屋 志穂

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

**【授業の到達目標】**

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

[]

**【授業の概要と方法】**

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	貿易と環境	GATT/WTOと環境問題
第14回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第15回	期末試験	筆記試験

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト】**

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【成績評価基準】**

期末試験による。

授業内で行うアクションペーパーについては、加点要素としてのみ考慮する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

これまでと同様の方法で進める。

**【その他】**

再履修者のみ。

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

**国際環境法 II**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

**【授業の到達目標】**

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

[]

**【授業の概要と方法】**

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩み I	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩み II	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度 I	わが国の制度と NEPA ①
第5回	環境影響評価制度 II	わが国の制度と NEPA ②
第6回	環境影響評価制度 III	SEA
第7回	自動車排出ガス規制	マスキー規制
第8回	自動車排出ガス規制 2	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策 I	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策 II	外国の制度 ダイオキシン REACH PRTR
第12回	有害物質対策 III	スーパーファンド法とわが国の制度
第13回	土壌汚染対策	温室効果ガス算定報告
第14回	地球環境問題 新エネルギー	RPS法、FIT法など
第15回	むすび	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト】**

プリント

**【参考書】**

授業内で紹介

**【成績評価基準】**

定期試験による。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

**【その他】**

この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

**国際法 I (教職)**

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成及び紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

**【授業の到達目標】**

国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。  
国際社会への日本の参加について知る。

[]

**【授業の概要と方法】**

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国際法とは？ 本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原則	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的發展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト】**

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

**【成績評価基準】**

原則として期末試験による

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

前年度に合わせて行う。

**国際法 II (教職)**

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

**【授業の到達目標】**

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的發展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第 13 回	武力紛争法規 (国際人道法) (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	武力紛争法規 (国際人道法) (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第 15 回	期末試験	筆記試験

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト】**

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

**【成績評価基準】**

原則として期末試験による

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

前年度に合わせて講義を行う。

**【その他】**

履修者は国際法 I を履修済みであることが望ましい。

## ミクロ経済学 I

林 直嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

ミクロ経済学は価格や生産量などミクロの経済量をベースに、消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を分析する。経済のミクロ的な諸問題を易しく解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることがテーマである。

### 【授業の到達目標】

各個人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、皆さんはミクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより各種資格試験や就職試験のための実践力を養う。

【】

### 【授業の概要と方法】

消費者はどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について易しく、しかも体系的に講義する。

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。また章ごとに問題演習を行い、レポート提出や小テスト、ディスカッションなどを行うこともある。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済とミクロ経済学 (1)	ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説する。
第 2 回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明する。
第 3 回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説する。
第 4 回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明する。
第 5 回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明する。
第 6 回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明する。
第 7 回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説する。
第 8 回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明する。
第 9 回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明する。
第 10 回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説する。
第 11 回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明する。
第 12 回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説する。
第 13 回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説する。
第 14 回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説する。
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめをする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

### 【テキスト】

林 直嗣著『経済学入門』新世社（入門の教科書）

林 直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）

### 【参考書】

林 直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）

### 【成績評価基準】

定期試験を行う。レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。出席を取る時もある。それらの総合点を出して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

### 【その他】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## ミクロ経済学Ⅱ

林 直嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

ミクロ経済学は価格や生産量などミクロの経済量をベースに、消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を分析する。経済のミクロ的な諸問題を易しく解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることがテーマである。

### 【授業の到達目標】

各個人の身の回りから日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解する力をつけることを目標とする。この講座をとることにより、皆さんはミクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実社会に出て役に立つ分析力を養うトレーニングも目標とする。それにより各種資格試験や就職試験のための実践力を養う。

[]

### 【授業の概要と方法】

消費者はどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などどう配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意思決定機構はどう可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について易しく、しかも体系的に講義する。

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。また章ごとに問題演習を行い、レポート提出や小テスト、ディスカッションなどを行うこともある。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	独占市場(1)	完全独占の基礎理論を解説する。
第2回	独占市場(2)	独占の進んだ問題を解説する。
第3回	独占市場(3)	寡占理論の核心を解説する。
第4回	独占市場(4)	寡占理論の進んだ考え方を説明する。
第5回	所得分配(1)	所得分配の基礎理論を説明する。
第6回	所得分配(2)	所得分配の進んだ問題を解説する。
第7回	資本と利子(1)	資本理論の核心を解説する。
第8回	資本と利子(2)	資本理論の進んだ問題を説明する。
第9回	厚生経済学と社会的選択(1)	厚生経済学のエッセンスを解説する。
第10回	厚生経済学と社会的選択(2)	市場の失敗の諸問題を考える。
第11回	厚生経済学と社会的選択(3)	厚生経済学の進んだ問題を考える。
第12回	情報と不確実性の経済学(1)	情報と不確実性の基礎理論を説明する。
第13回	情報と不確実性の経済学(2)	情報と不確実性の進んだ問題を理論的に分析する。
第14回	情報と不確実性の経済学(2)	情報と不確実性の応用問題を考察する。
第15回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめをする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を聴講し、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

### 【テキスト】

林 直嗣著『経済学入門』新世社（入門の教科書）

林 直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）

### 【参考書】

林 直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）

### 【成績評価基準】

定期試験を行う。レポート提出ないし小テストをさらに加えることもある。出席を取る時もある。それらの総合点を出して、問題の難易度や当該クラスのでき具合などをすべて調整した上で、全員の得点分布を算出し、その得点分布に基づく合理的で歪みのない相対評価により成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

### 【その他】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているため、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース



## マクロ経済学Ⅰ

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

GDP、消費、投資、政府支出、物価指数等、経済関連ニュースに登場するマクロ経済学の基本的概念を修得し、マクロ経済現象が発生するメカニズムについて学習する。

## 【授業の到達目標】

1. マクロ経済現象を経済学の考え方に基づいて説明できるようになること。
2. 表やグラフからマクロ経済現象の特徴や変化を読み取れるようになること。

[]

## 【授業の概要と方法】

マクロ経済学でよく利用される経済指標を紹介した後、一国の経済力がどのように決定されるのか、財政政策や金融政策が経済にどのような影響を与えるのかといった、マクロ経済学の基本的な考え方を学習する。経済学を初めて学習する人を対象に、下記テキストに沿って授業を進める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済学とはどのような学問か、春学期授業内容の紹介
第2回	マクロ経済学のとらえ方(1)	分析対象、マクロ経済学に対する2つの考え方、家計・企業・政府の役割
第3回	マクロ経済学のとらえ方(2)	GDP（一国の経済力の代表的指標）、物価、経済成長率
第4回	マクロ経済における需要と供給	マクロ経済における需要・供給と現実のGDPとの関係
第5回	有効需要と乗数メカニズム(1)	GDPの決定メカニズム
第6回	有効需要と乗数メカニズム(2)	投資と政府支出の増加がGDPに与える影響
第7回	貨幣の機能と信用創造	貨幣、金融システム、金融政策の影響
第8回	貨幣需要と利子率(1)	利子率、貨幣需要、国債価格と金利との関係
第9回	貨幣需要と利子率(2)	貨幣保有動機、貨幣量と物価との関係
第10回	財政政策の基本的構造(1)	国民負担率、景気対策、累進課税、国と地方政府
第11回	財政政策の基本的構造(2)	政府の課税がGDPに与える影響、公債負担、減税の有効性
第12回	財政・金融政策とマクロ経済(1)	政策目標と政策手段との関係、裁量ルールか
第13回	財政・金融政策とマクロ経済(2)	IS-LM分析
第14回	財政・金融政策とマクロ経済(3)、まとめ	財政政策と金融政策の効果、春学期授業内容の確認
第15回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

## 【テキスト】

『マクロ経済学』第2版、伊藤元重著、日本評論社、2012年。

## 【参考書】

『マクロ経済学・入門』第4版、福田慎一・照山博司、有斐閣、2011年。

『図解雑学マクロ経済学』井堀利宏著、ナツメ社、2002年。

## 【成績評価基準】

最終回に期末テスト（100点満点、60分）を実施します。A+（100 - 90点）、A（89 - 80点）、B（79 - 70点）、C（69 - 60点）、D（59点以下）、E（未受験）の6段階で評価します。ただし、A+の割合は、科目受講者数の20%以内とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

初回の授業でマクロ経済学の全体像について説明します。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## マクロ経済学Ⅱ

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

GDP、消費、投資、政府支出、物価指数等、経済関連ニュースに登場するマクロ経済学の基本的概念を修得し、マクロ経済現象が発生するメカニズムについて学習する。

## 【授業の到達目標】

1. マクロ経済現象を経済学の考え方に基づいて説明できるようになること。
2. 表やグラフからマクロ経済現象の性質や変化を読み取れるようになること。

[]

## 【授業の概要と方法】

マクロ経済学Ⅰで学習したマクロ経済学の基本的な考え方を利用して、失業率、インフレ、デフレ、円高等のマクロ経済現象について学習する。経済学を初めて学習する人を対象に、下記テキストに沿って授業を進める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期授業内容の確認、秋学期授業内容の紹介
第2回	総需要と総供給(1)	物価水準の決定、総需要曲線
第3回	総需要と総供給(2)	物価水準と雇用量との関係、総供給曲線
第4回	労働市場の機能と失業問題(1)	失業の原因、自然失業率の決定
第5回	労働市場の機能と失業問題(2)	失業率上昇の原因、日本の失業
第6回	インフレーションとデフレーション	物価水準の指標、インフレ・デフレのコスト、物価上昇率と金利
第7回	財政破綻と財政健全化	財政危機、公的債務、財政の持続可能性、財政健全化
第8回	金融政策と金融システム	金利政策、流動性の罫、非伝統的金融政策、銀行システム
第9回	国際金融市場と為替レート(1)	為替レートの決定、外国為替市場、為替レートの指標
第10回	国際金融市場と為替レート(2)	長期的な為替レートの動き、為替レートと貿易・国内物価との関係
第11回	通貨制度とマクロ経済政策(1)	2つの通貨制度、開放経済における財政政策と金融政策の効果
第12回	通貨制度とマクロ経済政策(2)	国際収支、經常収支の決定要因
第13回	経済成長と経済発展(1)	経済成長のメカニズム、人的資源、技術革新
第14回	経済成長と経済発展(2)、まとめ	国際投資、貧困の罫、地球環境問題、春学期授業内容の確認
第15回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

## 【テキスト】

『マクロ経済学』第2版、伊藤元重著、日本評論社、2012年。

## 【参考書】

『マクロ経済学・入門』第4版、福田慎一・照山博司、有斐閣、2011年。

『図解雑学マクロ経済学』井堀利宏著、ナツメ社、2002年。

## 【成績評価基準】

最終回に期末テスト（100点満点、60分）を実施します。A+（100 - 90点）、A（89 - 80点）、B（79 - 70点）、C（69 - 60点）、D（59点以下）、E（未受験）の6段階で評価します。ただし、A+の割合は、科目受講者数の20%以内とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

初回の授業でマクロ経済学Ⅰの学習内容を確認します。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につけること。

### 【授業の到達目標】

以下の事項の理解：

- ・厚生経済学の第一基本定理
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決方法
- ・環境税と排出権取引の同等性
- ・逆選択モデルの基本

[]

### 【授業の概要と方法】

ミクロ経済学の復習を行った後、公共政策の必要要件（市場の失敗（公共財、外部性）、情報非対称性問題（逆選択）等）、及び、その解決方法（外部性の内部化、メカニズムデザインの初歩等）について学ぶ。またこれらに基づき、環境政策等の典型事例の分析を行う。（なお、授業計画は、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。）

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ミクロ経済学とゲーム理論の初歩について配布資料の自習

### 【テキスト】

特になし

### 【参考書】

林貴志著「ミクロ経済学」（ミネルヴァ書房）；他は初回授業時に指示

### 【成績評価基準】

試験（必須）、及び、課題（optional）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

公共経済学の基礎となるミクロ経済学の諸概念について、より直観的な説明を行う。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 簿記入門Ⅰ・Ⅱ

北田 皓嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

企業会計の基礎である複式簿記の基礎的な事項の学習が本講義の目的です。

## 【授業の到達目標】

講義や演習を通じて帳簿記帳および基礎となる会計理論の習得を目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

講義形式で行います。また必要に応じて記帳・計算演習を交えながら習得していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明、簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第2回	資産・負債・純資産(1)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第3回	資産・負債・純資産(2)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第4回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算書の仕組みについて学習していきます。
第5回	取引	簿記上の取引の意味、取引要素について学習していきます。
第6回	仕訳(1)	仕訳の意味の学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第7回	仕訳(2)	仕訳の意味の学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第8回	勘定記入	総勘定元帳の意味、総勘定元帳への転記の仕方について学習します。
第9回	帳簿	帳簿の種類と、伝票による処理について学習します。
第10回	試算表の作成	試算表の種類と作成の方法について学習します。
第11回	決算手続き(1)	決算の意義や精算表の仕組み、6桁精算表の作成の方法について学習します。
第12回	決算手続き(2)	総勘定元帳と仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成の方法について学習します。
第13回	決算手続き(3)	損益計算書・貸借対照表の作成の方法について学習します。
第14回	現金・預金の記帳	現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金について学習します。
第15回	まとめと復習問題	総合練習問題を行います。
第16回	商品売上の記帳(1)	3分法と分記法と違いについて説明するとともに、仕訳帳と売上帳について学習します。
第17回	商品売上の記帳(2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第18回	掛取引の記帳	売掛金・買掛金および貸倒れについて学習します。
第19回	手形取引の記帳(1)	受取手形および支払手形について学習します。
第20回	手形取引の記帳(2)	手形の意味や種類について説明するとともに、手形の処理について学習します。
第21回	その他の債権債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券について学習します。
第22回	有価証券の記帳	有価証券の処理および利息と配当金の処理について学習します。
第23回	固定資産の記帳(1)	固定資産の取得および減価償却の処理について学習します。
第24回	固定資産の記帳(2)、営業費の記帳	固定資産の売却時の処理および各種営業費の処理について学習します。
第25回	税金の記帳	税金の処理について学習します。
第26回	資本金と引出金	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第27回	決算手続き(1)	決算整理事項について学習します。
第28回	決算手続き(2)	8桁精算表の作成方法について学習します。

第29回 帳簿の締切り 仕訳帳の締切りや総勘定元帳の締切り

について学習します。

第30回 まとめと復習問題

総合練習問題を行います。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

講義後に復習として演習問題を解いてみてください。

## 【テキスト】

大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦著『簿記講義ノート』白桃書房。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

## 【成績評価基準】

各期末の定期試験によって評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

各トピックごとに練習問題を授業の中で解いていきます

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

### 【授業の到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

[]

### 【授業の概要と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 経営とは何か	講義の進め方 講義の全体像
第2回	企業とは何か 企業家ケース①	会社企業の成立 渋沢栄一
第3回	製品・サービスの提供 企業家ケース②	在来産業の革新 [郡是製糸] 波多野鶴吉
第4回	株式会社の仕組みと課題 企業家ケース③	大企業時代の到来 [鐘淵紡績] 武藤山治
第5回	大企業の機能と専門経営者 企業家ケース④	「都市型」産業の誕生 [阪急電鉄] 小林一三
第6回	企業の大規模化と組織の変革 企業家ケース⑤	地方企業からの発展 [ブリヂストン] 石橋正二郎
第7回	経営管理の理念と機能 企業家ケース⑥	大衆消費社会の出現 [パナソニック] 松下幸之助
第8回	日本的経営の構造 企業家ケース⑦	町工場から国際企業へ [ソニー] 井深大・盛田昭夫
第9回	ITと企業競争力 企業家ケース⑧	日本型生産システムの形成 《トヨタ自動車》豊田佐吉・喜一郎
第10回	マーケティング 企業家ケース⑨	ベンチャー企業の躍進 [京セラ] 稲盛和夫
第11回	製品開発戦略 企業家ケース⑩	流通革命の進展 [ダイエー] 中内功
第12回	コーポレート・ファイナンス 企業家ケース⑪	事業のリストラクチャリング [アサヒビール] 樋口廣太郎
第13回	財務情報の開示 企業家ケース⑫	新サービス産業の開拓者 [ヤマト運輸] 小倉昌男
第14回	経営分析と企業価値 企業家ケース⑬	企業評価の手法 そごう
第15回	よい会社とは何か 企業家ケース⑭	事業ドメインの転換 浜松オートバイ物語

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

### 【テキスト】

毎回、レジュメを配布します。

宇田川勝・生島淳編著『企業家に学ぶ日本経営史-テーマとケースでとらえよう』有斐閣、2011年

### 【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第3版』ミネルヴァ書房、2008年

柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第3版）』日本経済新聞社、2006年  
武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002年

### 【成績評価基準】

中間レポート： 50%

期末試験： 50%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 環境経済論Ⅰ

内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境学の視点から見た環境問題の捉え方を講義します。環境問題はさまざまな経済活動に伴って発生していることから、環境と経済の関係について体系的に理解し、環境問題解決のためにはどのような対処方法があるのかを検討します。

## 【授業の到達目標】

環境問題について経済学的側面から考える際に必要となる基礎的で重要な概念・考え方を習得することを目指します。さらに習得した事項を現実の問題に適用できるような応用力も養成したいと考えています。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初に環境経済学の学習に不可欠なツールであるミクロ経済学の基礎的な概念を習得した後、市場経済の問題点と環境問題発生メカニズムの関係、最近注目されている環境問題解決のための経済的手段など、環境経済学のオーソドックスなトピックスについて基礎的事項を解説します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、および環境問題と経済活動の関係について
第2回	環境問題の歴史と類型	わが国を中心とする公害問題や地球環境問題の歴史的概観
第3回	ミクロ経済学の復習(1)	需要と供給の概念
第4回	ミクロ経済学の復習(2)	限界概念、および消費者余剰と生産者余剰
第5回	ミクロ経済学の復習(3)	パレート効率性について
第6回	環境問題の原因(1)	外部性と市場の失敗
第7回	環境問題の原因(2)	公共財と市場の失敗
第8回	環境問題の原因(3)	共有資源の利用と管理について
第9回	環境政策の目標・手段・主体	環境政策の目的とそれを実現するための目標設定と手段、実施主体について
第10回	環境政策の考え方(1)	規制的手段の考え方
第11回	環境政策の考え方(2)	環境税の考え方
第12回	環境政策の考え方(3)	補助金の考え方
第13回	環境政策の考え方(4)	デポジット制度の考え方
第14回	環境政策の考え方(5)	当事者交渉による環境問題解決の考え方とコースの定理について
第15回	環境政策の考え方(6)	排出権取引の考え方

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

使用する概念・道具はその都度解説しますが、「ミクロ経済学」、「公共経済学」等を履修済み、または並行して履修していると理解が深まると思われま

## 【テキスト】

特定の教科書は使用しません。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、授業全体を通じては以下の書籍が参考になります。  
 ・R. K. ターナー他(大沼あゆみ訳)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社、2001年。  
 ・栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ(第2版)』、有斐閣、2012年。

## 【成績評価基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度からの担当のため、なし。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 環境経済論Ⅱ

内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境経済論Ⅰに引き続き、環境問題と経済活動の関係について体系的に理解し、環境問題解決のために必要な基本的フレームワークを習得します。さらにいくつかの具体的な環境問題を素材にして、学習した事項を適用することも試みます。

## 【授業の到達目標】

環境問題について経済学的側面から考える際に必要となる基礎的で重要な概念・考え方を習得することを目指し、さらにそれらを応用する力を獲得することも視野に入れます。

[]

## 【授業の概要と方法】

引き続き、環境経済学のオーソドックスなトピックスについて基礎的事項を解説しますが、とくに環境経済論Ⅱでは自然資源の最適な利用などの資源経済学の基礎、環境をどのように評価するのにかに関するいくつかの手法などを中心に学習します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第2回	環境問題と貿易	貿易が環境問題に与える影響、環境政策が貿易に与える影響について
第3回	経済発展と環境	持続可能な発展の概念、および環境クズネット曲線の議論について
第4回	再生可能資源の最適管理(1)	漁場の経済学
第5回	再生可能資源の最適管理(2)	森林の経済学
第6回	非再生可能資源の最適管理	鉱物資源の経済学
第7回	環境の価値	環境の経済的価値、割引率の考え方について
第8回	費用・便益分析	費用・便益分析の考え方について
第9回	環境の価値評価(1)	表明選好法による便益評価方法
第10回	環境の価値評価(2)	顕示選好法による便益評価方法
第11回	地球温暖化問題	経済的手法の適用について
第12回	エネルギー問題	枯渇性資源と省エネ、再生可能エネルギー
第13回	廃棄物とリサイクル	廃棄物管理の経済的手法について
第14回	生物多様性	生物多様性の重要性と価値評価
第15回	まとめ	全体の復習

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

「環境経済論Ⅰ」の履修を前提とします。また、使用する概念・道具はその都度解説しますが、「ミクロ経済学」、「公共経済学」等を履修済み、または並行して履修していると理解が深まると思われま

## 【テキスト】

特定の教科書は使用しません。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、授業全体を通じては以下の書籍が参考になります。  
 ・R. K. ターナー他(大沼あゆみ訳)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社、2001年。  
 ・栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ(第2版)』、有斐閣、2012年。

## 【成績評価基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度からの担当のため、なし。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 環境経営論 I

川村 雅彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境経営 I は理論編である。環境経営とは、持続可能な地球環境と地球社会の実現のため、業種を問わず、本業において環境に配慮した企業経営である。現代の企業は巨大化し地球環境に様々な影響を及ぼす半面、地球環境問題を解決できるキープレイヤーでもある。企業経営では「環境コストの内部化」と「市場のグリーン化」の認識が不可欠である。キーワードは「持続可能性」である。

### 【授業の到達目標】

- ①地球環境問題の基本構造を理解したうえで、企業の環境経営の考え方を理解する。
- ②地球環境問題と企業経営の関係について、「自らの考え方」を確立する。
- ③環境経営の「知識」より「考え方」を問う。

[]

### 【授業の概要と方法】

環境経営は突然始まったものではない。環境経営論 I（理論編）では、環境経営の登場要因と概念を理解したうえで、市場のグリーン化、環境リスク・チャンス、環境経営の評価指標、グローバル化と環境経営、最後に 21 世紀の持続可能性ビジョンについて学習する。授業では、特定企業の環境経営を実際に評価する。なお、環境経営論 II（実践編）では、製造業だけでなく金融業を含む非製造業の具体的な取組内容を学習するため、両方の受講を勧める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義方針、環境経営の考え方
第 2 回	公害対策から環境経営への転換 (1)	公害問題から地球環境問題への環境問題の変化
第 3 回	公害対策から環境経営への転換 (2)	環境問題の変化がもたらした環境経営 (環境コストの内部化と市場のグリーン化)
第 4 回	環境経営の概念 (1)	環境先進企業からみる環境経営の考え方と三要諦
第 5 回	環境経営の概念 (2)	環境経営の手段と目的
第 6 回	市場のグリーン化と環境ビジネス (1)	ステークホルダーの変化と市場のグリーン化
第 7 回	市場のグリーン化と環境ビジネス (2)	環境ビジネスの全体像と展望・事例
第 8 回	企業経営の環境リスク (1)	環境リスクの考え方と事例
第 9 回	企業経営の環境リスク (2)	環境リスクへの対応力
第 10 回	環境経営の数値化 (1)	環境経営の評価指標 (環境会計・環境効率)
第 11 回	環境経営の数値化 (2)	環境経営指標の実例
第 12 回	グローバル化と環境経営の拡大 (1)	企業活動の拡大と地球環境問題
第 13 回	グローバル化と環境経営の拡大 (2)	環境経営のバウンダリー (範囲) 問題
第 14 回	環境経営と 21 世紀ビジョン (1)	21 世紀の持続可能性ビジョン
第 15 回	環境経営と 21 世紀ビジョン (2)	理論編の全体総括

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ①日頃から新聞・テレビ・インターネット等で、環境政策とともに地球温暖化 (気候変動) や生物多様性 (生態系) 等の地球環境問題を意識的に見る。
- ②関心のある企業の「環境報告書」(最近では、CSR 報告書や統合報告書としての発行が多い) を読む (ホームページで閲覧可能)。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、毎回配布のレジメを用いる。

### 【参考書】

堀内・向井「実践 環境経営論～戦略論的アプローチ」東洋経済新報社  
鈴木他「環境経営学の扉」文真堂

### 【成績評価基準】

- ①出席 (50 点) + 課題レポート (10 点) + 期末試験 (40 点) = 満点 100 点
- ②合格は以下の三条件とする。
  - ・10 回以上の出席 (公欠届などは認める)。
  - ・課題レポートの提出 (指定企業の環境報告書の概要と評価)
  - ・期末試験 (論述型) の受験 (資料持ち込み可) と 60 点以上獲得

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013 年度より担当

### 【学生が準備すべき機器他】

随時、PC と OHP を使用する。

### 【その他】

毎回レジメを配布するが、教員の海外を含む経験も交えて講義をするので、出席を重視する。講義中に学生諸君に随時質問する。毎回出席をとるが、事情がある場合には事前相談に応ずる。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 環境経営論Ⅱ

川村 雅彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境経営論Ⅰの理論編に続いて、環境経営論Ⅱは実践編である。現代の企業は巨大化し地球環境に様々な影響を及ぼす半面、地球環境問題を解決できるキープレイヤーでもある。業種を問わず、地球環境問題は企業経営のあらゆる活動に関係し、「本業としての環境経営の実践」が不可欠である。環境経営の目指すものは、戦略性のある「環境と企業の持続可能性の同時達成」である。

### 【授業の到達目標】

- ① 環境経営の全体像を理解したうえで、業種別の環境経営の実践内容を把握する。
- ② 環境経営の戦略性について、「自らの考え方」を確立する。
- ③ 環境経営実践の「知識」より「考え方」を問う。

【】

### 【授業の概要と方法】

環境経営は業種を問わない。環境経営として実践すべき事項の全体像を理解したうえで、業種別の特性を反映した実践内容とともに、環境経営のインフラである環境マネジメントシステムを学習する。さらに、人類文明にかかわる地球温暖化と生物多様性について、世界の動きと企業の対応、そして環境経営の評価（環境格付）を学ぶ。授業では特定企業の環境経営を実際に評価する。なお、環境経営論のⅠ（理論編）とⅡ（実践編）を合わせて受講することを勧める。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義方針、環境経営の実践と評価
第2回	環境経営の実践内容の全体像(1)	環境経営実践の全体像(環境問題別:地球温暖化、生物多様性、熱帯雨林、酸性雨、廃棄物、途上国の公害など)
第3回	環境経営の実践内容の全体像(2)	環境経営実践の全体像(取組内容別:CO2削減・省エネ、省資源、化学物質管理、水資源・生態系保護、LCA、環境配慮設計など)
第4回	環境経営の業種別実践内容(1)	製造業の環境経営(素材系:鉄鋼、化学、電力など)
第5回	環境経営の業種別実践内容(2)	製造業の環境経営(組立系:自動車、電機など)
第6回	環境経営の業種別実践内容(3)	非製造業の環境経営(運輸業、流通業など)
第7回	環境経営の業種別実践内容(4)	非製造業の環境経営(建設業、金融業など)
第8回	環境マネジメントシステム(1)	I S O 14001(大企業)、E A 21(中小企業)の概要と狙い
第9回	環境マネジメントシステム(2)	環境マネジメントシステムの実践と課題
第10回	地球温暖化の将来像と対策(1)	京都議定書と排出量取引の仕組み
第11回	地球温暖化の将来像と対策(2)	ポスト京都議定書と2020年以降の地球温暖化対策
第12回	生物多様性と企業経営	生物資源枯渇の経営への影響と対策
第13回	環境経営の評価	環境格付とエコファンデーション、環境コミュニケーション
第14回	環境文明論(1)	人類文明と地球環境問題
第15回	環境文明論(2)	実践編の全体総括

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

- ① 日頃から新聞・テレビ・インターネット等で、環境政策とともに地球温暖化(気候変動)や生物多様性(生態系)等の地球環境問題を意識的に見る。
- ② 関心のある企業の「環境報告書」(最近では、CSR報告書や統合報告書としての発行が多い)を読む(ホームページで閲覧可能)。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、毎回配布のレジュメを用いる。

### 【参考書】

堀内・向井「実践 環境経営論～戦略的アプローチ」東洋経済新報社  
鈴木他「環境経営学の扉」文真堂

### 【成績評価基準】

- ① 出席(50点) + 課題レポート(10点) + 期末試験(40点) = 満点100点
- ② 合格は以下の三条件とする。
  - ・ 10回以上の出席(公欠届などは認める)。
  - ・ 課題レポートの提出(指定企業の環境報告書の概要と評価)
  - ・ 期末試験(論述型)の受験(資料持ち込み可)と60点以上獲得

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

【学生が準備すべき機器他】

随時、PCとOHPを使用する

【その他】

毎回レジュメを配布するが、教員の海外を含む経験も交えて講義をするので、出席を重視する。講義中に学生諸君に随時質問する。毎回出席をとるが、事情がある場合には事前相談に応ずる。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 環境経営実践論 I

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレキシブルな人材育成を目的とし、経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシエンシーを重視した継続的改善を伴った解決策をどのように推進して行ったらよいか等のあり方を考える。

### 【授業の到達目標】

1. 国際的基本ツール「ISO14001 環境マネジメントシステム」の意図と基本概念を理解し、環境配慮経営は持続可能な経済社会への貢献につながる背景・理由を説明できる。2. 環境影響評価と予防・継続的改善を実践的な PDCA の基礎的仕組に適用できる。3. 環境ラベル、環境コミュニケーション、コンプライアンス等が環境マネジメントシステムをどのように補完するか説明できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

21世紀のゼロ成長時代の経済社会では健全な企業ビジョン・理念に基づき環境を確実にした経営を継続改善的に推進することが必要となり、循環型経済社会システムサイクルに合った経営活動が求められる。持続可能な環境経営実践モデルや「ISO14001 環境マネジメントシステム」を理解しやすく図表を多用し、講義・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の基本概念	環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置づけを認識し、現代の経営では CSR が求められることを理解する。
第 2 回	地域的環境汚染問題（公害問題）と地球環境問題	循環型社会に国際的経済社会システム変換の必要性（地域的環境汚染問題と地球環境問題の原因と対策）を考える。
第 3 回	ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツールである ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念を理解する。
第 4 回	環境経営における基本原則	ISO14001 規格に基づき、環境経営における基本原則である「環境側面」「環境影響」「環境パフォーマンス」を考える。
第 5 回	演習 1（基礎的グループ演習）	企業活動を取り巻く環境中の土インセンティブを与える原因と影響・結果を実践的に考える。
第 6 回	演習 1（結果発表と討議）	演習 1 の結果発表と討議
第 7 回	環境改善の内部監査及び ISO14000 シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援するための ISO14000 シリーズ規格の要点を理解する。
第 8 回	演習 2（演習 1 の応用編）	経済社会活動から環境経営上の側面、環境影響及び重要な土影響の継続的改善的な「+向上」「-予防」のための対策を考える。
第 9 回	演習 2（結果発表と討議）	演習 2 の結果発表と討議
第 10 回	環境経営上のコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制等）を考える。
第 11 回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けを考える。
第 12 回	環境経営システムの実効性と環境会計	環境経営システムの実効性と環境会計を考える。
第 13 回	環境経営システムとライフサイクルアセスメント	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメント（LCA）を考える。
第 14 回	経営に求められるコンピタンス（力量）	経営に重要なコンピタンスマネジメントを理解し、考える力の重要性を認識する。
第 15 回	まとめ	授業のまとめを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を養う。

### 【テキスト】

テキストは各回授業時に資料プリントを配布する。

### 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

### 【成績評価基準】

最終授業終了時に、事前提示の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習 1、2 における役割発揮・発表内容、出席状況・授業中の観察評価によりレポート採点結果を補完する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

具体的な環境経営実践モデルを考える。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース



## 環境経営実践論Ⅱ

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

春学期「環境経営実践論Ⅰ」に引続いて、その応用編として環境経営におけるリスクマネジメントの基礎を事例研究で学習する。

### 【授業の到達目標】

1. 環境経営の持続可能性と環境経営システムの必要性について再認識し、環境経営にプラス・マイナスのインセンティブをもたらす有益・有害な事業機会リスクのマネジメント手法を事例に基づき実践的に適用することができる。
2. サプライチェーンマネジメントやコンピタンシーマネジメントは、その重要性において環境経営システムとどのようにかかわってくるのか説明できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

毎日変化する政治・経済社会問題と環境経営は相互関係にあり事業機会リスクをマネジメントすることは持続可能な経営を実現して行く上で重要な課題である。環境経営の事業機会リスクマネジメントの実践的分析・評価、有効性をPDCAサイクルと関連づけて理解しやすく図表を多用しながら、講義・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の基本概念	環境経営の基本概念及び国際的基本ツールである規格ISO14001の意図と基本概念を考える(春学期講義レビューと課題補充)。
第2回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性を考える(春学期講義レビューと課題補充)。
第3回	環境経営リスクマネジメント概論1	リスクマネジメントの基本と経営上の重要性、経営にマイナスインセンティブをもたらす有害リスクについて考える。
第4回	環境経営リスクマネジメント概論2	経営にプラスインセンティブをもたらす有益な事業機会リスクについて考える。
第5回	演習1(事業リスク要素とその環境影響評価)	モデル事業会社の事業リスク要素(環境側面/活動上の土 諸要素・側面・課題)の評価について考える。
第6回	演習1(発表と討議)	演習1の結果の各グループ発表と討議
第7回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方をPDCAサイクルと関連づけて考える。
第8回	演習2(リスクマネジメント事例演習)	モデル事業会社の経営に土 インセンティブをもたらすリスクを評価検討し、経営上・環境上の重要課題を特定する。
第9回	演習2(続き)	モデル事業会社で特定した重要課題について継続改善的な対策を実践的に考える。
第10回	演習2(結果の発表と討議)	演習2の結果のグループ発表と討議
第11回	リスクマネジメントの実践的な有効性	リスクマネジメントの実践的な有効性を考える。
第12回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントの位置付け、及び環境適合設計の重要性を考える
第13回	コンピタンシーマネジメント	これからの経営に必須となるコンピタンシーマネジメント(実績・力量主義経営)の基本を考える。
第14回	実業界で求められる環境基礎知識	環境技術、環境関連法規の基本を習得する。
第15回	まとめ	授業のまとめを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を養う。

### 【テキスト】

テキストは各回授業時に資料プリントを配布する。

### 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006年

### 【成績評価基準】

最終授業終了時に、事前課題の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習1, 2における役割発揮・発表内容、出席状況・授業中の観察評価により、レポート採点結果を補充する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

PDCAと関連したリスクマネジメントの具体的な企業事例を考える。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## CSR 論 I

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

CSR (Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) に関する基本的理論と世界的な潮流を理解し、サステイナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

## 【授業の到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 I-見えざる手と道徳哲学	公共する企業家ケース①
第 4 回	A. スミス 近代産業の勃興と経済倫理 II-功利主義思想	公共する企業家ケース②
第 5 回	J. ベンサム、J. ミル 近代産業の勃興と経済倫理 III-資本主義の精神と倫理	公共する企業家ケース③
第 6 回	M. ウェーバー 特別講義 I 企業担当者による講話	詳細は開講時に提示
第 7 回	企業社会の論理と倫理 I-経済的自由主義	公共する企業家ケース④
第 8 回	M. フリードマン 企業社会の論理と倫理 II-社会的責任のマネジメント	公共する企業家ケース⑤
第 9 回	P. ドラッカー 日本社会の企業倫理と CSR I-明治～大正期の勤勉革命と企業倫理	公共する企業家ケース⑥
第 10 回	日本社会の企業倫理と CSR II-戦後・高度経済成長期	公共する企業家ケース⑦
第 11 回	日本社会の企業倫理と CSR III-成熟化社会と問い直される企業倫理	公共する企業家ケース⑧
第 12 回	特別講義 II 企業担当者による講話	詳細は開講時に提示
第 13 回	サステナビリティと CSR I-日米英の企業観と CSR	公共する企業家ケース⑨
第 14 回	サステナビリティと CSR II-EU の CSR 戦略	公共する企業家ケース⑩
第 15 回	試験	授業の理解を確認する

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

## 【テキスト】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

R.L. ハイルブローナー (松原隆一郎ほか訳) 『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年

武田晴人 『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年

佐和隆光 『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年

宇田川勝・生島淳編著 『企業家に学ぶ日本経営史-テーマとケースでとらえよう』有斐閣、2011 年

## 【成績評価基準】

特別講義のリアクションペーパー：10%

中間レポート：40%

期末試験：50%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

エコ経営経営コース・国際環境協力コース・環境文化創造コース・環境サイエンスコース

## CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

CSR 論Ⅰで学んだことを踏まえ、現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

### 【授業の到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

[]

### 【授業の概要と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR とは何か	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	CSR の潮流	欧州・米国における CSR の潮流
第 3 回	CSR の制度化	ISO26000 規格の目的
第 4 回	CSR コミュニケーション	ステークホルダーとの対話 CSR 報告書を読み解く 詳細は開講時に提示
第 5 回	特別講義Ⅰ 企業・NPO のゲストス ピーカーによる講話	
第 6 回	CSR 金融① Socially responsible investment	SRI：社会的責任投資とは何か
第 7 回	CSR 金融② CSR（環境）格付	非財務要素の評価と企業価値
第 8 回	CSR 金融③ SRI ファンド	SRI ファンドを読み解く
第 9 回	CSR 金融④ 統合報告の動向	企業情報開示の国際的動向
第 10 回	特別講義Ⅱ 企業・NPO のゲストス ピーカーによる講話	詳細は開講時に提示
第 11 回	企業と NPO の協働① ケーススタディ	企業と NPO のパートナーシップ事例
第 12 回	企業と NPO の協働② ケーススタディ	企業と NPO のパートナーシップ事例
第 13 回	特別講義Ⅲ 企業・NPO のゲストス ピーカーによる講話	詳細は開講時に提示
第 14 回	サステナビリティと CSR	サステナブル社会における企業像を展望する
第 15 回	試験	授業の理解度を確認

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

### 【テキスト】

毎回、レジュメを配布します。

### 【参考書】

谷本寛治『CSR 企業と社会を考える』NTT 出版、2006 年  
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年  
岸田眞代編（2011）『NPO&企業 協働評価』パートナーシップサポートセンター  
岸田眞代編（2012）『NPO× 企業 協働のススメ』パートナーシップサポートセンター

### 【成績評価基準】

特別講義レポート： 30 %  
期末試験： 70 %  
講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境文化創造コース・環境サイエンスコース

## EMS 論

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

低炭素社会の構築に向けて、世界的に新たな環境規制や環境政策の導入が進んでおり、企業活動にも重大な影響が生じています。本講義では、企業や社会を取り巻く環境問題の性質と影響を認識するとともに、その対応手法としての環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）の意義と機能について理解を深めることめざします。

## 【授業の到達目標】

環境マネジメント、環境コミュニケーション、環境報告会計、環境管理会計に関する基礎的知識の習得を目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

20 世紀型産業文明のキーワードは成長でしたが、21 世紀型ポスト産業文明のキーワードは持続可能な成長（sustainable development）といわれています。本講義では様々な環境問題とその対応策を取り上げ、環境と調和した循環型経済システムへのパラダイム転換のあり方を社会科学的なアプローチから検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 環境経営を巡る諸課題 社会問題の発生と会計
第 2 回	生態会計 企業社会会計	
第 3 回	環境経営の進展と会計	環境経営とは何か
第 4 回	持続可能性報告と会計	環境コミュニケーション
第 5 回	ゲストスピーカーによる特別講義①	詳細はガイダンスで提示
第 6 回	環境報告会計	環境会計情報の拡大と利用
第 7 回	環境財務会計	資産除去債務の会計 排出量取引の会計
第 8 回	環境管理会計の体系	環境経営と環境管理会計
第 9 回	環境管理会計の手法	マテリアルフローコスト会計
第 10 回	ゲストスピーカーによる特別講義②	詳細はガイダンスで提示
第 11 回	エネルギー資源と会計	エネルギー需給 電力会社の発電コスト
第 12 回	カーボンディスクロージャー	企業の気候変動情報の開示
第 13 回	CO2 排出量取引	排出量取引の動向
第 14 回	環境ビジネス	国内外の環境ビジネス動向
第 15 回	試験	授業の理解度を確認

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞等で報道される環境問題のトピックを継続的にウォッチして、企業を中心とする経済システムと環境問題との関係性について理解を深めてください。

## 【テキスト】

河野正男・八木裕之・千葉貴律（2013）『生態会計への招待【改定版】』森山書店  
毎回、レジュメを配布します

## 【参考書】

鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉』文真堂、2008 年

## 【成績評価基準】

特別講義レポート：20%

期末試験：80%（出題範囲第 1～14 回）

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

事例などを使用して分かりやすい説明を心掛けます。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 国際環境政策 I

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本授業では環境問題を国際的な観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。

## 【授業の到達目標】

国際的な視点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、講義する。そのため、各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国内環境問題、越境環境問題、地球環境問題等について
第 2 回	環境問題と経済成長の関連	環境クズネット曲線の議論について
第 3 回	環境問題の時代的変遷と特徴	国際的な観点からの概観
第 4 回	環境政策の多様性	環境政策手段の比較について
第 5 回	環境対策に関わるコスト負担	負担の帰着について
第 6 回	OECD での環境に関わる経済的手段 I	課徴金について
第 7 回	OECD での環境に関わる経済的手段 II	排出取引の制度について
第 8 回	OECD での環境に関わる経済的手段 III	排出取引の課題について
第 9 回	OECD での環境に関わる経済的手段 IV	デポジット・リファンド制度について
第 10 回	OECD での環境に関わる経済的手段 V	責任支払について
第 11 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VI	環境税について（その 1）
第 12 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VII	環境税について（その 2）
第 13 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VIII	拡大生産者責任について
第 14 回	不確実性下の経済的手段 I	ワイツマンの定理について
第 15 回	不確実性下の経済的手段 II およびレビュー	ロバーツ・スペースの定理などについてと全体の復習

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I の履修が望ましい。

## 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介（2012）『環境経済学をつかむ』第 2 版、有斐閣

## 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるエクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等についてエクササイズなどを通じて、繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。最後にレビューを行う。

## 【その他】

2011 年度までに旧名称「国際環境政策」を取得済の場合、本科目は履修できない。「国際環境政策」の再履修者は「国際環境政策」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

エコ環境経営コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 国際環境政策Ⅱ

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業ではさまざまな地球環境問題を議論する際に、必要となるフレームワークを紹介し、採用される政策手段の諸課題を経済学の側面から検討することを目的とする。

#### 【授業の到達目標】

越境・地球環境問題に対する経済的手段としての環境政策を理解するとともに、それらの背景にある技術政策や持続可能性の課題なども理解することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

国際環境政策Ⅰに引き続き、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に、国際的な視点から講義する。国内環境問題と貿易などについて触れたあと、酸性雨、オゾン層破壊、温暖化などの越境・地球環境問題や生物多様性などの環境問題を対象とする。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と貿易Ⅰ	国内環境問題に対する環境政策の選択について
第2回	環境問題と貿易Ⅱ	製品の国際競争力と国内環境政策について
第3回	越境環境問題としての酸性雨問題Ⅰ	越境環境問題の視点と酸性雨の拡がりについて
第4回	越境環境問題としての酸性雨問題Ⅱ	酸性雨ゲームの視点
第5回	国際環境協定と可能性と制約Ⅰ	完全協力解と非協力解の性質について
第6回	国際環境協定の可能性と制約Ⅱ	国際協調の難易度
第7回	国際環境協定の可能性と制約Ⅲ	自律的な国際協定について
第8回	地球環境問題としてのオゾン層破壊Ⅰ	オゾン層に対する国際協調について
第9回	地球環境問題としてのオゾン層破壊Ⅱ	オゾン層破壊に関わる費用便益
第10回	地球温暖化問題Ⅰ	各国の対応、先進国と同国の立場などについて
第11回	地球温暖化問題Ⅱ	エネルギー消費および技術開発などについて
第12回	地球温暖化問題Ⅲ	対策手段と対策コストについて
第13回	地球温暖化問題Ⅳ	森林等の役割およびオフセットについて
第14回	地球温暖化問題Ⅴ	社会的割引率の観点
第15回	生物多様性およびレビュー	エコシステム・サービスへの支払についてと全体の復習

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。

本講義内容は、国際環境政策Ⅰと連続したものを想定している。

#### 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
諸富徹・浅野耕太・森昌寿(2008)『環境経済学講義』有斐閣

#### 【成績評価基準】

期末試験、授業中で行われるエクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学習の定着のため、重要な概念の利用等についてエクササイズなどを通じて、繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。最後にレビューを行う。

#### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本のかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

## 【授業の到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

[]

## 【授業の概要と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国への歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済 (3)：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える

第 11 回	主要国／地域の社会と経済 (5)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済 (6)：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える
第 14 回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する
第 15 回	まとめ：途上国経済（特にアジア経済）の発展と先進国経済（特に日本）との関わり	講義全般の復習を行うとともに、日本と途上国と呼ばれる国や地域との関係を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

直近のニュース、特に日本企業の動向や、映像などを盛り込んだ講義を希望する声があった。可能な範囲でそういった情報を提供しながら講義をすすみたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

## 途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本のかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

### 【授業の到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ) 南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【】

### 【授業の概要と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1) 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2) 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済(5)：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する
第9回	主要国／地域の社会と経済(6)：ベトナムー戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済の一角として名乗りを挙げる過程を概観する
第10回	主要国／地域の社会と経済(7)：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する
第11回	主要国／地域の社会と経済(8)：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する
第12回	主要国／地域の社会と経済(9)：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナーの経済社会を概観する
第13回	世界経済を動かす「金融」	リーマンショックや通貨危機など、現代の世界経済に大きな影響を及ぼすのはモノではなく通貨である。「金融」という観点から世界経済の構造を概観する

第14回	経済成長、進歩と貧困	先進国、途上国いずれもが、経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する
第15回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

### 【参考書】

グラボウスキー他(2008年)『経済発展の政治経済学』(日本評論社)  
渡辺利夫編(2007年)『アジア経済読本(第4版)』(東洋経済新報社)

### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年1月現在本講義に関するアンケート集計結果はまだ出ていないが、春学期途上国経済論Ⅰにおいては、直近のニュース、特に日本企業の動向を題材とすることや、映像教材の更なる活用を希望する声が散見されたことから、可能な範囲で講義の中で取り上げていくこととしたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

### 【授業の到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。

【】

### 【授業の概要と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは。	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	国際社会と経済協力の歴史 (1) (1945 年～1960 年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史 (2) (1970 年～1980 年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史 (3) (1990 年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 5 回	日本の経済協力の歩み (1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み (2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み (3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	経済協力の仕組みと方法 (1)：無償資金協力和技術協力を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に無償資金協力和技術協力の概略と特徴を知る。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法 (2)：円借款 (有償資金協力を) を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に日本の経済協力の特色である、円借款 (有償資金協力的) の概略と特徴を知る。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府 (「官」) ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略 (アプローチ) の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (2)：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。

- 第 13 回 経済協力の評価と効果をめぐる議論 これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
- 第 14 回 日本が経済協力を行う理由 日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。
- 第 15 回 まとめ 講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化と経済協力の関係をあらためて確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

### 【参考書】

斎藤文彦 (2005 年)『国際開発論』(日本評論社)  
下村恭民他 (2009 年)『国際協力 (新版)』(有斐閣)  
外務省 (毎年発行)『日本の国際協力』(ODA 白書)

### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義に関連し授業支援システムにアップしたリーディングについて、講義の内容とより具体的に関連づけた説明を求める声があった。今後、単に資料をアップするだけではなく、講義内容においてより具体的な説明を加えつつ利用する予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース



## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

## 【授業の到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

[]

## 【授業の概要と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力(1) NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力(2) 民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	新たな主体による経済協力(3) 南々協力および新たな援助国の登場	開発途上国同士の経済協力の取り組みや、従来の先進国(援助国)とは異なる新興援助国について紹介する。
第6回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行(バングラデシュ)を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力和紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ(1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ(2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード(1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード(2)：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第14回	地球環境問題と経済協力：気候変動(地球温暖化)を中心に	気候変動(地球温暖化)を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。

第15回 まとめ：なぜ国際経済協力が必要なのか

秋学期の講義でとりあげた各トピックをあらためて概観するとともに、様々な協力が必要とされる背景について理解を深める。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

斎藤文彦(2005年)『国際開発論』(日本評論社)  
下村恭民他(2009年)『国際協力(新版)』(有斐閣)  
外務省(毎年発行)『日本の国際協力』(ODA白書)

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年1月現在、本講義に関する授業改善アンケートの集計結果はまだ出ていないが、国際経済協力論Ⅰにおいては、講義に関連し授業支援システムにアップしたリーディングについて、講義の内容とより具体的に関連づけた説明を求める声があった。今後、本講義においても、単に資料をアップするだけでなく、講義内容においてより具体的な説明を加えつつ利用する予定である。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

## 環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギーや省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開されるビジネス活動の観察を通じて環境問題を捉え直すことにより、複眼的な考察につなげることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討することで理解を深めていく。

### 【授業の到達目標】

環境ビジネスという企業活動について、総合的な理解を深めるとともに、主要な分野毎にビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。また、各分野を通過するファイナンスの視点を学ぶことで、様々なビジネスモデルを検証するに当たり、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。

【】

### 【授業の概要と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、生物多様性保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析することで学習する。特に、金融という視点を重視し、ファイナンスの考え方、基本的な分析ツールを習得することで、汎用性のある知識の習得を目指す。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模などを全体像の把握を行う。
第3回	環境と金融	近時注目を集める環境金融の考え方と理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことで、4回目以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	ケース1：再生可能エネルギー①	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、前回学んだファイナンスツールを使いながら再生可能エネルギーの事業性、普及に向けた課題等を考える
第5回	ケース1：再生可能エネルギー②	前回の続き。この2回でNPV、IRRなどの考え方とキャッシュフロー表の見方などを身につける。
第6回	ケース2：省エネ支援ビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO、HEMS / BEMSなどを学びながら、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第7回	ケース3：リサイクルビジネス	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。
第8回	ケース4：土壌汚染対策ビジネス	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデルを探る。
第9回	ケース5 水ビジネス	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では水事業への進出が期待されている水ビジネスについて考える。
第10回	ケース6 生物多様性とビジネス	生物多様性という概念と、これをビジネスと接続することの難しさを確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、生物多様性保全ビジネスについて考える。
第11回	海外事例研究	エコロジカル産業政策を展開したドイツを素材に、環境政策と環境ビジネスの関連性を確認する。再生可能エネルギー、リサイクル、土壌汚染リスク管理などを取り上げる予定。

第12回 企業価値と環境経営 1

環境ビジネスを展開する目的は、いうまでもなくそれが企業価値の増大をもたらすと期待されるからである。本業と一体となって展開される環境ビジネスの姿は、それゆえに多様である。ケーススタディ的に幾つかの企業を素材に、環境ビジネスの展開例を整理しておく。

第13回 企業価値と環境経営 2

前回の続きとして事例研究を行う。これまでの議論を総合的に振り返り、再度、環境ビジネスの基本的な性格とこれに対するファイナンス的なアプローチをレビューする。

第14回 まとめ

本講義の理解度を確認するため記述式の試験を行う。

第15回 試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞、雑誌、企業のWebサイトなどを通じて、様々な形で展開されている環境ビジネスの実態との接点を常に持つように心がけ、問題意識を持って授業に臨むこと。また、講義では極力振り返りを重視して知識の定着に心がけるが、受講生も復習を重視するようにして下さい。

### 【テキスト】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システムを通じて配布するので、受講する学生は忘れずにプリントアウトして持参するようにして下さい。

### 【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

[http://www.env.go.jp/policy/keizai\\_portal/index.html](http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html)

竹ヶ原啓介、ラルフ・フェロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」（エネルギーフォーラム新書 NO.4）（2011）

野口 旭「グローバル経済を学ぶ」（ちくま新書）（2007）

### 【成績評価基準】

期末試験、授業中に行う小テスト、講義への貢献度等を考慮し、総合的に判断する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

シラバス作成時点ではアンケート結果が出ていないため記載出来ない。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイントを使用する。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## 国際環境政策

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業では環境問題を国際的な観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。

#### 【授業の到達目標】

国際的な視点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、講義する。そのために、各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国内環境問題、越境環境問題、地球環境問題等について
第2回	環境問題と経済成長の関連	環境クズネット曲線の議論について
第3回	環境問題の時代的変遷と特徴	国際的な観点からの概観
第4回	環境政策の多様性	環境政策手段の比較について
第5回	環境対策に関わるコスト負担	負担の帰着について
第6回	OECDでの環境に関わる経済的手段I	課徴金について
第7回	OECDでの環境に関わる経済的手段II	排出取引の制度について
第8回	OECDでの環境に関わる経済的手段III	排出取引の課題について
第9回	OECDでの環境に関わる経済的手段IV	デポジット・リファンド制度について
第10回	OECDでの環境に関わる経済的手段V	責任支払について
第11回	OECDでの環境に関わる経済的手段VI	環境税について（その1）
第12回	OECDでの環境に関わる経済的手段VII	環境税について（その2）
第13回	OECDでの環境に関わる経済的手段VIII	拡大生産者責任について
第14回	不確実性下の経済的手段I	ワイツマンの定理について
第15回	不確実性下の経済的手段IIおよびレビュー	ロバーツ・スペンスの定理などについてと全体の復習

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論Iの履修が望ましい。

#### 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介（2012）『環境経済学をつかむ』第2版、有斐閣

#### 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるエクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等についてエクササイズなどを通じて、繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。最後にレビューを行う。

#### 【関連の深いコース】

エコ環境経営コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」。

## 【授業の到達目標】

この講義では人間の行動ないし行為のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について解説する。つぎに、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を、「行動の集積」という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講生からアイデアを募集し、検討する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とはなにか？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1) 欲求と規範	「欲求」「規範」概念を取りあげ説明、研究事例を紹介する。人間に行動を起こさせる動因とそれを規制するものとは何か。
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を説明、研究事例を紹介する。人が行動をおこす場についてのとらえ方。
第 4 回	人間行動を考える枠組み (3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる文脈の理解を深める。
第 5 回	行動と文化 (1) 「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から解説する。
第 6 回	行動と文化 (2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、動的なものとして考え、伝統の継承と文化の変容を取りあげる。
第 7 回	行動と文化 (3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」の文化理解と対比して学ぶ。
第 8 回	情報と行動 (1) 「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「予期せざる結果」が生じるメカニズムについて取りあげる。
第 9 回	情報と行動 (2) 「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(1) 「共有地の悲劇」、私益と共益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(2) 「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第 12 回	「社会的ジレンマ」(3) 「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第 13 回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境意識は環境行動につながるか？、という問題を提起。研究事例を紹介する。
第 14 回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第 15 回	まとめー人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。また、講義時に課題を出すのできちんと提出すること。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

西澤・渋谷,2008,「社会学をつかむ」有斐閣  
塩原・竹ノ下,2010,「社会学入門」弘文堂  
山岸俊男,2000,「社会的ジレンマ」PHP 研究所  
広瀬幸雄編,2008,「環境行動の社会心理学」北大路書房  
このほか開講時に文献リストを配布する。

## 【成績評価基準】

定期試験による。また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

とりあげる事例についての情報を増やし、理解しやすくする。

## 【その他】

あらゆる環境問題は「社会」の中で起こっています。私たちがどのような社会を作っているのか考えることはこの学部での学習の基礎となります。社会的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方からさまざまな社会問題を考えてみよう。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：「現代日本社会の変動をとらえる視点」

### 【授業の到達目標】

本講義の目標は、1960年代以降を中心に戦後日本社会の変動プロセスを各種社会統計によって跡づけ、社会諸領域の変動が相互に関連して生じていることを理解する、ことにある。また、講義を通して長期統計データの検索法・利用法および読解力を身につけることをめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について説明した後、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化を詳しく取り上げる。常識的に述べられる「社会の変化」を疑い、本当に変化しているのか、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題として進める。講義では統計資料を配付し、データがどのように得られたのか、データに見られる変化を読み取る方法について解説する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。	講義ガイダンス。社会を変動という視点から考える意味を理解する。
第2回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか、変化を何によって捉えるか。 1960年代以降の日本社会の変動。
第3回	近代化・産業化	近代化とは何か。産業構造の変化。工業化と公害問題。産業社会の特質をとらえる
第4回	経済成長と豊かな社会	経済成長をとらえる指標とは。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第5回	働き方の変化①	労働力率の変化を性別・年齢別に検討しその要因を考える。教育年数の長期化とその背景。
第6回	働き方の変化②	従業上の地位の変化。雇用労働者化とその背景。
第7回	働き方の変化③	女性労働の変化。M字型カーブを作り出す要因とは。
第8回	働き方の変化④	高齢化と産業社会。高齢者雇用の現状と効用延長の課題。
第9回	働き方の変化⑤	職業構造の変化。ホワイトカラー化とは何か。
第10回	人口の変化①	人口転換とは。人口数と構造の変化。
第11回	人口の変化②	少子化と高齢化。人口の年齢構成の変化とその要因。合計特殊出生率とは。未婚率の上昇の要因。
第12回	人口の変化③	出生率・死亡率の変化。自然増加率の推移。少子・高齢社会から人口減少社会へ。何が問題なのか。
第13回	人口の変化④	少子高齢化を国際比較から考える。産業化の程度と人口構造の関連について。
第14回	環境問題と社会の変化	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。環境問題と社会。
第15回	まとめ	社会変動の相互連関。社会を見る目の重要性。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

統計資料を配布するので、そこからどのような変化を読み取ることができるか、その変化がどのような要因と関連しているか、など事前に学習しておくこと。講義時にスタディクエスションとして文章化して提出を求めることがあります。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社  
国立社会保障・人口問題研究所「人口の動向」厚生統計協会  
この他開講時に文献リストを配布する。

### 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスション」を行い評価に加える。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

統計資料の読み取り方について、時間をかけて説明する。

### 【その他】

ここで取りあげる変化は半ば常識的に語られている事柄です。でもそれはホントか？、証拠をあげて論じることが重要です、「常識を疑う」「実証」を合い言葉に学びましょう。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 現代社会論Ⅲ

【関連の深いコース】  
地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「現代社会における家族と地域の変動を考える」

## 【授業の到達目標】

この講義では、「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」のここ半世紀の変化に関して各種社会統計を用いて考察することを目標とする。マチとムラがどのように変動してきたか、なぜそのような変動が生じたのか、論理的・実証的に考える能力を身につけることをめざす。もちろん、基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

地域社会をどのような視点から考えるか、高度成長期にムラからマチへの人口移動が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけ、その結果生じた過疎・過密の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られた生活スタイルの変化を家族のあり様を中心に取り上げる。

変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、社会統計についての解説を交え、変化を読み取る方法の理解を深める。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第2回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第3回	家族の変化をとらえる方法	家族と世帯。世帯統計から変化を捉える。世帯類型。
第4回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は普遍的か。世帯員数の減少とその要因。
第5回	少子高齢社会における家族	人口の高齢化と家族生活の変化。高齢者単独世帯の増加。
第6回	家族機能の変容	家族は必要でなくなる社会集団か。機能喪失か機能純化か。
第7回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第8回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第9回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第10回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移からみる。
第11回	事例から考える①農村	過疎と高齢化、後継者難。「限界集落」の実態と新たな動き。新潟県上越市の事例。
第12回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。
第13回	事例から考える②都市	「昼夜間人口比率」で見る大都市圏の姿。千代田区の事例。
第14回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第15回	まとめ	地域社会と家族の変化の関連。地域と家族の将来像を探る。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館  
 湯沢雅彦,2008,「データで読む家族問題」NHKブックス  
 森岡清志,2012,「都市社会の社会学」放送大学教育振興会  
 小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房  
 ＊このほか開講時に文献リストを配布する

## 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

シラバス作成の段階では、授業改善アンケートの結果を受領していない。

## NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

NPO（民間非営利組織）によって、これまで主に行政セクターが担うものだと考えられていた「公益」や「公共」を、市民セクターが担うようになりつつあります。市民は、NPOにボランティア等で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。

この授業では、現代社会の様々な課題と、その課題に取り組むNPOについての、さまざまな側面から理解を深め、市民社会のあり方や方向性について考えます。

### 【授業の到達目標】

- ・NPOとボランティアについて理解を深める。
- ・NPOの存在意義や、NPOが活動する上での課題について問題意識をもつ。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきかを考える。

[]

### 【授業の概要と方法】

- ・各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次週の授業でコメントします。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第2回	NPOとは何か	・「NPO」の意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO
第3回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・NPO・市民活動の変遷
第4回	NPOの事例紹介①	・映像でさまざまなNPOの活動を紹介する。（子育て、介護、生活困難者支援、国際協力等）
第5回	NPOの事例紹介②	第4回と同じ
第6回	NPO法人制度	・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・NPO法人の要件、公益法人制度改革
第7回	NPOの組織運営	・NPOの組織特性 ・市民の多様な関わり方 ・組織の構成要素 ・企業等との違い
第8回	NPOとボランティア	・NPOにおけるボランティアの役割 ・ボランティアとして参加することの意義
第9回	NPOの財政	・NPOの財政規模 ・財源の多様性と特性
第10回	NPOと寄付税制	・NPOにとって寄付とは ・認定NPO法人制度 ・寄付税制・寄付金控除
第11回	働く場としてのNPO	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第12回	社会変革の担い手としてのNPO	・ニーズの社会化とNPOの役割 ・実践型政策提案と運動型政策提案
第13回	NPOと行政	・自治体のNPO支援施策 ・行政とNPOの協働
第14回	NPOと企業、ソーシャルビジネス	・NPOと企業の協働 ・ソーシャルビジネスとNPOの関係
第15回	補足とまとめ	授業の振り返りや補足

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に、テキストの関連する部分を読んでおくこと。

授業後は、授業で説明したNPOの事例や法制度について、各自調べるなど補足学習を行うことが望ましい。

### 【テキスト】

知っておきたいNPOのこと基本編 日本NPOセンター発行 500円  
その他、10月に発行予定のNPO関連のブックレット（数百円）を予定。（詳しくは授業で案内します。）

10/30 追記（発行確定）：市民社会とNPO かながわ女性会議発行 600円

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価基準】

論述中心の定期試験を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、PCプロジェクター（パワーポイント、インターネット接続）

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## フィールド調査論

西城戸 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

さまざまな社会調査の基本的な考え方、多様な方法について講義することで、社会調査を行うための基本的な知識、技術を修得を目指す。

### 【授業の到達目標】

この講義は、社会科学の基本的な考え方を学び、社会調査の一連の流れと、社会調査の課題、調査倫理について修得することを目的としている。また、同時にメディアリテラシーの基礎を学ぶことを目的としている。

[]

### 【授業の概要と方法】

社会調査に関する基本的な知識、技術についての講義が中心であるが、内容に応じて、受講者個人の作業、グループにおける作業も同時に実施する。最終的に、方法論の観点から実証研究を評価し、さらにリサーチデザインの設計を試みる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	なぜ、社会調査が必要なのか、社会調査とは何か、その概要を講義する。
第3回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査前に考える、問題関心や「問い」の考え方を講義する。
第4回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	先行研究や既存データのレビューを行うための情報収集の実習を行う。
第5回	社会科学の方法の基礎（1）- 「説明」「記述」	「説明」「記述」という社会調査によって得られる知見について講義する。
第6回	社会科学の方法の基礎（2）- 「因果関係」「仮説」	「因果関係」とは何か、仮説とは何か、について講義する。
第7回	量的調査入門（1）	サンプリング調査の原理について講義する。
第8回	量的調査入門（2）	調査票調査の一連の作業内容について講義する。
第9回	量的調査入門（3）	ワーディングの演習を実施し、仮説から調査票を作る作業を行う。
第10回	量的調査入門（4）	仮説と調査票の作成する作業を行う。
第11回	フィールドワーク入門（1）	フィールドワーク（質的調査）の概要を講義する。
第12回	フィールドワーク入門（2）	インタビューのさまざまな技法について講義する。
第13回	フィールドワーク入門（3）	聞き取りデータから論文を作成するまでの手法（KJ法による論文の構想）について講義する。
第14回	映像教材から方法論を学ぶ	映像教材から調査手法の実際について学ぶ。
第15回	2つの方法論の整理	量的、質的調査の方法論の整理し、社会調査の方法論のまとめを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対して個人的な作業を求める。

### 【テキスト】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書.

高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書.

佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』岩波新書.

### 【参考書】

山中連人編, 2002, 『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣

森岡清志編, 2007, 『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社.

佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク 増訂版』新曜社.

大谷信介ほか, 2005, 『社会調査へのアプローチ 第2版』ミネルヴァ書房.

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

玉野和志, 2008, 『実践社会調査入門——今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社

### 【成績評価基準】

出席（20%）、講義中の課題提出（30%）、最終レポートの提出（50%）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであり、なかなか改善しづらいが、改めてお詫びしておきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

### 【その他】

本講義の定員は30名である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。在学中に社会調査の実践を行う予定がある者を優先する。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「社会調査の方法」を学ぶ

### 【授業の到達目標】

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

[]

### 【授業の概要と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」があり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店  
新ほか編,2008,「社会調査ゼミナール」有斐閣、  
玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社  
佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社  
このほか開講時に文献リストを配布する

### 【成績評価基準】

①定期試験、②レポート（調査票の作成）、③講義時に行うグループ作業（GW）への参加度と作業成果物も評価の対象とする。出席も重視します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

調査票作成の実習時間を増やします。

### 【その他】

受講者制限（30名まで）をします。受講希望者多数の場合は選抜を行う。グループ作業を行います、グループメンバーに迷惑をかけることになるので欠席しないことが受講条件です。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## フィールド調査論

安岡 宏和

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

マスメディアをとおして半ば捏造されている既存の問題意識をこえて、また同時に一人の学生として取り組むに足る、具体的でオリジナルな研究テーマを見つけることは意外にむずかしい。本授業では、そのむずしさを理解するとともに、そのおもしろさを実感することをめざす。

### 【授業の到達目標】

フィールドワークに特有の問題設定のしかたと方法論を理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

(1) 講義によってフィールドワークの特徴を理解し、(2) グループワークとして、それぞれのリサーチデザインにもとづいてデータの収集・分析・解釈をし、(3) グループごとにプレゼンテーションをおこなう。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イントロダクション
第2回	フィールドワークの類型(1)	仮説検証型フィールドワークのすすめ方と具体例
第3回	フィールドワークの類型(2)	エスノグラフィー型フィールドワークのすすめ方と具体例
第4回	フィールドワークの技術(1)	参与観察、インタビュー
第5回	フィールドワークの技術(2)	計量・計測、統計資料と地理情報の活用
第6回	グループワーク(1)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(1) テーマを探す
第7回	グループワーク(2)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(2) リサーチデザインをつくる
第8回	グループワーク(3)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(3) データ収集
第9回	グループワーク(4)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(4) データの分析・解釈とリサーチデザインの修正
第10回	グループワーク(5)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(5) データ収集
第11回	グループワーク(6)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(6) データの分析・解釈とリサーチデザインの修正
第12回	グループワーク(7)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(7) データ収集
第13回	グループワーク(8)	大学をフィールドとするフィールドワーク実習(8) データの解釈と考察
第14回	プレゼンテーション(1)	グループワークの成果のプレゼンテーション(1)
第15回	プレゼンテーション(2)	グループワークの成果のプレゼンテーション(2)

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

復習。およびグループワーク。

### 【テキスト】

資料を配付する。

### 【参考書】

授業中に提示する。

### 【成績評価基準】

出席(50%)、グループワークとプレゼンテーションへの貢献(50%)

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度担当なし。

### 【その他】

本授業は定員制とする(20名)。受講者は第1回目の授業で決定する。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータ集計の方法を学習する。

### 【授業の到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、集計の目的(何を比べているのかなど)や集計の意味(どのようにしてその集計が行われているのかなど)を理解した上で適切な集計を行えるようになることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計を行う。データの集計には、主に統計解析ソフトのSPSSを用いるが、統計処理の過程を確かめるために、エクセルによる計算も行う。基礎的なデータ処理の方法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、量的データの収集方法(手順)などを学ぶ
第4回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSSで外部データを読み込む方法を学ぶ
第5回	基礎集計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第6回	データの加工	正規分布の考え方や、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第7回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第8回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第9回	カイ2乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第10回	平均値の差の分析	分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第11回	相関係数と回帰分析	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	エクセルによる統計処理	ピボットテーブルなどエクセルによる統計処理の方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	SPSSの集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第14回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する
第15回	試験	統計調査のプロセスや分析の手順に関するペーパーテストを行う(授業内試験)

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

SPSSやエクセルによる集計方法などを復習する。

### 【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

### 【参考書】

講義時に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

パソコン実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視する。授業内で作業した結果を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題(統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方)の提出を求める。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

### 【その他】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

発行日：2021/6/1

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

## ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

- 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
- 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

### 【授業の到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）。
- 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

Ⅰ

### 【授業の概要と方法】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。そのため授業は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。

Ⅱ

Ⅲ

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・問いかけの重要性について考える ・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第6回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第8回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションの本番（1） ・グループ・ワーク	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する
第11回	ワークショップのプレゼンテーション	・行動計画の書き方 ・ワークショップの総仕上げ
第12回	ファシリテーションの本番（2） ・グループ・ワーク	・グループにてワークショップを実施（第1回） ・グループ・ワーク
	ショップ（1）	

第13回	ファシリテーションの本番（3） ・グループ・ワーク	・グループにてワークショップを実施（第2回） ・グループ・ワークショップ（2）
第14回	ファシリテーション全体のまとめとふり返り	・ファシリテーション全体のふり返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施
第15回	まとめと未来に向けて	・ライフヒストリー曼荼羅ワーク ・ショップによる、授業の学びの未来への発展

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

### 【テキスト】

- ・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、2013）

### 【参考書】

- ・「ファシリテーション革命」（中野民夫、岩波アクティブ新書、2003）
- ・「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」（三田地真実、金子書房、2007）他

### 【成績評価基準】

- ・出席点：約 60 %（毎回、出席カードの代わりにふり返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、大変好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他】

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。初回授業についての連絡は、「学部掲示板」に行いますので、掲示板をよく読んでから出席してください。
- ・2011年度までに旧名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目は履修できません。「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」の再履修者は「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」で登録してください。

### 【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

## 【授業の到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第 2 回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第 3 回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第 4 回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第 5 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 6 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture

第 7 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 8 回	Academic Writing Activity	Planning & writing academic papers
第 9 回	Presentation Activity	Planning & preparing oral presentations / Presentation techniques
第 10 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Class Presentations	Students give presentations on their selected topics
第 15 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class

## 【参考書】

Griffin, E. (2006). A First Look at Communication Theory. Boston: McGraw Hill.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2006). Human Communication (2nd Edition). Boston: McGraw Hill.

## 【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and a take-home exam.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

There were no particular requirements about this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 地域形成論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、新時代における人々の生活の基盤としての地域空間の形成、すなわち「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」というテーマについて、具体的かつ総合的に考えていく。

### 【授業の到達目標】

人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方、そして骨太の方向感覚を身につけることを第一の目標とする。その上で、問題発見から問題解決に至るプロセスについていくつかのケーススタディを通し、具体的な見方や対応力を身につけることを目標とする。

【

### 【授業の概要と方法】

地域空間の形成として、国土開発、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、計画手法、制度、政策等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際の問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案なども試みるにより、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

【

【

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域形成論の学び方
第2回	地域のシステム考現学(1)	「地域プランナーの『地域を見る眼』」 具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『混雑現象』はなぜ起こるのか」
第3回	地域のシステム考現学(2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『集中と分散』の動きの諸原因」
第4回	地域の具体的課題の事例(1)	広域事業と地域問題の葛藤・市民参加 (例)「『東京外郭環状道路』の建設」
第5回	地域の具体的課題の事例(2)	一極集中問題への対応、政策的議論 (例)「『首都機能移転』の議論の経緯」
第6回	日本の国土形成の歴史(1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ (例)「旧『全国総合開発計画』の歴史」
第7回	日本の国土形成の歴史(2)	近世の地域環境と現代における復元 (例)「『庭園の島・日本』の復元」
第8回	地域の総合的事例研究(1)	「沖縄の地域社会と経済」を考える (例)「沖縄の経済と『非貨幣経済』」
第9回	地域の総合的事例研究(2)	「沖縄の開発と環境」を考える (例)「『新石垣空港』建設と環境問題」
第10回	日本の現代的な地域課題(1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦 (例)「『地域主義』と『内発的發展論』」
第11回	日本の現代的な地域課題(2)	中心市街地問題と活性化への努力 (例)「『まちなか再生』まちづくり」
第12回	地域プロジェクト企画(1)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『環境都市』『観光地域』構想」
第13回	地域プロジェクト企画(2)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『臨海部埋立地』の利用構想」
第14回	地域デザインへの新視点(1)	人間と環境の時代の都市・地域開発 (例)「『エコ・コミュニティ』への道」
第15回	地域デザインへの新視点(2)	空間から場所へ、計画論の再考 (例)「『土着性』『地霊』『場所愛』」

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。

### 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

### 【参考書】

基本的なものに関しては第1～2回目に紹介する。各回の内容に関連するものはそれぞれ授業で紹介する。

### 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業外の学習活動が比較的少ない。これを活発にするため適宜ホームワークも課することとする。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 地域経済論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地域の豊かさや活力の経済的側面について基礎的な分析から応用的な問題や政策まで幅広く論じる。特に、地域の産業について詳しく触れるとともに、地域の経営についても考えていく。

## 【授業の到達目標】

地域経済に関する、基礎的理論、実際問題、政策について理解し、地域経済への基本的な見方を習得することを目標とする。また、いくつかの具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディもを行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として毎回授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第 2 回	地域経済の分析・基礎 (1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第 3 回	地域経済の分析・基礎 (2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第 4 回	地域経済の分析・実際 (1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第 5 回	地域経済の分析・実際 (2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第 6 回	地域発展と産業 (1)	ICT 産業集積を考える、世界の ICT クラスター
第 7 回	地域発展と産業 (2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係
第 8 回	地域発展と産業 (3)	地域と観光、観光産業の系譜、地域観光開発
第 9 回	地域発展と産業 (4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第 10 回	地域経済と地域経営 (1)	地域の情報・経済装置、地域経済活性化
第 11 回	地域経済と地域経営 (2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第 12 回	地域経済と地域経営 (3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価
第 13 回	地域経済と地域経営 (4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第 14 回	地域と社会経済 (1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第 15 回	地域と社会経済 (2)	地域コミュニティビジネス、地域マクロエンジニアリング

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

## 【参考書】

第 1 回目に基本的な参考書を紹介する。また、各回講義時にテーマに応じた参考書を紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70 %、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30 %

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

板書をなるべく多くして、ノートテイキングを容易にしていこう。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

1. 地域福祉の歴史を学び、理念とその展開について修得する。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はづれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

### 【授業の到達目標】

人が、自分が暮らしたい地域において、自分らしく生きるためにどのように支え合ったらよいか、地域福祉の理念とその援助方法について学び、履修者自らが地域住民として、援助職として、ボランティア活動者として地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

【】

### 【授業の概要と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史(1)	欧米における地域福祉の源流と、戦後復興期までの歴史をとりあげる
第4回	地域福祉の歴史(2)	高度経済成長期～超少子高齢時代の到来までの歴史をとりあげる
第5回	地域福祉の主体形成と福祉教育(1)～地域福祉の推進と福祉教育～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育(2)～福祉教育の内容～	福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるものである、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	地域福祉推進における住民参画(2)	地域福祉における住民参画の事例を取り上げる
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

### 【テキスト】

特に指定しない。必要な資料を、適宜配布する。

### 【参考書】

授業内で紹介する。

### 【成績評価基準】

出席率(遅刻は授業開始後20分まで受付、退室は欠席とみなす)30%、テスト30%、課題提出(正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談)20%、授業態度(飲食・携帯電話操作・他の授業のための学習や読書などの内職は不可とし、発見し次第減点とする)20%。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

さらに新しい視聴覚教材を使用すると共に、古典的な教材も合わせて活用する。

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオなどを多用する。

### 【その他】

皆さんが学習主体です。今後、どこでどう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということと共に考え、より良い方法を模索していければと思います。

授業運営の関係上、申し訳ありませんが、受講希望者多数の場合は選抜を行います。希望者は必ず初回の授業に出席して下さい。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース



## 地域コモンズ論

平野 悠一郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

コモンズ論、所有論を軸に、地域における森林等の自然資源管理を持続的かつ効果的に行うための方法論を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

自然資源をめぐる多様なアクター・価値・便益の存在を前提とした上で、その持続可能かつ有効な利用を行っていくためには、どのような所有・管理形態が望ましいのかを、政治的・経済的・社会的な観点から個別事例に応じて検証する。この作業を通じて、環境・開発・資源問題を解決に導く上での幅広い視座を養う。

[]

### 【授業の概要と方法】

基本的にテキストや資料に沿った講義形式で進めるが、受講者には、毎回の授業で内容に関する質問用紙の提出を求める。提出された質問に対しては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行い、理解の深化を図る。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	世界各地の森林資源をめぐる諸問題を紹介し、「所有」から考える意味を概説する。
第2回	コモンズの悲劇	G. ハーディンによって喚起されたコモンズ（共有地）をめぐる論争を検証する。
第3回	コモンズ論の発展	E. オストロムの提示した資源共同管理に関する理論を紹介・検証する。
第4回	「前近代的」所有の内実	近代的所有権が確立される以前の地域における資源管理形態を把握する。
第5回	「近代的」所有の内実	近代的所有権の内容とその資源管理における特徴を検証し、世界各地への普及過程を把握する。
第6回	グローバル時代の所有論の射程	今日におけるグローバルなヒト・モノ・カネの移動を踏まえて、持続的な資源管理に向けた新たな所有のあり方を模索する議論を紹介する。
第7回	事例：日本の入会林野問題	近現代の入会権闘争を軸に、日本の森林をめぐるどのような所有・管理形態が模索され、どのような結果をもたらしてきたのかを検証する。
第8回	事例：日本の入会林野問題	同上。
第9回	事例：東南アジアの森林破壊の所有論的側面	近現代の東南アジアにおいて生じた森林の開発・破壊が、どのような所有形態の下で生じたのかを検証する。
第10回	事例：東南アジアにおける住民参加型林業の模索	現代の東南アジアにおいて、なぜ地域住民の権利を保障する森林経営が必要とされているのかを検証する。
第11回	事例：社会主義体制下の中国における森林所有の激変	中国における社会主義公有制の成立とその後の政治・社会変動が、地域の森林資源管理に与えた影響を検証する。
第12回	事例：改革・開放以降の中国の森林所有の再編	改革・開放以降、民間アクターへの権限移譲が進む中国の森林経営の現状と展望を紹介する。
第13回	事例：アメリカ林業における所有と経営の分離	近年のアメリカにおける林地投資型経営の発展と意味を検証する。
第14回	事例：アメリカ林業における所有と経営の分離	同上。
第15回	総括	授業の総括を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定の授業回においては、事前に参考となるテキストの講読を求める。その場合のテキストは、前の授業までに教員側で用意する。

### 【テキスト】

授業の進み具合を見て適時指定する。

### 【参考書】

井上真・宮内泰介編『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社、2001年  
室田武・三俣学『入会林野とコモンズ：持続可能な共有の森』日本評論社、2004年

### 【成績評価基準】

出席 40 %（授業時の質問用紙の提出をもって出席とみなす）、問題提起・議論参加 20 %、期末試験 40 %の割合で評価する。但し、期末試験の受験は必須とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当。アンケート結果を参照の後、可能な範囲にて改善に取り組む。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 都市環境論Ⅰ

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅰでは、まず、いくつかの具体的側面からそのイメージを構築する。

## 【授業の到達目標】

新しい時代の都市づくりのプランナーに必要な、基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論Ⅰでは、都市問題への興味と探究心を深め、自律的な課題発見と学習ができるようにする。

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境に関わるいくつかの側面から基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論Ⅱで総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。授業では国内外の都市環境（居住、交通、自然、景観、歴史など）について、様々な事例をとりあげ映像や資料を多用し、考えながらイメージを形づくっていく。思考訓練のために、ほぼ毎回、事業の最後にミニペーパーを作成提出。また、身近な事例調査を含むホームワークも課する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方について
第2回	都市の住まい：住宅地開発の承譜（1）	英国における田園都市の建設、その背景と展開
第3回	都市の住まい：住宅地開発の承譜（2）	日本、米国他における住宅地開発の歴史、方向性
第4回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（1）	都市における緑地空間の価値、都市構造との関係性
第5回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（2）	日本における公園など都市内緑地空間の課題と展望
第6回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（1）	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺、水環境
第7回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（2）	世界の都市における水辺空間整備の現状と方向性
第8回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（1）	都市の歴史遺産、街並み、その保存、活用、変化
第9回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（2）	世界の都市における歴史遺産保存の現状と方向性
第10回	都市の美しさ：都市景観とその論争（1）	都市の美しさへの視点、景観を巡る議論、改善手法
第11回	都市の美しさ：都市景観とその論争（2）	国内外における都市景観に関わる争いのケーススタディ
第12回	都市の優しさ：バリアフリー・UD対応	バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方と方策
第13回	都市の移動：都市交通の問題と対策（1）	都市基盤としての道路整備のあり方、自動車対策
第14回	都市の移動：都市交通の問題と対策（2）	都市基盤としての都市交通のあり方、新しい動き
第15回	都市の総合的な計画に向けて	本授業のまとめ、および都市環境論Ⅱでの議論への導入

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマを略説する。これにもとづき毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

## 【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ノートをしっかりとりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。

## 【その他】

2011年度までに旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修できない。

## 都市環境論Ⅱ

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 【授業のテーマ】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、Ⅰでの個別的な各側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

## 【授業の到達目標】

この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくりプランナーに必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識と感覚を身につけることを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境問題への総合的なテーマによる現状の把握と分析をするとともに、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を含め、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のために、ほぼ毎回、授業の最後にミニペーパーの作成提出をする。また、ミニ研究的なホームワークを課することがある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市のサステイナビリティに関する基本的な考え方
第2回	都市と地球環境問題	都市構造と地球環境負荷の関係性、低減への諸課題
第3回	都市の廃棄物問題	都市問題としての廃棄物、各種汚染の現状と対策
第4回	都市の災害と安全対策(1)	都市における自然災害、人為災害の歴史と対応
第5回	都市の災害と安全対策(2)	都市における自然災害、人為災害の減少への方策
第6回	都市の快適性と生活の質	都市の住みやすさ、クオリティオブライフをどう考えるか
第7回	都市のリノベーション(1)	リノベーション(修復)の方向性、都市のダイナミズム
第8回	都市のリノベーション(2)	リノベーション(修復)の各種技法、いくつかの事例
第9回	都市の成長管理	都市の土地利用コントロール、市街地拡大抑制の方策
第10回	都市の持続可能性と個性	都市のアイデンティティ、パナキュラー(風土性)の視点
第11回	都市の計画制度(1)	日本の都市計画制度の系譜、基本的事項とその背景
第12回	都市の計画制度(2)	都市計画制度の諸問題、国際比較、新しい動き
第13回	都市の計画技法(1)	都市憲章や市民参加など都市づくりの自主的なあり方
第14回	都市の計画技法(2)	複雑な社会における新しいプランニングを目指して
第15回	都市の総合的な計画に向けて	総集編および都市プランナーへの道

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初めに全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマの概略を説明する。これにもとづき各回とも毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

## 【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものを紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験(持ち込み不可)70%、平常点(授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか)30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ノートをしっかりとり、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。

## 【その他】

2011年度までに旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修できない。

## 都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

### 【授業の到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木建造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巢）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家（アーキテクト）と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	第1回目の課題を出題する 玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	第2回目の課題を出題する 居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第3回目の課題を出題する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第4回目の課題を出題する
第10回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第5回目の課題を出題する
第11回	住宅事例の紹介（1）	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介（2）	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

### 【テキスト】

講義時に資料を配布する。

### 【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

### 【成績評価基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断できる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

### 【その他】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**環境社会論 I**

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

**【授業の到達目標】**

本講義では、社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得することを目的とする。

[]

**【授業の概要と方法】**

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水のかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	社会学／環境社会学とは何か？(1)	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	社会学／環境社会学とは何か？(2)	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造(1)	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造(2)	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造(3)	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏(1)：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏(2)：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ(1)～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ(2)～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	環境破壊と社会的ジレンマ(3)～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第11回	「水」と生活文化(1)～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第12回	「水」と生活文化(2)～「近い水」「遠い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化(3)～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第14回	「水」と生活文化(4)～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第15回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

**【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】**

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

**【テキスト】**

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房  
その他、適宜、指示をする。

**【参考書】**

同上。

**【成績評価基準】**

論述式の試験(70%：持ち込み可) + 出席点、講義中に行うコメントペーパーなど(30%)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

**【関連の深いコース】**

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

## 【授業の到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解することを目的とする。環境問題に対して住民、市民がどのように関わることが可能なのかという実践的な課題にアプローチするために、環境問題や地域問題の解決を担う新たな動きを、国家・行政が独占してきた公共性の再編と捉えた上で、地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計について考える。

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解きながら講義する。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について述べる。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるといった側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に戦後日本の社会運動のマクロな動態を、政治体との関連が議論した後、反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とそ の変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とそ の変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレミング	「フレミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	環境運動と政治	イベントデータを用いたマクロ分析によって、戦後日本の社会（環境）運動と政治との関連について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第14回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（2）	市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。

第15回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力 講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中に参照した文献の講読。

## 【テキスト】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

## 【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）（できれば教科書として購入することが望ましい）

## 【成績評価基準】

期末試験と、コメントシートもしくは追加レポートで評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 環境社会論Ⅲ

## 西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会的な議論（応用編）を展開する。

## 【授業の到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

[]

## 【授業の概要と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐめる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求『環境の社会学』有斐閣（2009年）  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

## 【成績評価基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【その他】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提に履修されたい。なお、前年度までに「人間環境特論－環境と地域の持続性を考える」を修得した者は、履修できない。「人間環境特論－環境と地域の持続性を考える」の再履修者は「人間環境特論－環境と地域の持続性を考える」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 労働環境論 I

金子 良事

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「労働環境を考える」

### 【授業の到達目標】

仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の教育訓練、昇進、昇給、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解できるようにすることをめざす。

II

### 【授業の概要と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、雇用とジェンダー、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプトアップデートな諸問題をも随時紹介しつつ、現実への理解を深める。

II

II

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第 2 回	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それがどう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
第 3 回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第 4 回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第 5 回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみていく。
第 6 回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
第 7 回	賃金システム	労働条件の基本をなし、かつきわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
第 8 回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第 9 回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第 10 回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
第 11 回	性別職域分離	多くの場合、男女間で担当する仕事は異なる。その現状と近年の変化について学ぶ。
第 12 回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第 13 回	高齢化社会と雇用	少子高齢化の進行とともに高齢者の働き方が注目されている。その現状と今後について考える。
第 14 回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行の特徴は何かについて、メリット、デメリットを含め総合的に評価する。
第 15 回	試験	試験によって本講義の理解を確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義が受講できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認する。

### 【テキスト】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方（改訂版）』有斐閣ブックス、2012年。

### 【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては随時、レジュメやプリント配布物で補う。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができているか、説明できているか等を評価の基準にする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当。

### 【その他】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが必ず経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決に向かうか考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース



## 労働環境論Ⅱ

金子 良事

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

労働環境への理解を深める。

### 【授業の到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、仕事や雇用に関するより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的なテーマについて考え、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行に役立つ知識の習得をめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

就職、昇進、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1テーマ1～3回で授業を進める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて広く考える。
第2回	大学生の就職	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのかを考える。
第3回	日本の雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本の雇用慣行の特徴を概観する。
第4回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第5回	労働環境と安全衛生 1	職場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第6回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第7回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第8回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に学ぶ。
第9回	労働環境と労働時間 3 (長時間労働をめぐる諸問題)	メンタルヘルスや過労死等、労働時間をもたらす影響について考える。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は雇用に関する女性の地位の低さについて国際機関から指摘されている。その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別 (年齢差別禁止を中心に)	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任 (CSR)	企業の社会的責任 (CSR) とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。どういったことが起こり、当事者や行政等はそれにどう対処したのかについてみていく。
第15回	試験	14回の学習の到達度をみるために試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前に学習と事後の復習を必須とする。

### 【テキスト】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当。

### 【その他】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強します。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱います。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

## NGO活動論

中村 玲子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

NGOはNon-governmental organizationの略。GO(Government)の対極にあり、GOの方針や施策を監視し、必要に応じて是正すると同時に、GOの手の届きにくい社会のすきま(ニッチ)を、先取的に発見し、必要な対策をGOに代わって実現していくパートナーとしても重要な役割をもつ。

NGO活動の核は「参加」である。活動の現場は世界中にあり、その内容や手法もさまざま。ラムサール条約、生物多様性条約、気候変動枠組条約など、地球環境を守るための国際条約の誕生や履行には、NGOによる発見、提言、具体的な活動が大きく寄与している。とくにグローバルな環境問題の解決に、「国家」の概念にとらわれないNGOの役割重要性を増しているは欠かせない。NGO活動に主体的に参加する人が増えれば、社会を変えてゆくことができる。

授業では、講師自らが環境NGOを創設・運営し、アジアの湿地を舞台にシンポジウムの開催や子ども環境教育を実践してきた経験をベースに、環境分野におけるNGO活動を中心に、実践的NGO論を展開する。受講者ひとりひとりが、NGO活動を創造する意識をもつことを目標としている。

### 【授業の到達目標】

受講者が、NGO活動の役割、意義、その効果や楽しさを理解し、参加するNGO活動を見つけだし、あるいは自分で新しいNGO活動を創造することを目標としている。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義のほか、NGOの現場から外部講師を招いての事例研究とディスカッションを活用する。適宜、社会・環境時事問題を取りあげて、地球環境問題への意識を育てる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらい、内容、進め方。 NGOとは。NGOとNPO。なぜNGO活動が必要か。
第2回	国際NGOとローカルNGO	種類、規模、使命、活動分野、役割分担と連携。
第3回	国際条約とNGO	ラムサール条約、ワシントン条約、生物多様性条約などとNGOのかかわり。
第4回	活動事例研究(国際NGO)	国際的に活躍する主要な開発NGOの活動について。IUCN、WWFなど。
第5回	活動事例研究(国際NGO)	国際的に活躍する主要な開発NGOの活動について。FOE、グリーンピースなど。
第6回	活動事例研究(日本のNGO)	日本に基盤をおきながら、国際的に活動するNGOについて。ラムサールセンターの活動を中心に。
第7回	活動事例研究(日本のNGO)	日本に基盤をおきながら、国際的に活動するNGOについて紹介。
第8回	活動事例研究(途上国のNGO)	中国、韓国、タイ、マレーシアなどの現状とNGO活動の事例。
第9回	活動事例研究(途上国のNGO)	バングラデシュ、インド、ネパールなどの現状とNGO活動の事例。
第10回	NGOと企業	これからの企業との協力のかたち。パートナーシップ、CSRなど。
第11回	NGOのマネジメント	ボランティア、会員、理事会、サポーター、スポンサーなどのマネジメントについて。
第12回	NGOの活動資金	多様な助成金の存在。地球環境基金、経団連自然保護基金、GEF、企業の基金などの紹介と活用。
第13回	NGO活動とODA	開発途上国支援におけるNGOと政府の協働について。JICA、KOICA、SIDAなど事例に。
第14回	NGOのつくりかた	自分でNGOを創るにはどうするか。
第15回	補足とまとめ。	これまでの授業の補足、まとめ。レポート提出期限。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

事前に参考資料を配布し、授業までに読んできてもらうことがある。

### 【テキスト】

授業内で適宜、紹介。場合によっては配布する。

### 【参考書】

授業内で適宜、紹介。

### 【成績評価基準】

出席率とレポート提出をあわせて評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

事前に参考資料等をできるだけ配布する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVDなど。

### 【その他】

関連の深い科目

NPO・ボランティア論

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース

## 地域環境ケーススタディ I

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

農山村の現状と課題について考える。

## 【授業の到達目標】

農山村の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

[]

## 【授業の概要と方法】

過疎や限界集落など日本の農山村は深刻な問題を抱えている。こうした地域を対象にしてきた学術研究団体として「日本村落研究学会」がある。毎年、この学会の大会では、ある一つのテーマに即したセッションを開催し、その内容を『年報村落社会研究』というタイトルの学術書として農山漁村文化協会から出版してきた。この書籍は、農山村の現状と課題を知るうえで有効なテキストである。そこで本授業では、ここ 20 年間の『年報村落社会研究』をとりあげ、農山村という地域についての専門的な講義を行う（この書籍は法政大学の図書館に所蔵されている）。また受講生にも、このテキストについての発表をもらう。そして全員で討論を行う。なお本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを前提とし、またゼミ形式を導入するため受講者を 30 名程度に限定する。もし受講希望者が超過する場合は、第 1 回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第 2 回	なぜ農山村について学ぶのか？	農山村の現状と問題を説明する。
第 3 回	戦後の農業政策の展開と変容	『年報村落社会研究』第 37 集「日本農業・農村の史的展開と農政：第二次大戦後を中心に」（2001 年）をとりあげる。
第 4 回	農山村の特徴と変容	『年報村落社会研究』第 38 集「日本農村の構造転換を問う：1980 年代以降を中心として」（2002 年）をとりあげる。
第 5 回	日本の農業経営の特徴と変容	『年報村落社会研究』第 30 集「家族農業経営の変革と継承」（1994 年）をとりあげる。
第 6 回	農業経営における女性	『年報村落社会研究』第 31 集「家族農業経営における女性の自立」（1995 年）ならびに第 48 集「農村社会を組みかえる女性たち：ジェンダー関係の変革に向けて」（2012 年）をとりあげる。
第 7 回	農山村における有機農業（有機農業運動）の展開	『年報村落社会研究』第 33 集「有機農業運動の展開と地域形成」（1998 年）をとりあげる。
第 8 回	農業・農山村と教育	『年報村落社会研究』第 42 集「地域における教育と農」（2006 年）をとりあげる。
第 9 回	流行としての農業・農山村ブーム	『年報村落社会研究』第 41 集「消費される農村：ポスト生産主義下の『新たな農村問題』」（2005 年）をとりあげる。
第 10 回	農業・農山村と観光	『年報村落社会研究』第 43 集「グリーン・ツーリズムの新展開：農村再生戦略としての都市・農村交流の課題」（2008 年）をとりあげる。
第 11 回	農山村における福祉	『年報村落社会研究』第 35 集「高齢化時代を拓く農村福祉」（1999 年）をとりあげる。
第 12 回	農山村における鳥獣被害	『年報村落社会研究』第 46 集「鳥獣被害：『むらの文化』からのアプローチ」（2010 年）をとりあげる。
第 13 回	農村の活性化	『年報村落社会研究』第 45 集「集落再生：農山村・離島の実情と対策」（2009 年）をとりあげる。
第 14 回	山村の活性化	『年報村落社会研究』第 34 集「山村再生：21 世紀への課題と展望」（1998 年）をとりあげる。

第 15 回 新たな農業・農山村のモデル構築 『年報村落社会研究』第 36 集「日本農村の『20 世紀システム』：生産力主義を超えて」（2000 年）ならびに第 39 集「21 世紀村落研究の視点：村研 50 周年記念号」（2004 年）をとりあげる。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。また授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を自主的に読んでおくこと。さらに次の授業で扱うプリントも読んでおくこと。

## 【テキスト】

テキストは指定しない。毎回、授業では、次の授業で扱うプリントを配布する。

## 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

授業への参加状況（出席回数、発表内容、討論への参加など）を 40 % として評価する。さらに学期末に課すレポートを 60 % として評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013 年度より担当

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 地域環境ケーススタディⅡ

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、都市における参加・協働のまちづくりがテーマです。超高齢社会に向かうにあたり、住みよい都市をつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりとの協働が不可欠です。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・プランニング）を形成する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し理解を深めるとともに、日本におけるまちづくりの歴史と展開、アメリカにおけるコミュニティプランニング、台湾における社区营造、韓国におけるマウルマンドゥルギなどの実践とその課題を紹介し、これら事例の基礎をなす理論、技術、制度について横断的に考えつつ、身近な都市のつくり方について考えます。

### 【授業の到達目標】

まちづくり（コミュニティプランニング）を形成する理論、技術、制度について基礎知識を習得すること。これを元に身近なまちづくりの事例を調査分析し、望ましい解決策を検討すること。これらをレポートにまとめ習得したことを発信することが到達目標です。

【

### 【授業の概要と方法】

もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では2030年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。

これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）まちづくり（＝コミュニティプランニング）の基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。（4）本授業では各人調査テーマを一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）～（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

【

【

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第2回	2. まちの見方・考え方	まちづくりの基本的なことを学びます。
第3回	超高齢社会の課題とまちの変化	2030年に向けてまちがどう変わるのかを考えます。
第4回	まちづくりの歴史的展開	1960年代～今日までのまちづくりの歴史を学びます。
第5回	まちづくりにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	まちづくりの主体、しゅた形成、組織形成の理論について考えます。
第6回	まちづくりと住民参加、協働の理論、新しい公共性	参加、協働がなぜ必要なのかを考えます。
第7回	レポート中間報告	成果報告に向けてレポートの中間報告を行います。
第8回	まちづくりの事例分析1	空き家の活用と地域共生の家づくり支援事業について学びます。
第9回	まちづくりの事例分析2	住民自治型協働のまちづくりについて学び、コミュニティ、自治組織の再編について考えます。
第10回	まちづくりの事例分析3	震災復興のまちづくりから見る現在の都市づくりの課題を考えます。
第11回	まちづくりの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第12回	まちづくりの事例分析4	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第13回	まちづくりの事例分析5	諸外国のまちづくりとの比較を通して日本のまちづくりの特殊性を考えます。
第14回	成果発表1	半期の調査研究成果の報告会
第15回	成果発表2	半期の調査研究成果の報告会

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・都市、地域、まちに興味を持っていただき、それが自然に「成った」わけではなく、様々な社会的技術によって創られていることに興味を持ってください。

・都市における参加・協働のまちづくり実践には、これといった教科書がありませんので、上記のことに興味を持ちつつ自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。

・そのためには、講義で言及したまちづくりの事例を実際に見学したり、関連する情報の収集に積極的に努めてください。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

### 【参考書】

- ・2030年超高齢未来、東洋新報社
  - ・超高齢社会、中央経済社
  - ・住民主体の都市計画—まちづくりへの役立て方、学芸出版社
  - ・新時代の都市計画- 市民社会とまちづくり、ぎょうせい
- その他、授業中に指示します。

### 【成績評価基準】

成績は最終回でのプレゼンテーションとレポートで評価します（100%）。なお評価されるレポートは、教員、本授業の出席者との対話を通して生産されるものです。講義に常時出席していただくとともに、積極的なディスカッションを期待します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

昨年度の地域形成論の授業改善アンケートでは、少人数でディスカッションをしながら進めたかったとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

### 【その他】

定員は最大30名です。受講希望者が多数の場合には、第1回目の授業で選抜を行います。学ぶことともに、考えることの多い授業にしたいと思います。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 災害政策論

### 鍵屋 一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

自治体を中心とした災害政策の現状と今後の方向性

#### 【授業の到達目標】

- ①日本の国・自治体の災害政策の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を考える。
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。
- ④大学生自身の危機対応力を高める。

【】

#### 【授業の概要と方法】

東日本大震災の発生に伴い、災害政策の充実が叫ばれている。現代は大規模災害の時代であり、災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題、現実的な解決政策を講義する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

災害イメージを涵養し、現場感覚をつかむため、国・自治体職員、NPO・ボランティアなどのゲストスピーカーから実践的な講義も受ける予定である。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。
第2回	災害政策の全体像	PPT および中央防災会議資料を使用して国、自治体の災害政策の全体像を説明する。
第3回	大災害時の市民、行政の行動(1)	阪神淡路大震災時のもっとも厳しい行政対応の生々しい記録を読む。その後、グループワークで KJ 法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第4回	大災害時の市民、行政の行動(2)	阪神淡路大震災時の地域対応の生々しい記録を読む。その後、グループワークで KJ 法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回	防災教育	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。
第6回	防災ボランティア	被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを講義する。
第7回	建物耐震化政策(1)	地震防災の最重要課題である建物耐震化の政策の変遷について解説する。
第8回	建物耐震化政策(2)	建物耐震化を現場で進める専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第9回	災害時要援護者支援(1)	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。自治体の支援対策を講義する。
第10回	災害時要援護者支援(2)	要援護者は、事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を講義する。
第11回	新たな地域防災計画のあり方	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を講義する。
第12回	防災条例と政策評価	防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について講義する。
第13回	企業の事業継続計画(BCP)	企業は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画が BCP であり、その内容と効果について講義する。
第14回	福祉事業者、行政の事業継続計画(BCP)	福祉事業者や行政における災害対応及び通常業務の継続について講義する。

#### 第15回 地域継続計画への展望

地方部は高齢化が進み、地域全体の持続可能性が危ぶまれている。地域全体が持続可能な計画を作成する可能性について講義する。

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

災害政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」を事前に見ておいていただきたい。また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

#### 【テキスト】

教科書は使用しない。授業では、PPT や論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

#### 【参考書】

内閣府防災情報のページ、自治体のホームページ

鍵屋一著「図解 よくわかる自治体の防災危機管理のしくみ」学陽書房

#### 【成績評価基準】

質疑への参加 40% (講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する)

レポート(2000字以上) 60%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パワーポイントを活用したわかりやすい講義に心がける。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクタ、コピー

#### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 科学技術社会論

野澤 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

私たちは科学・技術に囲まれて生きています。科学・技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学・技術が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな災厄をもたらす可能性があります。東日本大震災と福島原子力発電所事故は、私たちが科学・技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示しています。この講義では、具体的な事例を通じて科学・技術と社会との関わりを学ぶことによって、科学・技術を社会の中で生かす方法を考えていきます。

### 【授業の到達目標】

- ・科学・技術と社会との関わりを示す代表的な事例の概要とその意義を理解すること
- ・科学技術社会論の基本的な概念とその背景にある理論の概要を理解すること

【】

### 【授業の概要と方法】

科学・技術が社会の中でどのように働いているかを理解するために、図表入りのパワーポイントを用いて説明するとともに、DVDで具体的な事例を鑑賞していただきます。また、毎回、出席カードに感想・意見・質問を書いてもらい、次の時間の冒頭でいくつか紹介することにしていただいています。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	科学とは？ 技術とは？ 社会とは？	授業のガイダンスをおこなうとともに、小惑星探査機「はやぶさ」を例に、科学と技術と社会との関わりを考える。
第2回	科学、技術、科学技術、イノベーション	産業革命などを例に「科学」「技術」「科学技術」「イノベーション」について考える。
第3回	公害問題	水俣病などを例に、企業の社会的責任を考える。
第4回	地球環境問題	地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性の観点から考察する。
第5回	戦争と科学・技術	科学・技術の発達と戦争がどのように関わってきたのかについて考える。
第6回	事故と科学・技術	スペースシャトル・チャレンジャー号の事故などを例に、技術者倫理や科学・技術の失敗について考える。
第7回	科学・技術と安全	化学物質などを例に、科学・技術と安全の問題を考える。
第8回	科学・技術とリスク	遺伝子組み換え食品（GMO）などを例に、リスク分析（リスク・アナリシス）について考える。
第9回	科学・技術と知的財産権	青色LED特許裁判やWinny事件などを例に、科学・技術の商業化について考える。
第10回	巨大科学技術と社会	JR福知山線脱線事故などを例に、巨大科学技術が社会に及ぼす影響について考える。
第11回	研究者と社会	論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究者と社会との関わりを考える。
第12回	先端の科学・技術と社会	理科離れについても併せて考察する。再生医療などを例に、最先端の科学・技術が社会に及ぼす影響を考える。
第13回	専門家と市民との関係	これまで取り上げた事例を振り返りながら、科学・技術の専門家と非専門家とのコミュニケーションのあり方について考える。
第14回	科学技術政策	日本の科学技術政策の特徴と課題について考える。米国や欧州の科学技術政策の動向についても簡単に紹介する。
第15回	期末試験	授業での理解を確認するため、期末試験を実施する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・中間レポート（文章の要約）を提出してもらう（1回）。
- ・授業では、その時々々の事故や話題を取り上げるので、ニュースやインターネット、図書館等で積極的に情報収集をしてほしい。

### 【テキスト】

- ・教科書は使用しない。

- ・毎回資料を配布する。
- ・必要に応じて参考になる文献やWeb資料などを紹介する。

### 【参考書】

- ・平川秀幸『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』、NHK出版生括人新書、2010年
- ・小林信一・小林傳司・藤垣裕子編著『社会技術概論』、放送大学教育振興会、2007年
- ・藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』、東京大学出版会、2005年

### 【成績評価基準】

- ・出席点20%、中間レポート30%、期末試験50%
- ・中間レポートでは、書籍の一部を読んでA4用紙一枚程度に要約してもらう。
- ・期末試験では、授業で取り上げた事例やキーワードを文章で簡潔に説明してもらう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

- ・授業内の時間配分を工夫したい。
- ・中間レポートの有意義な活用方法を工夫したい。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・授業で使用するパワーポイントは、毎回の授業終了後に授業支援システムにアップロードする。
- ・中間レポートはWeb提出に限る。
- ・中間レポートの評価とコメントを授業支援システムで行う。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 社会開発論

## 秋吉 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

近年、経済成長が貧困削減には必ずしも結びつかないことが明白となり、社会開発への関心が高まっている。社会開発とは、貧しい人びと、社会的に弱い立場にいる人びとが経済的利益のみならず政治参加や社会的な権利などを獲得することである。本講義では、これら社会開発の中でも、人びとが様々な資源を利用しながら、よりよい生活を作り上げていくプロセスに注目する。

## 【授業の到達目標】

本講義では、社会開発についてのいくつかの理論的立場、具体的にはケイパビリティ論や社会的投資論など、について基礎的な知識を得る。これら基礎知識を元に、人びとが主体となってよりよい生活を追及する上で、私たち自身に何が出来るのか、考える視点を培う。

【】

## 【授業の概要と方法】

まず、社会開発とは何かについて、歴史的経緯も踏まえて概説する。次に、日本や途上国の事例を用いて、人々が生活向上を達成している場（地域）と、そこでの相互交流、さらにそこから生まれる支援的な政策環境について紹介する。最後に、社会開発に自分たちがどう関われるかについて、考察を深める機会を作る。

講義では映像資料を用いて、多くの学生にはなじみのない日本や途上国の現場を理解する一助とする。授業後には、コメントシートもしくは授業支援システムを通じて、授業で取上げた理論や事例に関わる問い集め、次の授業に反映させる。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 社会開発に関わる歴史的経緯	社会開発とは何か、本講義で取上げるテーマについて全体像を紹介する。また、社会開発の定義について、本講義における立場を概説する。
第2回	高齢者のイニシアティブによる米生産：日本の中山間地における過疎高齢化への対応	高知県において、棚田での米生産者を中心に、県の支援を受けつつ、過疎高齢化によるシステム不全からの脱却を図りつつある事例を紹介する。
第3回	高齢者のイニシアティブによる福祉：タイ貧困高齢者によるセーフティネットづくり	タイにおいて、コミュニティ組織開発機構による福祉基金を原資に、高齢者グループが主導してセーフティネットを編み出した事例を紹介する。
第4回	被災者が主体となる生活再建：津波の爪あとを乗り越える	日本大震災の被災地において、被災住民が中心となって復興計画を取りまとめ、被災後の制約の中で漁の仕組みを作り、生活再建に動き出した事例を紹介する。
第5回	被災者が主体となる取生計向上：外部とのつながりを利用する	インド西部大地震の被災地において、被災住民が初めて得た外部支援者（NGO等）とのつながりを利用し、住宅再建や継続的な雇用を得た事例を紹介する。
第6回	社会開発の枠組み：人びとがよりよい生活を創る支援	これまで見てきた、人びとが主体となって、よりよい生活を創り上げる上で効果的であった支援を、政策、地域、支援者の3つの視点で整理する。
第7回	農村女性が会社を買える：雪印百株運動	日本の農家の女性たちが、雪印食中毒事件を受け、雪印の株を購入することで、雪印を支えながら意見をいい、雪印株式会社の体制を変えてきた事例を紹介する。
第8回	貧しい農村女性が銀行を変える：グラミン銀行	バングラデシュにおいて、土地をもたない貧しい農村女性が集まり、小額の融資で起こした事業で借金を完済し、銀行のシステムを変えてきた事例を紹介する。
第9回	コミュニティハウス：障害児支援から地域の生活課題支援へ	北海道において、保護者グループによる障害児支援から始まり、障害の有無を越えた地域生活支援へと拡大した事例を紹介する。

第10回	CBRセンター：障害者と健常者の相互作用	マレーシアにおいて、地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）センターが、広く地域社会の活動に使われ、障害者の収入向上へとつながった事例を紹介する。
第11回	ホームレスの相互交流空間：最低限の生きる権利を	日本の山谷において、ホームレスやネットCAFE難民が、集まる場での相互交流から、住宅や福祉受給など、自らの生きる権利を確保した事例を紹介する。
第12回	スラム住民で作り上げた下水道：ブループリント型の限界	パキスタンにおいて、スラム住民が近隣グループで自宅前の下水道敷設を実行し、その動きがスラム全体に広がった結果、行政を動かした事例を紹介する。
第13回	米生産者の転身：農産物加工と直売が育む生きがい	岩手県において、減反や米価格の下落に悩む農業者が農作物の加工に取り組み、付加価値をつけて直売することで生計と生きがいを見出した事例を紹介する。
第14回	ミルク生産者が作った国の酪農政策：プロセスラーニング	インドにおいて、ミルク仲買人による搾取に反発した生産者が村レベルで酪農協同組合を作り、加工・販売・購買まで手がけて生活を改善した事例を紹介する。
第15回	まとめ：社会開発と私たちの関わり	日本や途上国において、様々な生活課題に直面する人びとが、主体的によりよい生活を創っていくプロセスに、学生は何が出来るのか、考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に提示する授業テーマに関連する参考図書や参考文献を、事前/事後に参照し、理解を深めること。授業後のコメントに反映させることを期待する。

## 【テキスト】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。

## 【参考書】

佐藤寛ら（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者セン・アマルティア（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店  
二木立ら（2008）『福祉社会開発学』ミネルヴァ書房

## 【成績評価基準】

定期試験：70%

各講義に対するコメント提出：30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本科目に関する授業改善アンケートは得ていないが、授業では学生からのコメントシート等を参考に、その都度、学生の理解を深めるための工夫に努力していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用したスライドや配布資料は、授業支援システムに掲載する。

## 【関連の深いコース】

国際環境協力コース

## グローバルコミュニティ

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、ライフキャリアに関わるトピックスをもとに、英語で情報を検索する・文献を読む・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

## 【授業の到達目標】

インターネットの広がりによって、わたしたちは無限大の情報にアクセスすることが可能になりましたが、そのなかで日本語で表記されているものはごく一部にすぎません。世界でどのようなことが起きているのか、人々はどうのようことを考えているのか、自分が知りたいことをどこで、どのように探せばよいのかなど、英語というツールを用いて皆さんの視野を広げ、キャリア形成に役立てることを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探し、それを読み込む、自分の考えを英語で表現する、といったプロセスを通して、外国語を身近なものにしていきます。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と予復習のたゆまぬ積み重ねが求められます。なお、授業の性質上、受講者数に制限を設けます（初回の授業で簡単なテストを実施します）。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび受講テスト	受講希望者数に応じて試験を行う。また、授業の進め方、必要な辞書等について説明する。
第2回	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマを英語で説明する。
第3回	情報検索①	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第4回	情報検索②	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第5回	文献講読①	指定した文献の講読を行う。
第6回	文献講読②	指定した文献の講読を行う。
第7回	文献講読③	指定した文献の講読を行う。
第8回	テーマの設定①	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第9回	テーマの設定②	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第10回	テーマの設定③	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第11回	英語によるスピーチ①	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第12回	英語によるスピーチ②	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第13回	英語によるスピーチ③	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第14回	ディスカッション	スピーチの内容を基に英語で議論を行う
第15回	まとめと振り返り	学習の成果と課題について検証する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などのホームワークが適宜課されます。

## 【テキスト】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。原則として毎時間、英和・和英辞書を持参してください。

## 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

## 【成績評価基準】

授業への参加度（出席状況、発言、ディスカッションなど）60%  
学期末の記述試験 40%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度は主として文献講読と英作文（および添削）に時間を費やしたが、本年度はさらにスピーチの機会も設けたい。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

開発や人権の問題に取り組む教育は、それを抱えた人々の間で実践を重ねられてきました。その中で創られてきた視点、考え方や、“参加型”手法を紹介します。

## 【授業の到達目標】

- 1) アジアや国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、開発に関わる人材育成や能力強化活動の報告書等から、参加者主体の学習、エンパワメントとしての学習に関する歴史や経緯、基本概念を理解する。
- 2) 平和、人権、多文化主義、ジェンダー等これからの社会で他者と共に生きるための必要な概念を自分の生き方からし方、社会の現実と関連させながら理解する。
- 3) ささまざまな問題に主体的に、他者とともに取り組むことをめざした参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、実践する。

[]

## 【授業の概要と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担していただく回も複数あります。授業は参加型学習/活動で進めていきます。その中でのディスカッションは適宜英語/日本語で行います。何をどのような枠組で思考するのか、そのことから何を学んだのかを重視します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation History & Background ① Why Education for Empowerment?	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業の進め方</li> <li>ユネスコの教育の流れと開発</li> <li>途上国での実践について概観します。</li> </ul>
第2回	Current Agenda for Future-Gender, VAW & HRs	途上国の実践で開発されたワークからジェンダー、女性への暴力、人権の課題を学びます
第3回	History & Background ② Popular Education & Educational Context of the Philippines	フィリピンの Popular Education のテキストから開発の課題を抱えた状況を知り、学び変化する解決プロセスとしての教育について考えます。
第4回	Peace Education: A Pathway to a Culture of Peace ①	フィリピンの平和教育のテキストを概観し、多文化社会の中での平和をとらえる枠組や論点を学びます
第5回	Peace Education: A Pathway to a Culture of Peace ②	先入観・偏見について
第6回	Education: A Pathway to a Culture of Peace ③	寛容について
第7回	Education: A Pathway to a Culture of Peace ③	非暴力・非暴力直接行動・アドボカシー
第8回	Participatory Learning & Action ①	貧困・開発の問題を抱えた地域のエンパワメントとして実践されている PRA/PLA について学びます。
第9回	Participatory Learning & Action ②	途上国の開発の場で実践された学習の理念と手法（ツール）について実践します
第10回	Participatory Learning & Action ③	ツールの実践とコミュニケーションについて学びます。
第11回	A Call to Dignity ①- How Indonesia's Women Headed Household Empowerment Program(PEKKA) is transforming lives and changing development paradymes.	インドネシアの社会背景とアチュの女性たちの課題と背景についてテキストから学びます。
第12回	A Call to Dignity ②	NGO とは何か、開発プロジェクトとしての事業の背景について PEKKA について
第13回	A Call to Dignity ③	エンパワメントのためのアクティビティを実践します。

第14回 A Call to Dignity ④ なぜ、グループが必要なのか、エンパ

第15回 participatory evaluation ワーメントの要件について考えます この授業のふりかえり、評価も参加型で行います

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担を指示された箇所については必要に応じた整理と発表の準備をしておいてください。日常に起こる国際的な出来事や身近な社会の課題に関心を持って情報を得ておくこと。

## 【テキスト】

Peace Education: A Pathway to a Culture of Peace/Loreta Navarro-Castro & Jasmin Nario-Galace  
The Oxfam Gender Training Manual  
Participatory Learning & Action-A Trainers Guide/IIED,  
A Call to Dignity- How Indonesia's Women Headed Household Empowerment Program(PEKKA) is transforming lives and changing development paradymes./World Bank, Japan Social Development Fund

## 【参考書】

『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『いっしょに学ぼう learning together』『わたし、あなた、そしてみんな-人間形成のためのグループ活動ハンドブック』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）、『フィリピンの人権教育』（阿久澤麻理子著）

## 【成績評価基準】

毎回の授業でのふりかえりシート、授業への参加の様子、個人/グループでの成果物（模造紙作業やワークシート）、レポート

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティがその場でよかっただけではなく、テキストやアクティビティの伝える概念やメッセージを読み解くことと、進行、手法、思考の枠組、問いかけについての意味を自分で掴む両方を要求するため、戸惑う事もあります。不消化感や疑問も自分の中で保持する力、他者に問いつける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。

## 【その他】

わたしたちが世界とどのように関わって行くのかを考える前提として、アジアの人々が何を論じ、学び、身につけているのかをその実践の中から学んで行きましょう。

## 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

## 人間環境特論（ファシリテーションの基礎）

三田地 真実

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

- 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
- 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

## 【授業の到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）。
- 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

[]

## 【授業の概要と方法】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるという事はほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。そのため授業は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・問いかけの重要性について考える ・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第6回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第8回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションの本番（1） ・グループ・ワーク	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する
第11回	ワークショップのプレゼンテーション	・行動計画の書き方 ・ワークショップの総仕上げ
第12回	ファシリテーションの本番（2） ・グループ・ワーク	・グループにてワークショップを実施（第1回）

第13回	ファシリテーションの本番（3） ・グループ・ワーク	・グループにてワークショップを実施（第2回）
第14回	ファシリテーション全体のまとめとふり返り	・ファシリテーション全体のふり返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施
第15回	まとめと未来に向けて	・ライフストーリー曼荼羅ワーク ・ワークショップによる、授業の学びの未来への発展

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

## 【テキスト】

・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、2013）

## 【参考書】

- ・「ファシリテーション革命」（中野民夫、岩波アクティブ新書、2003）
- ・「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」（三田地真実、金子書房、2007）他

## 【成績評価基準】

- ・出席点：約 60 %（毎回、出席カードの代わりにふり返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、大変好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他】

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。初回授業についての連絡は、「学部掲示板」に掲示されますので、掲示板をよく読んでから出席してください。

## 【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会的な議論（応用編）を展開する。

## 【授業の到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

[]

## 【授業の概要と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求『環境の社会学』有斐閣（2009年）  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

## 【成績評価基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【その他】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提に履修されたい。なお、本講義を履修し、単位を取得したは、次年度以降、同一教員・同一サブタイトルの人間環境特論の履修は認められない。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考えます。

## 【授業の到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」です。また農産物は動植物の「いのち」そのものです。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされます。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのです。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる～まずは農業・農村に興味をもとう！	現代社会において農業や農村を考える意義について学習します。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習します。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習します。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習します。
第5回	「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習します。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習します。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習します。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習します。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いのか？悪いのか？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習します。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習します。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習します。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習します。
第13回	「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？	自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習します。

第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！

生命・物質が循環する自然生態系のために農業の営みを埋め戻す意義について学習します。

第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！

日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考えます。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておいてください。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習をお願いします。

## 【テキスト】

テキストは指定しません。毎回、プリントを配布します。

## 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介します。

## 【成績評価基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価します。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがあります。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようでした。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではありませんが、授業後にリアクションペーパーを課したいと思います。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース





【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室使用。

【その他】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることである。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えることで、われわれ自身の美意識のありようが浮かびあがってくることだろう。他文化を学ぶことの意義は、ここにある。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。

【授業の到達目標】

春学期授業「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品への鑑賞眼を養う。

【

【授業の概要と方法】

演劇各ジャンルの代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養う。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いてもらう。

【

【

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行なう。受講を希望する人は、必ず出席すること。
第2回	歌舞伎海外公演	「京鹿子娘道成寺」・「春興鏡獅子」・「俊寛」・「仮名手本忠臣蔵」について
第3回	何もない空間：劇場とは何か	「オイディプス王」(ギリシャ悲劇)・「船弁慶」(能)について
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	「白浪五人男」(河竹黙阿弥)・「東海道四谷怪談」(四世鶴屋南北)の見せ場について
第5回	総合芸術としての演劇1	歌舞伎・能・文楽の場合1
第6回	総合芸術としての演劇2	歌舞伎・能・文楽の場合2
第7回	総合芸術としての演劇3	オペラ・ミュージカルの場合1
第8回	総合芸術としての演劇4	オペラ・ミュージカルの場合2
第9回	語り手の役割	東西の演劇における語り手(舞台進行役)の諸相について
第10回	舞台の異化効果	プレヒトの場合と歌舞伎の場合
第11回	歴史はどう描かれるか	歌舞伎の時代物とシェイクスピアの歴史劇について
第12回	現代劇とは何か	歌舞伎の世話物の現代性について
第13回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品の考察
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。
第15回	期末試験(記述式)	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認する。

【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加すること。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要である。

【テキスト】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示する。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

【成績評価基準】

出席・参加態度(授業に関係のない私語には厳しく対応する)。  
ジャーナル(毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出する)  
期末試験(記述式)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評であった。ただし、学習の分量は多いので、2013年度の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めないこととする。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室使用。

【その他】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。

## 伝統芸能論 I

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）は、庶民の、庶民による、庶民のための娯楽だった。その特徴を探る。

## 【授業の到達目標】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）の特徴を理解し、説明できること。

【】

## 【授業の概要と方法】

プリント、CD、映像等を利用した講義となるが、質疑応答の時間をできるだけ取るようにしたい。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと概説	授業の進め方と日本（江戸）の伝統芸能の概説
第2回	日本（江戸）の伝統芸能と芸術	芸能と芸術の概念（日本と西洋）についての講義と質疑応答
第3回	日本（江戸）の伝統芸能	日本（江戸）の伝統芸能の種類とその特徴についての講義と質疑応答
第4回	日本（江戸）の伝統音楽（1）	日本（江戸）の伝統音楽の種類その特徴についての講義と質疑応答
第5回	日本（江戸）の伝統音楽（2）	日本（江戸）の伝統音楽に使われる楽器
第6回	日本（江戸）の伝統音楽（3）	日本の伝統音楽の鑑賞①と質疑応答
第7回	日本（江戸）の伝統音楽（4）	日本（江戸）の伝統音楽の鑑賞②と質疑応答
第8回	日本（江戸）の伝統音楽（5）	日本（江戸）の伝統音楽の鑑賞③と質疑応答
第9回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（1）	日本（江戸）の伝統演劇の種類とその特徴についての講義と質疑応答
第10回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（2）	歌舞伎の概説、その特徴についての講義①と質疑応答
第11回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（3）	歌舞伎音楽の概説、その特徴についての講義②と質疑応答
第12回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（4）	歌舞伎の鑑賞①と質疑応答
第13回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（4）	歌舞伎の鑑賞②と質疑応答
第14回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（5）	歌舞伎の鑑賞③と質疑応答
第15回	まとめ	春学期のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるように、疑問点を整理しておくこと。

## 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「文楽ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋 編、三省堂。

## 【成績評価基準】

出席状況、レポート（1回予定）、期末試験等、総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【その他】

現在余り接触する機会が多くない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分からないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じる大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

※ 授業計画は、進度によって予定変更もあり得る。

※ 2011年度までに「古典芸能の現在」を修得済の学生は履修することができない。

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース



## 伝統芸能論Ⅱ

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）は、庶民の、庶民による、庶民のための娯楽だった。その特徴を探る。

### 【授業の到達目標】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）の特徴を理解し、説明できること。

[]

### 【授業の概要と方法】

プリント、CD、映像等を利用しての講義となるが、質疑応答の時間をできるだけ取るようにしたい。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと概説	授業の進め方、「伝統芸能論Ⅰ」の総括と「伝統芸能論Ⅱ」の概説
第2回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（1）	人形芝居（日本と西洋）の特徴についての講義と質疑応答
第3回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（2）	文楽の概説、その特徴についての講義と質疑応答
第4回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（3）	文楽の音楽、その特徴についての講義と質疑応答
第5回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（4）	文楽の鑑賞①と質疑応答
第6回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（5）	文楽の鑑賞②と質疑応答
第7回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（6）	文楽の鑑賞③と質疑応答
第8回	日本（江戸）の伝統話芸	落語・講談と寄席の成立、講義と質疑応答
第9回	日本（江戸）の伝統話芸、（1）	落語、その特徴についての講義と質疑応答
第10回	日本（江戸）の伝統話芸、落語（2）	落語の鑑賞①と質疑応答
第11回	日本（江戸）の伝統話芸、落語（3）	落語の鑑賞②と質疑応答
第12回	日本（江戸）の伝統話芸、講談（1）	講談、その特徴についての講義と質疑応答
第13回	日本（江戸）の伝統話芸、講談（2）	講談の鑑賞①と質疑応答
第14回	伝統芸能における女流	女流による芸能の鑑賞と質疑応答
第15回	江戸の暮・正月と芸能	まとめ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるように、疑問点を整理しておくこと。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「文楽ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋 編、三省堂。

### 【成績評価基準】

出席状況、レポート（1回予定）、期末試験等、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【その他】

現在余り接触する機会が多くない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分からないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じる事が大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

※ 授業計画は、進度によって予定変更もあり得る。

※ 2011年度までに「古典芸能の現在」を修得済の学生は履修することができない。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 日本美術史論

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係に考慮にいれつつ考察していく。

### 【授業の到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を母念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ	講義の導入として、日本の絵画史の全体像を概観する。
第2回	日本美術の一系譜としての近代日本画	講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、定義や概略を学習する。
第3回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私たちと、近代日本画との接点を考察する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第6回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第7回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第8回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第10回	大正期の日本画壇～概観	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第11回	大正期の日本画壇～法政大学と再興院展	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第12回	大正期の日本画壇～金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	大正期の日本画壇～文、帝展の佳作	大正期の官展の変容と画壇の発展について概観する。
第14回	近代日本画と洋画	近代美術史上、近代日本画と言わば表裏の関係にあった近代洋画の歴史を概観し、大正末から昭和初期にかけての両者の関係を考察する。
第15回	近代日本画と美術のパトロンたち／まとめ	近代日本画の発展の歴史を、その後援者たちが果たした役割をもとに概観する。まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

### 【テキスト】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

### 【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ — 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説するための読解力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

### 【その他】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も母念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

・2011年度までに旧名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。「日本美術の系譜」の再履修者は「日本美術の系譜」で登録して下さい。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 西洋美術史論

板橋 美也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

イギリスのジャポニスム—日本がどのように眺められてきたのか

### 【授業の到達目標】

近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めています。こうした海外での日本の物事に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々自分の支持する美術思想を正当化するべく日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が1860年代から1930年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

[]

### 【授業の概要と方法】

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第7回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会（1）	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	1910年日英博覧会（2）	日英博覧会の「日本美術」展に関する当時の批評家たちの文章を分析
第12回	モダニズムにおけるジャポニスム（1）	モダニズムの背景説明
第13回	モダニズムにおけるジャポニスム（2）	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第14回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第15回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。

### 【テキスト】

プリントを適宜配布します。

### 【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いざりす）日英美術の交流 1850-1930』展、世田谷美術館、1992年  
谷田博幸、『唯美主義とジャパニスム』、名古屋大学出版会、2004年  
小野文子、『美の交流—イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

### 【成績評価基準】

出席状況、授業への取り組み、試験の成績から総合的に判断します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

板書を工夫します。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する生命倫理学を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状（遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など）に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念（人格・自律・自己決定・ケア）の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

生命倫理学における基礎的概念を正しく理解し、自分でも使えるようにする。インフォームド・コンセント・クオリティ・オブ・ライフ・出生前診断、生殖補助医療について技術面、法律面における現状を正しく理解する。そしてそれらがいかなる倫理的問題を含んでいるかを把握する。その上でその問題を受講生は、自らの問題として考え、判断し、その結論をどのように実行するかといった能力の習得をめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン(人格)論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律(autonomy)の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「生命倫理学の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためにさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

### 【テキスト】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。出席点と平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

## 環境倫理学

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

現代倫理学の基本的な学説の流れを学ぶ。そこで環境倫理学が、どの立場に立脚しているのかを明らかにする。そして環境倫理思想がどのように成立し、発展していったのかを、さまざまな思想家の環境倫理思想を取り上げて検証する。

### 【授業の到達目標】

さまざまな環境倫理学の思想内容や立場を理解することによって、偏在した一方的な環境倫理思想に捕らわれることなく、広範で総合的な環境倫理思想の視野を形成し、環境倫理を考える上での理論的支柱の陶冶をめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

環境倫理学は、「人間中心主義と人間非中心主義」という二項対立図式のなかで成立した。そして人間中心主義からの脱却と人間非中心主義の主張とその検討により、人間以外の生命（生物）や生態系に対する配慮とそれらの権利（自然権）付与へと議論が展開する。この授業では、環境倫理思想の歴史を学び、その学説史の把握に努める。その基盤に立ち環境倫理をダイナミックに広範に捕えて、新たな「環境倫理」を展望する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学的な倫理学について学ぶ	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学の概要
第2回	持続可能な社会を追求する環境倫理学	環境倫理学の基本概念
第3回	人間中心主義の立場に立つ環境倫理学	自然保護から環境主義へ
第4回	人間中心主義克服の潮流	人間非中心主義の環境倫理
第5回	パトス中心主義	自然中心主義における感覚・感受性の意義
第6回	生命中心主義	あらゆる生命の内在的価値とそれへの倫理的配慮
第7回	生態系中心主義	生態系全体の道徳的価値の保護
第8回	環境プラグマティズム	環境倫理の実践的な公共哲学への志向
第9回	環境正義の思想	環境正義による公平な分配と社会的弱者の救済
第10回	環境倫理における動物解放論	シンガーとレーガンの「動物の権利」論
第11回	土地倫理	レオポルドの「土地倫理」思想における全体主義
第12回	ディーブ・エコロジー	生命圏の中での全生命体平等主義の思想
第13回	エコフェミニズム	「リベラル・カルチュラル・ソーシャル・ソシヤリスト」のエコフェミニズムの思想
第14回	道徳的多元論と道徳的一元論	価値一元論と価値多元論の対立点とその批判根拠
第15回	現代環境倫理は何をめざすべきか	エコロジー的な持続可能な環境社会システムの構築

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各授業で取り扱う環境倫理思想の基本文献を授業時に提示します。それを読み込んでおくことが、必要です。

### 【テキスト】

テキストは使用しません。講義時に適宜、資料を配布します。

### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。出席点と平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境哲学基礎論

### 関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

環境哲学とは、文字通り、環境について哲学すること、日常生活の中で疑問に感じないことに目を向けて、考え抜くことである。

#### 【授業の到達目標】

現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、3・11以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものにとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を見出すことができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

[]

#### 【授業の概要と方法】

双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現在の環境問題のおかれている思想状況について	3・11以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする
第2回	「考える・哲学する」とはどうか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第3回	環境哲学とは何か。	従来の様々な環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第4回	基礎作業Ⅰ 意識と環境① 環境の仮説的定義づけと人間の観念	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第5回	基礎作業Ⅰ 意識と環境② 「わたし」と環境の相互作用	環境という意識が、どのように「わたし」に由来するか、そのプロセスを考える。
第6回	基礎作業Ⅰ 意識と環境③ 「わたしたち」と環境の相互作用	同上
第7回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界① 空間とは何か。	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第8回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界② 環境世界の仮想実在性について	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする
第9回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界① 時間とはなにか。	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第10回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界② 時間の世界性とは何か。	時間意識と環境世界との関係を、哲学的な観点から考える。
第11回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界① 共同体とは何か。	共同体と環境世界との関係を考える。
第12回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界② 正義とは何か。	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第13回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を抽出する
第14回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第15回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

#### 【テキスト】

テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

#### 【参考書】

講義中に適宜指示します。

#### 【成績評価基準】

出席率と学期末のテストによる。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

質問はなるべく、授業時間中にするように。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 日本環境史論 I

加藤 貴

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本の歴史の中で首都としての機能をはたした京都、鎌倉、江戸、東京の各都市をとらえ、都市の建設過程、行政機構、物資の調達・流通、市民の社会生活など、多面的な角度から首都の環境問題についてみていくことにする。

### 【授業の到達目標】

日本の歴史を政治的中心地、いわゆる首都を通じて各時代の国家権力、社会構造などの特質を理解した上で、日本における首都の環境問題への理解を深めていく。

[]

### 【授業の概要と方法】

日本における首都の歴史を通じて、首都のもつ政治・経済・文化の特質を明らかにしつつ、環境をめぐる問題についての理解を深めることとする。各回の授業は基本的事項を記載したプリントを配付して説明していき、関連する参考文献も提示する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歴史学と環境	歴史学の特質と環境についての概括的な知識を学ぶ
第2回	歴史学・都市・環境史	歴史学、都市（首都）・環境を理解するための基本的な文献を紹介し、都市の概念についても学ぶ
第3回	平安京	古代の都城について平安京からその特質を学ぶ
第4回	鎌倉	鎌倉時代における武家の首都であった鎌倉についてその特質を学ぶ
第5回	中世の京都	都城の解体から新たな首都性を形成していった京都について武家政権とのかかわりで学ぶ
第6回	江戸前史	近世の首都江戸の前史として中世の江戸について、地名の起源や地方都市としてもった中心性などについて学ぶ
第7回	江戸の建設過程	中世の江戸が近世の首都として大土木工事に大きく変えていく過程について学ぶ
第8回	江戸の人口と地域構造	巨大都市化をとげた江戸の人口・範囲・地域構造について学ぶ
第9回	江戸の行政組織	巨大都市江戸の運営組織について概観しつつ、その特質について学ぶ
第10回	町のしくみ	江戸の都市運営の最小単位である町の構造について学ぶ
第11回	町民の暮らし	褒賞記録から町でくらす町民の生活環境の実体について学ぶ
第12回	女性の暮らし	褒賞記録から町でくらす女性の生活環境の実体について学ぶ
第13回	東京の行政組織の変遷	近代国家の首都となった東京について現代にいたるまでの行政組織の変遷過程からその特質について学ぶ
第14回	東京の都市計画	都市計画の変遷から近現代の東京がかかえた都市問題について学ぶ
第15回	東京市民の生活	近代化をとげていく東京でくらす市民がかかえた問題について住民運動の側面から学ぶ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト・参考書を事前に読んでおくことと、授業で配付するプリントを読み返し、それに揚げられている参考文献を読んで、授業の内容をより深く理解すること。

### 【テキスト】

加藤貴他『東京都の歴史（県史13）』山川出版社 1997年1月

### 【参考書】

加藤貴編『大江戸 歴史の風景』山川出版社 1999年10月

石塚裕道・成田龍一『東京都の百年（県民100年史13）』山川出版社 1986年10月

根崎光男『日本環境史料演習』同成社 2006年など

### 【成績評価基準】

適宜小テストを行い授業内容が的確に理解できているかを確認し、あわせて最後にレポートを提出してもらい、与えられた課題について授業内容と参考文献を関連させつつ自らの理解を反映させてまとめられているかにより、全体で評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 日本環境史論Ⅱ

加藤 貴

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 【授業のテーマ】

江戸について、災害と危機管理、社会保障システム、物資の調達・流通、教育問題、環境問題などというように、毎回個別のテーマをきめて、具体的に事例をあげて江戸の環境問題についてみていくことにする。

## 【授業の到達目標】

近世に日本の首都としての機能をはたした江戸をとりあげ、政治・経済・文化など、できるだけ多面的な角度からみていくことで、環境をめぐる江戸の特質について理解を深める。

[]

## 【授業の概要と方法】

近世巨大都市江戸のもつ政治・経済・文化の特質を明らかにしつつ、江戸の環境をめぐる問題についての理解を深めることとする。各回の授業は基本的事項を記載したプリントを配付し説明していき、関連する参考文献も提示する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	上水道の整備と塵芥処理	社会資本である上下水道や塵芥処理システムの整備過程と維持管理システムについて学ぶ
第2回	火事と消防システム	頻発する火災被害の実態と消防システムなどについて学ぶ
第3回	地震と危機管理	幕末に発生した巨大地震の被害とその後の対応などについて学ぶ
第4回	病と養生所	流行病・薬・医師や貧窮民のための無料の医療施設である養生所をとりあげ医療環境について学ぶ
第5回	犯罪と牢屋敷	犯罪に対する刑罰や拘置施設である牢屋敷などから法的環境について学ぶ
第6回	都市下層民と町会所	都市下層民の生活保障のあり方について町会所などから学ぶ
第7回	無宿と人足寄場	秩序の不安定化をもたらす無宿に対する授産更正もしくは予防拘禁施設である人足寄場について学ぶ
第8回	江戸の物資供給	巨大な消費需要に対して消費物資などがどのように供給されたのか、その特質について学ぶ
第9回	江戸店のくらし	流通・経済の担い手であった商家の経営組織の特質について学ぶ
第10回	海と川の関所 浦賀と中川	江戸の水上交通路上の出入り口に位置した関所である浦賀奉行所と中川番所について学ぶ
第11回	町民の教育と寺子屋	初等教育機関である寺子屋から教育環境について学ぶ
第12回	江戸の旅籠屋	一時滞在者である旅人の宿泊施設である旅籠屋の特質について学ぶ
第13回	行動文化の展開と名所	市民と自然環境とのかかわりなどについて名所を通じて学ぶ
第14回	外国人のみた江戸	江戸の都市環境について江戸を訪れた外国人の眼を通じて学ぶ
第15回	日本人のみた江戸	江戸の都市環境について経世学者の眼を通じて学ぶ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト・参考書を事前に読んでおくことと、授業で配付するプリントを読み返し、それに掲げられている参考文献を読んで、授業の内容をより深く理解すること。

## 【テキスト】

加藤貴他『東京都の歴史（県史13）』山川出版社 1997年1月

## 【参考書】

加藤貴編『大江戸 歴史の風景』山川出版社 1999年10月

石塚裕道・成田龍一『東京都の百年（県民100年史13）』山川出版社 1986年10月など

根崎光男『日本環境史料演習』同成社 2006年など

## 【成績評価基準】

適宜小テストを行い授業内容が的確に理解できているかを確認し、あわせて最後にレポートを提出してもらい、与えられた課題について授業内容と参考文献を関連させつつ自らの理解を反映させてまとめられているかにより、全体で評価する。



## ヨーロッパ環境史論 I

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパ都市の環境史

## 【授業の到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、その自然環境との関係から理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

ヨーロッパの都市は、それをとりまく自然環境と複雑で密接な関係を持ちつつ発展した。その関係は単純に人工対自然の構図に捉えられるものではない。ここでは、都市を取り巻く自然環境を4要素にちなみ空気・火・水・土の4つの要素に整理し、それぞれについてヨーロッパの都市の成り立ちにどのような影響を与えたのかを、さまざまな角度から考えていく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：世界史の中のヨーロッパ都市	ヨーロッパの都市の特徴を他の文明と比較しつつ概観する。
第2回	導入：ヨーロッパの都市と環境	ヨーロッパの都市の歴史と自然環境の関係を概観する。
第3回	<空気>その1 都市と気候	ヨーロッパ各地の気象条件が都市の建築におよぼした影響について考える。
第4回	<空気>その2 都市と疫病	中世のペスト流行や近代のコレラ、現代の新型インフルエンザなど、疫病は都市にとって長い間の脅威である。疫病の流行から住民を守る仕組みについて考える。
第5回	<空気>その3 都市の雰囲気、都市の魅力	ヨーロッパの都市は、その文化的な独特の雰囲気によって周囲の世界から際立った空間であり、多くの人を引きつけてきた。そうした都市の魅力はどのように認識されてきたのか。
第6回	<火>その1 都市と火事	1666年のロンドン大火など、ヨーロッパの多くの都市は何度も大規模な火災を経験し、それを克服してきた。都市における防災の歴史を考える。
第7回	<火>その2 都市生活とエネルギー	暖房・炊事、食事や台所といった生活のためのエネルギー利用の歴史。
第8回	<火>その3 都市と戦争	戦争による被害を、都市はどのように乗り越えてきたか。
第9回	<土>その1 都市を計画する	ローマ時代から現代まで、都市計画の歴史を概観する。
第10回	<土>その2 都市化と緑化	緑地や公園など、都市の中に管理された自然を作り出す試みについて、その思想や実践の歴史を探る。
第11回	<土>その3 都市における土地の所有について	都市のなかの土地は誰のものであったのか。都市の外見からはわかりにくい土地所有関係をめぐる駆け引きを明らかにする。
第12回	<水>その1 都市と水源	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水と都市の関わり方の歴史。
第13回	<水>その2 都市と河川	河川の近くに立地し、それと密接な関わりを保った都市は多い。橋や運河、河川交通の面から都市を考える。
第14回	<水>その3 都市と海	海辺に位置し、港を持つ町は、内陸の都市に比べて特殊な発展を遂げた。そうした港町や港湾都市と、遠距離交通の歴史を明らかにする。
第15回	まとめ 都市史と環境史	環境という視点が都市の歴史研究にもたらすものは何かを考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・2011年度までに旧名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科日は履修できない。「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」の再履修者は旧名称で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## ヨーロッパ環境史論Ⅱ

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパ市民社会の歴史

## 【授業の到達目標】

ヨーロッパの市民社会はどのように生まれ、どのような特徴を持っているのか。市民社会はそこに生きる人びとの生活環境をいかに規定してきたのか、歴史的な発展の道筋を明らかにする。

Ⅰ

## 【授業の概要と方法】

現在、市民社会が関心を集めている。研究者の間では政治学や社会思想の立場を中心に、さまざまな議論がおこなわれているが、多くの場合、理念や目標として語られ、その実在した過去の経緯はなおざりにされる傾向がある。この授業では、歴史の実態としての市民社会に焦点を当て、ヨーロッパを例にその発展と今日までの歩みをその問題点とともに振り返る。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような画像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

Ⅱ

Ⅲ

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	市民社会とは？ 1	市民社会の定義、その現代社会における位置づけについて概観する。
第2回	市民社会とは？ 2	市民社会という概念およびその中核をなす諸概念について、これまでの思想史上の諸説を整理し比較する。
第3回	身分社会から市民社会へ 1	古代・中世における市民のあり方について。
第4回	身分社会から市民社会へ 2	18～19世紀の二重革命と市民社会の成立について
第5回	市民社会と民主主義	ヨーロッパにおける民主主義的な政治制度の発展と確立について、国ごとの差違を踏まえつつ理解する。
第6回	市民社会とコミュニティー	組合、協会、NPOなど、市民たちがつくる団体が市民社会において担う機能について考える。
第7回	市民社会と市場	資本主義の発展は市民社会をどのように変化させてきたか。
第8回	市民社会と社会主義	資本主義へのオルターナティブとして出現した社会主義運動に、市民社会の側はいかに反応したか。福祉国家の成立までの時期を扱う。
第9回	市民社会とジェンダー	市民社会のなかで男女それぞれの果たす役割はどのように変わってきたか。
第10回	市民社会と家族の変容	1960年代後半ごろから顕著になってきた家族の変質や青少年の問題の深刻化が、ヨーロッパ市民社会にどのような変化をもたらしたか。
第11回	市民社会とマイノリティ 1	市民社会におけるメンバーシップの問題を、19から20世紀にかけてのユダヤ人問題を例に考える。
第12回	市民社会とマイノリティ 2	ヨーロッパ各国の市民社会の抱える外国人市民の問題を扱う。
第13回	抗議する市民たち 1	1968年、ヨーロッパ各国で学生たちを中心に「若者たちの反乱」が発生した。その背景と射程を明らかにする。
第14回	抗議する市民たち 2	1989年の東欧共産主義体制の変革と、最近のグローバル化や新自由主義の台頭、福祉国家の解体に対して、市民社会がいかに反応してきたかという問題を扱う。
第15回	まとめ：ヨーロッパの市民社会と日本の市民社会	市民社会の「経路依存性」について

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・2011年度までに旧名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修できない。「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」の再履修者は旧名称で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**環境人類学 I**

安岡 宏和

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題は、人間と環境の相互作用に生じた変化のうち人間にネガティブな影響をおよぼすもの、と定義できる。一連の講義（環境人類学 I・II・III）では、とりわけ生態系の構成要素としての人間の二つの特異性に着目する。二つの特異性とは、(1) 多種多様な動植物との「共生」をとおして半人工的な生態系を構築している点、(2) モノのやりとり、すなわち「経済」をとおして疑似生態系を構築している点である。

**【授業の到達目標】**

「共生」と「経済」について考察するための道具となる人類学の基礎を身につけること。

I]

**【授業の概要と方法】**

本講義は以下の2部からなる。(I) 人類学一般の基礎 (2 - 7)、(II) 関連下位分野の基礎 (9 - 14)。

I]

I]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生態系のなかの人間の特異性
第 2 回	人類学の基礎 (1)	人類の進化 (1) ホミニゼーション
第 3 回	人類学の基礎 (2)	人類の進化 (2) 霊長類のなかのヒト
第 4 回	人類学の基礎 (3)	文化の相対性 (1) 古典進化主義と批判
第 5 回	人類学の基礎 (4)	文化の相対性 (2) 文化相対主義
第 6 回	人類学の基礎 (5)	世界システム論 (1) 近代ヨーロッパの形成
第 7 回	人類学の基礎 (6)	世界システム論 (2) 世界システムのなかのアフリカ
第 8 回	課題ペーパー	人類学の基礎に関する課題ペーパー
第 9 回	経済人類学の基礎 (1)	実体主義 - 形式主義論争
第 10 回	経済人類学の基礎 (2)	社会と「経済」
第 11 回	経済人類学の基礎 (3)	文化と「経済」
第 12 回	生態人類学の基礎 (1)	新進化主義
第 13 回	生態人類学の基礎 (2)	三つの生態学 (1) 概論
第 14 回	生態人類学の基礎 (3)	三つの生態学 (2) 各論
第 15 回	課題ペーパー	経済人類学と生態人類学の基礎に関する課題ペーパー

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

講義内容を踏まえて提示した文献を読むこと。

**【テキスト】**

資料を配付する。

**【参考書】**

授業中に提示する。

**【成績評価基準】**

課題ペーパー (2 回、計 100 点)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012 年度担当なし。

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース・環境文化創造コース

**環境人類学 II**

安岡 宏和

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

生態系のなかの人間の特異性の一つは、多種多様な動植物との「共生」をとおして半人工的な生態系を構築している点にある。人間と「共生」する動植物の遺伝形質は、人間による選択の蓄積をとおして改変されてきた。これをドメスティケーション (栽培化・家畜化) という。それではドメスティケーションは、人間の「社会」の成り立ち、「社会」どうしの関係、そして「社会」と生態系の関係にどのように影響してきたのだろうか。

**【授業の到達目標】**

環境人類学 I の理解を前提として、「共生」について考察するための人類学的視座を身につけること。

I]

**【授業の概要と方法】**

本講義は以下の2部からなる。(I) 概論 (2 - 7)、(II) 民族誌的研究をふまえた各論 (9 - 14)。

I]

I]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題と「共生」
第 2 回	「共生」の人類学 (1)	ドメスティケーションの歴史とメカニズム
第 3 回	「共生」の人類学 (2)	農耕の起源と伝播
第 4 回	「共生」の人類学 (3)	牧畜の起源と伝播
第 5 回	「共生」の人類学 (4)	ドメスティケーションと世界史 (1) ヨーロッパとアメリカの遭遇
第 6 回	「共生」の人類学 (5)	ドメスティケーションと世界史 (2) ヨーロッパとアフリカの遭遇
第 7 回	「共生」の人類学 (6)	温帯の論理と熱帯の論理、自然／文化の二元論の構築と解体
第 8 回	課題ペーパー	「共生」の人類学の基礎に関する課題ペーパー
第 9 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(1)	アフリカ熱帯雨林の狩猟採集生活
第 10 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(2)	焼畑とアグロフォレストリー
第 11 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(3)	熱帯雨林は豊かな環境か?
第 12 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(4)	セミ・ドメスティケーションと農耕民化
第 13 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(5)	生態景観のセミ・ドメスティケーション (1) 熱帯雨林保全の歴史と問題点
第 14 回	アフリカ熱帯雨林の「共生」(6)	生態景観のセミ・ドメスティケーション (2) なにがどのように保全されるべきか?
第 15 回	課題ペーパー	アフリカ熱帯雨林の「共生」に関する課題ペーパー

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

講義内容を踏まえて提示した文献を読むこと。

**【テキスト】**

資料を配付する。

**【参考書】**

授業中に提示する。

**【成績評価基準】**

課題ペーパー (2 回、計 100 点)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012 年度担当なし。

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース・環境文化創造コース

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパ都市の環境史

## 【授業の到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的發展を、その自然環境との関係から理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

ヨーロッパの都市は、それをとりまく自然環境と複雑で密接な関係を持ちつつ発展した。その関係は単純に人工対自然の構図に捉えられるものではない。ここでは、都市を取り巻く自然環境を4要素にちなみ空気・火・水・土の4つの要素に整理し、それぞれについてヨーロッパの都市の成り立ちにどのような影響を与えたのかを、さまざまな角度から考えていく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：世界史の中のヨーロッパ都市	ヨーロッパの都市の特徴を他の文明と比較しつつ概観する。
第2回	導入：ヨーロッパの都市と環境	ヨーロッパの都市の歴史と自然環境の関係を概観する。
第3回	<空気>その1 都市と気候	ヨーロッパ各地の気象条件が都市の建築におよぼした影響について考える。
第4回	<空気>その2 都市と疫病	中世のペスト流行や近代のコレラ、現代の新型インフルエンザなど、疫病は都市にとって長い間の脅威である。疫病の流行から住民を守る仕組みについて考える。
第5回	<空気>その3 都市の雰囲気、都市の魅力	ヨーロッパの都市は、その文化的な独特の雰囲気によって周囲の世界から際立った空間であり、多くの人を引きつけてきた。そうした都市の魅力はどのように認識されてきたのか。
第6回	<火>その1 都市と火事	1666年のロンドン大火など、ヨーロッパの多くの都市は何度も大規模な火災を経験し、それを克服してきた。都市における防災の歴史を考える。
第7回	<火>その2 都市生活とエネルギー	暖房・炊事、食事や台所といった生活のためのエネルギー利用の歴史。
第8回	<火>その3 都市と戦争	戦争による被害を、都市はどのように乗り越えてきたか。
第9回	<土>その1 都市を計画する	ローマ時代から現代まで、都市計画の歴史を概観する。
第10回	<土>その2 都市化と緑化	緑地や公園など、都市の中に管理された自然を作り出す試みについて、その思想や実践の歴史を探る。
第11回	<土>その3 都市における土地の所有について	都市のなかの土地は誰のものであったのか。都市の外見からはわかりにくい土地所有関係をめぐる駆け引きを明らかにする。
第12回	<水>その1 都市と水源	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水と都市の関わり方の歴史。
第13回	<水>その2 都市と河川	河川の近くに立地し、それと密接な関わりを保った都市は多い。橋や運河、河川交通の面から都市を考える。
第14回	<水>その3 都市と海	海辺に位置し、港を持つ町は、内陸の都市に比べて特殊な発展を遂げた。そうした港町や港湾都市と、遠距離交通の歴史を明らかにする。
第15回	まとめ 都市史と環境史	環境という視点が都市の歴史研究にもたらすものは何かを考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパ市民社会の歴史

## 【授業の到達目標】

ヨーロッパの市民社会はどのように生まれ、どのような特徴を持っているのか。市民社会はそこに生きる人びとの生活環境をいかに規定してきたのか、歴史的な発展の道筋を明らかにする。

I]

## 【授業の概要と方法】

現在、市民社会が関心を集めている。研究者の間では政治学や社会思想の立場を中心に、さまざまな議論がおこなわれているが、多くの場合、理念や目標として語られ、その実在した過去の経緯はなおざりにされる傾向がある。この授業では、歴史の実態としての市民社会に焦点を当て、ヨーロッパを例にその発展と今日までの歩みをその問題点とともに振り返る。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような画像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

I]

I]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	市民社会とは？ 1	市民社会の定義、その現代社会における位置づけについて概観する。
第2回	市民社会とは？ 2	市民社会という概念およびその中核をなす諸概念について、これまでの思想史上の諸説を整理し比較する。
第3回	身分社会から市民社会へ 1	古代・中世における市民のあり方について。
第4回	身分社会から市民社会へ 2	18～19世紀の二重革命と市民社会の成立について
第5回	市民社会と民主主義	ヨーロッパにおける民主主義的な政治制度の発展と確立について、国ごとの差違を踏まえつつ理解する。
第6回	市民社会とコミュニティー	組合、協会、NPOなど、市民たちがつくる団体が市民社会において担う機能について考える。
第7回	市民社会と市場	資本主義の発展は市民社会をどのように変化させてきたか。
第8回	市民社会と社会主義	資本主義へのオルターナティブとして出現した社会主義運動に、市民社会の側はいかに反応したか。福祉国家の成立までの時期を扱う。
第9回	市民社会とジェンダー	市民社会のなかで男女それぞれの果たす役割はどのように変わってきたか。
第10回	市民社会と家族の変容	1960年代後半ごろから顕著になってきた家族の変質や青少年の問題の深刻化が、ヨーロッパ市民社会にどのような変化をもたらしたか。
第11回	市民社会とマイノリティ 1	市民社会におけるメンバーシップの問題を、19から20世紀にかけてのユダヤ人問題を例に考える。
第12回	市民社会とマイノリティ 2	ヨーロッパ各国の市民社会の抱える外国人市民の問題を扱う。
第13回	抗議する市民たち 1	1968年、ヨーロッパ各国で学生たちを中心に「若者たちの反乱」が発生した。その背景と射程を明らかにする。
第14回	抗議する市民たち 2	1989年の東欧共産主義体制の変革と、最近のグローバル化や新自由主義の台頭、福祉国家の解体に対して、市民社会がいかに反応してきたかという問題を扱う。
第15回	まとめ：ヨーロッパの市民社会と日本の市民社会	市民社会の「経路依存性」について

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 日本美術の系譜

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係に考慮にいれつつ考察していく。

### 【授業の到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ	講義の導入として、日本の絵画史の全体像を概観する。
第2回	日本美術の一系譜としての近代日本画	講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、定義や概略を学習する。
第3回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私たちと、近代日本画との接点を考察する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第6回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第7回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第8回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第10回	大正期の日本画壇～概観	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第11回	大正期の日本画壇～法政大学と再興院展	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第12回	大正期の日本画壇～金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	大正期の日本画壇～文、帝展の佳作	大正期の官展の変容と画壇の発展について概観する。
第14回	近代日本画と洋画	近代美術史上、近代日本画と言わば表裏の関係にあった近代洋画の歴史を概観し、大正末から昭和初期にかけての両者の関係を考察する。
第15回	近代日本画と美術のパトロンたち／まとめ	近代日本画の発展の歴史を、その後援者たちが果たした役割をもとに概観する。まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

### 【テキスト】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

### 【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ — 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説するための読解力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

### 【その他】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース



## 【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」(小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第5章、ミネルヴァ書房、2012)ほか、授業のなかで紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して(当然ながら)雰囲気が悪くなることがあります。しかし大教室で常時静かな授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。とはいえ、「雑談」「余談」のなぐだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。

また、OHC(書画カメラ)で写真等をたくさんお見せするのですが、専用の時間を設けるとかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見ると、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

## 【その他】

・「環境文化創造コース」に最も関連する授業です。日本の伝統文化を広義の環境政策の視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。  
・2011年度までに旧名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修できません。「環境表象論」の再履修者は「環境表象論」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

## 環境表象論Ⅱ

## 梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象(=心の中に結ばれる像)の諸相と、環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察する。

## 【授業の到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚の作用として捉えることが有効なこと(言い換えれば現場の実体験の大切さ)を理解できること。  
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと(快適、便利ではない要素もかなり重要であること)を理解できること。

【】

## 【授業の概要と方法】

<概要>「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けてゆく。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれるが、持続可能な地域形成には、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆく。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間を多くする予定。

<授業の形式>ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、OHC(書画カメラ)を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなるが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみるのがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になる。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習
第2回	フィールド紹介による概観	この授業でとりあげる内容を、具体的な地域の紹介を通じて概観。沖繩の離島を予定。
第3回	視覚と表象(1)	色彩、形、光など。民俗的な性格を持つものに注目
第4回	視覚と表象(2)	夜景や「闇」に注目
第5回	音風景(1)	サウンドスケープと呼ばれる事例
第6回	音風景(2)	地域のアイデンティティの核になるといわれる「ことば」(母国語や方言)に注目
第7回	かおりと記憶表象	最も眠っている「五感」といわれる嗅覚の意外な奥深さ
第8回	触覚の諸相と日本の生活文化	温度・湿度等の肌触り感覚、手触り、身体運動感覚など非常に幅広く重要な感覚と、日本人との関わり
第9回	祭りとセンスオブプレイス	「触覚」を総合的に考えるのに好適な、地域の重要な伝統行事の意義
第10回	「食の風景」	スローフード、グリーンツーリズムとも密に関わる地域の食文化の事例
第11回	五感と「生きる力」	暮らしの知恵を重視したエコツーリズムの事例紹介
第12回	集団的な想像表象(1)	日本人がかつて生んだ「妖怪」「幽霊」等に注目
第13回	集団的な想像表象(2)	前回の続き。集団的な想像表象には記憶表象も深く関わる
第14回	集団的な想像表象(3)	憧れの「原郷」の形成、良質の「観光文化」の素材としての価値
第15回	まとめ	都会の日常でも「五感」豊かに暮らすことの大切さ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励する。

## 【テキスト】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代える。

## 【参考書】

環境表象論Ⅰに同じ。

## 【成績評価基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。



### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度からの新しい授業です。

### 【その他】

・この授業は、旧「環境表象論」履修済みの方も履修することができます。  
・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と  
思います。表象論Ⅰ（旧「環境表象論」）の単位取得を履修の条件とはしま  
せんが、履修済みであるほうが好ましいことは言うまでもありません。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

## 環境表象論Ⅰ

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開：グローバル | 成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は、「文化」という視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものである。「表象」は、心の中に現れる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよい。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方（→「概要」参照）をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例の紹介と、その可能性について考察する。

### 【授業の到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。  
・「景観は」見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事例も大いにエコにつながるが多いということに気付けること。

【

### 【授業の概要と方法】

< 概要 > 「文化的景観」は、もとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語である。1990年代、ユネスコがこれに新たな意味づけをして世界遺産の登録基準として採用して以来、エコな地域形成に資する概念として注目が高まってきている。典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような農村の景観などを思い浮かべるとよいが、手付かずの自然であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所の眺めなどは、人間が意志的に守ってきた「文化的景観」とみなす。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も含まれ、範囲は幅広い。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限定されない。「無形」の文化や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多い。見た目だけではなく、それを支えている人間の暮らしぶりを、心で感受するものだという考え方である。

< 授業の形式 >

ふつうの講義形式。テーマの性格上、OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなるが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って頂きたい。

【

【

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「景観」について、導入的説明。
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のはざま
第4回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
第5回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
第6回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として
第7回	「景観」・「風景」・「原風景」	「センス・オブ・プレイス」も併せて
第8回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第1号

第9回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義(1)	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
第10回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義(2)	古典文芸の“名所”として守られてきた場
第11回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創／心の中のイメージの重要性など
第12回	生きて変化する文化財として(1)	「五感」で体感される周期変化
第13回	生きて変化する文化財として(2)	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観
第14回	「伝統」継承のための階層的発想	観光文化、エコツーリズムの可能性
第15回	無形文化尊重の潮流／概念発展の可能性	視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都市の産業・生活に関わる景観

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励する。

#### 【テキスト】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代える。

#### 【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」(小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第5章、ミネルヴァ書房、2012)ほか、授業のなかで紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して(当然ながら)雰囲気が悪くなることがあります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。とはいえ、「雑談」「余談」的なくだけた話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。

また、OHC(書画カメラ)で写真等をたくさんお見せするのですが、専用の時間を設けるといふかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見ると、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

#### 【その他】

・「環境文化創造コース」に最も関連する授業です。日本の伝統文化を広義の環境政策の視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

#### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

## 自然環境科学の基礎（化学）

藤倉 良

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境科学を今後より高度により専門的に学ぶためには、化学理論や化学計算方法の理解と習得が必須となります。物質質量計算や溶液濃度計算などの基礎的内容から溶液の緩衝作用やDO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）の測定原理などの応用例までを問題演習形式で解説してゆきます。

### 【授業の到達目標】

高等学校で履修する「化学Ⅰ」および「化学Ⅱ」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論や基本化学計算を習得することを目指します。

[]

### 【授業の概要と方法】

自然環境科学をより専門的に学ぶために必要な、化学理論や計算法を問題演習を中心に解説します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境科学の基礎（化学）の内容説明	授業内容、授業の進め方、評価方法など説明
第2回	物質の構成（1）	物質の成分、物質の構成元素
第3回	物質の構成（2）	原子の構造、元素の周期律
第4回	物質の構成（3）	化学結合の種類
第5回	物質の構成（4）	物質質量計算、溶液濃度計算
第6回	物質の変化（1）	化学反応式と量的関係
第7回	物質の変化（2）	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則を利用した反応熱計算
第8回	物質の変化（3）	反応速度と活性化エネルギー
第9回	物質の変化（4）	化学平衡
第10回	物質の変化（5）	酸と塩基、pH、中和滴定
第11回	物質の変化（6）	弱酸、弱塩基の電離平衡
第12回	物質の変化（7）	緩衝溶液、塩の加水分解反応
第13回	物質の変化（8）	酸化と還元
第14回	物質の変化（9）	酸化還元滴定
第15回	まとめ	期末試験対策問題演習、質疑応答

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回授業の内容に関する簡単な確認テスト（10分程度）を毎授業時に実施します。前回授業の内容を簡単に復習しておいてください。

### 【テキスト】

特にテキストは指定しません。授業時に配布するプリントを使用します。

### 【参考書】

第1回授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験および毎授業時に実施する確認テスト（10分程度）の総合点で評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度は前年度と担当者が異なります。

### 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境科学の基礎（生物学）

宮川 路子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

### 【授業の到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をばぐむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

細胞、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂。組織、血液とその仕組み。呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。
第3回	呼吸器	呼吸器の病気。循環器系の構造と働き。
第4回	循環器	心臓について。血管について。循環器系の病気。
第5回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸
第6回	消化器（2）	消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞 肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第7回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について
第9回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気
第10回	感覚（2）	視覚について ビデオ鑑賞
第11回	感覚（2）	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第12回	生殖器	人の生殖の仕組み
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞
第14回	学習	学習の成り立ち
第15回	試験	授業内試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。

### 【テキスト】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本シラバス作成時点では2012年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境科学の基礎（生態学）

高田 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎を学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることをテーマとします。

## 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①動植物及び植物の生態と相互作用
- ②様々な生態系の特徴と取り巻く課題

【】

## 【授業の概要と方法】

「動物（鳥類と哺乳類を中心に）と植物の生態」、「環境との相互作用及び群集生態」、「進化と適応」、「主な生態系の特徴と構造・機能」、「生態系をめぐる課題」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態	日本の鳥類相、鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係
第3回	種子の散布	様々な散布形式、動物と植物の相互作用
第4回	進化と適応	適応とは、進化と自然選択、適応のための様々な生存戦略
第5回	動物の行動生態(1)	日本の動物相、ニホンジカ・素数ゼミの例
第6回	動物の行動生態(2)	なわばり行動、社会行動、共生とすみわけ、群集生態
第7回	森林生態系	森林の仕組みと機能、森の生物、物質の循環
第8回	湿地・草地生態系	日本の主な湿地と草原、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第9回	淡水生態系	河川・湖沼の生物と生態系、水生昆虫のすみ分け、魚類と河川環境
第10回	沿岸生態系	海から陸への物質輸送、サケと海洋環境、サンゴや海藻など多様な沿岸生態系
第11回	島嶼生態系	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第12回	都市・田園生態系	水田とため池の生態系、都市内緑地の生物相
第13回	貴重種と外来種	レッドリストとブルーリスト、貴重種保護の事例、外来種問題
第14回	生物多様性	生物多様性とは、ホットスポットと日本の生物多様性
第15回	まとめ	これまでの復習、野生生物との共生

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めてください。

## 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他】

生態学の知識に基づいた自然環境保全に関する講義（政策を主とした自然環境政策論Ⅰ及びⅡ、生態学の応用を学ぶ自然環境論Ⅳ）を、在学中に履修することでより理解が深まります。

また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

**自然環境論 I**

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

**【授業の到達目標】**

自然環境（気候や地形、水循環など）の地域的差異とそのメカニズム、歴史的な変遷の概要を把握し、人間社会が自然環境に左右される側面を再認識する。

【】

**【授業の概要と方法】**

われわれをとりまく自然環境は地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	環境決定論・環境可能論・その後、自然災害
第2回	大気海洋のしくみ・地球のエネルギー収支	大気と海洋の構造、熱対流、大気大循環、海洋大循環、潮汐
第3回	気候要素・気候因子・気候区分	気温・降水・風、緯度帯・海流・地形、ケッペンの区分・アリソフの区分
第4回	日本列島の気候	気団と海流、四季、暦、二十四節気、エルニーニョ南方振動、都市気候
第5回	編年法・古環境復元法	年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、古地磁気、酸素同位体ステージ、花粉、珪藻
第6回	グローバルな気候変動と海水準変動	数万年スケール/歴史時代の気候変動と海水準変動
第7回	固体地球のしくみ・プレートテクトニクス	地球の内部構造、プレートとは、プレート境界、島弧-海溝系
第8回	地震と火山噴火	プレート境界・活断層、震度とマグニチュード、火山前線・中央海嶺・ホットスポット
第9回	地形をつくる力：外的営力・内的営力	風化・侵食・堆積、地殻変動・火山活動
第10回	地形の種類と成り立ち	低地・台地・丘陵・山地、地形の時空間スケール
第11回	日本列島の地形と地質	海溝、島弧、付加体、日本海形成、アクティブテクトニクス、鉱物資源
第12回	水	河川の水・湖沼の水・地下水・雪水、海水、循環・滞留時間・収支
第13回	土壌	世界の土壌、因子、成帯性土壌・成帯内性土壌・非成帯性土壌、有機物
第14回	植生・動物	世界の植生・動物、因子、自然植生・代償植生、植生遷移、外来種と絶滅種
第15回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

自然環境に関わる文献や映像等、また時の話題に積極的に触れて下さい。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

**【参考書】**

授業中に紹介

**【成績評価基準】**

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2013年度より担当

**【その他】**

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

いかなる社会も土地の個性に根ざして成り立っている。本講義では「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

## 【授業の到達目標】

大地の個性と成り立ちを知って土地が変貌する必然性を受容し、土地条件や土地利用といった視点から人間社会のあり方を考える素養を培う。

[]

## 【授業の概要と方法】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。その実態について、背景となる自然的要素を総合的に鑑みつつ、主に地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査の生データを含むスライドも活用。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	文明の伝播と衝突、土地条件と土地利用、自然災害
第2回	日本列島の自然環境の概要	湿潤変動帯といわれる所以
第3回	紙地図・電子地図・衛星画像・航空写真	測地系・地図投影法、地形判読、リモートセンシング、アナグリフ
第4回	GISとGPS	GIS(地理情報システム)・GPS(全球測位システム)とその活用
第5回	外的営力・内的営力のメカニズムと地域性	太陽エネルギーと重力、地球内部の熱と重力、その地域性
第6回	山地の隆起と解体	風化と侵食、物質移動
第7回	河川地形・海岸地形・湖沼の成り立ち	扇状地・氾濫原・三角州、砂浜海岸・岩石海岸、表層水・地下水
第8回	段丘地形の成り立ち	河成段丘・海成段丘、グローバルな気候変動と海水準変動・地殻変動の影響
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	活断層・活褶曲・傾動、地震性隆起、火山体・溶岩流・火砕流・降灰、温泉
第10回	乾燥地形・寒冷地形の成り立ち	砂漠・ワジ・オアシス、永久凍土・氷床・氷河・U字谷・フィヨルド
第11回	海底地形の成り立ち	大陸棚、陸棚斜面、プレート境界、大洋底、海底火山、海底資源
第12回	水・土壌・植生と地形	気温や水分と地形、定常風と地形、土壌と植生、台地と土壌、火山灰と土壌
第13回	歴史地震と地殻変動	1703年元禄関東地震・1923年大正関東地震に伴う地殻変動と地形発達
第14回	関東平野の地形発達史と古地理	下末吉面・武蔵野面、関東ローム層、縄文海進、相模トラフ、地震性隆起
第15回	人間社会が土地に及ぼす影響	地形改変、地盤沈下、森林破壊、砂漠化、水質汚染

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

自然環境に関わる文献や映像等、また時の話題に積極的に触れて下さい。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価基準】

図上作業(授業内容と対応・授業時間内に実施)(20%)と期末試験(80%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。その成り立ちを知り(とくにプレート境界と活断層について)、地震発生環境の地域的個性、そして人間社会のあり方を見つめなおす。

## 【授業の到達目標】

変動地形と古地震の調査法を学んだ後、日本列島各地の変動地形について、海外の事例を参照しつつ地域的差異・メカニズム・歴史の変遷の概要を理解し、地殻変動の必然性を再認識する。

[]

## 【授業の概要と方法】

日本列島はプレート境界に近く地殻変動が顕著であり、変動地形がよく発達する。これらは大地震発生と密接に関わって成立しており、地震災害はわが国の宿命ともいえる。本講義では主に変動地形学のアプローチを通じ、日本列島の地形的枠組みや地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地形環境の概要	プレートテクトニクス、地震、火山噴火
第2回	変動地形・プレート境界・活断層	地形をつくる力、地殻変動、地形発達
第3回	変動地形と古地震の調査法	古地震と歴史地震、地形、地質、試料分析、史料、考古資料
第4回	航空写真の実体判読に基づく地形解析	航空写真の概要、実体判読の原理
第5回	GISとDEMを用いた地形解析	GISの概要、DEMの概要、地形解析への応用
第6回	プレート沈み込み帯・プレート衝突帯	インドネシア、ヒマラヤ・チベット
第7回	活断層	サンアンドレアス断層・北アナトリア断層
第8回	2011年東北地方太平洋沖地震	メカニズム、被害：東日本大震災、歴史
第9回	千島海溝～日本海溝	分布、特徴、歴史地震
第10回	相模トラフと国府津松田断層帯	分布、特徴、歴史地震
第11回	南海トラフと富士川河口断層帯・琉球海溝	分布、特徴、歴史地震
第12回	1995年兵庫県南部地震	メカニズム、被害：阪神・淡路大震災、歴史
第13回	東北日本の変動地形	分布、特徴、歴史地震
第14回	西南日本の変動地形	分布、特徴、歴史地震
第15回	地殻変動と地震災害	日本列島の地震発生環境

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

自然環境に関わる文献や映像等、また時の話題に積極的に触れて下さい。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価基準】

図上作業(授業内容と対応・授業時間内に実施)(20%)と期末試験(80%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

エネルギーの基礎ならびにエネルギーと社会との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実験、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。  
試験（50％）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

内容が難しいとの感想がありましたが、ほとんどの学生さんが楽しく受講しています。わからないところは遠慮なく質問してください。

## 【その他】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げます。わからないところは、どんどん質問しましょう。

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

## 【授業の到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなくて、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

[]

## 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライブニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・環境サイエンスコース

## 地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

### 【授業の到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもっとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	<b>Dinosaurus</b> (恐竜) の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地向斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・環境サイエンスコース



## 環境健康論 I

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。本講義では、補完代替医療について、その概要を把握し、現代社会における役割や位置づけ、将来への可能性など検討する。また人間に備わっている自然治癒力について、免疫の観点から検討する。

## 【授業の到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. 本来からだに備わった働きの一つである自然治癒力を説明できる。
3. 創傷の治癒過程について説明できる。
4. 免疫の働きについて説明できる。
5. 治癒を妨げるもの、治癒を促進する食品が説明できる。
6. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
7. 自らの健康観を述べることができる。

[]

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方向（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率のよい知識の伝達を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	環境と健康：自然が与える生命力、森林と自然治癒力	環境の問題についての意識を高めるために誰もが入りやすい題材として森林と自然治癒力の関係を取りあげる。
第 3 回	エコロジカルな健康観：地球の健康なくして、人間の健康はない	環境に優しい医学として、世界各地で発展してきた伝統医学を取りあげ、その特徴、健康観について説明する。
第 4 回	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) : ホメオパシー的思考、基本概念	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーを例に挙げ、本来からだに備わっている自然治癒力について説明する。
第 5 回	治癒の本質：治癒の 3 局面 (反応・再生・適応)	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力 (自然治癒力) について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第 6 回	創傷の治癒：線維の増殖、癒痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを説明する。
第 7 回	病気になる人、ならない人：人はどうして病気になるのだろうか？	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連する DVD を視聴しながら解説する。
第 8 回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について説明する。
第 9 回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性をを説明する。
第 10 回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人の生活は日々摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。

- 第 12 回 有害物質から身を守る 水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
- 第 13 回 ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係 精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
- 第 14 回 成熟した人間になるために：治療は外から、治癒は内から 治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
- 第 15 回 総括 これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

## 【参考書】

人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクトブ新書  
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
免疫 (からだを護る不思議なしくみ) 第 4 版 矢田純一著 東京化学同人  
腸内革命 藤田紘一郎著 海竜社

## 【成績評価基準】

期末試験 (100 %) により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、アメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しがなされ、多くの人が日常的にとり入れ、その効果を実感している。本講義では、世界におよそ600種あると言われていた補完代替医療のうち、代表であるいくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追究する。

## 【授業の到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を挙げて、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方向（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観（1）	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観（2）	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム：中国伝統医学（1）	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム：中国伝統医学（2）	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム：中国伝統医学（3）	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム：中国伝統医学（4）	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム：インド伝統医学（アーユルヴェーダ医学）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるアーユルヴェーダ医学について、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療（1）：瞑想・リラクゼーション法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われていた、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ（1）	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。

第13回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ（2）	按摩・指圧・マッサージについて、それぞれの理論に基づき、実際に体験学習する。
第14回	手技および身体を介する療法およびエネルギー療法	カイロプラクティック、オステオパシー、セラピューティックタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

## 【参考書】

補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
 ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
 東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社  
 近代中国の伝統医学 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社  
 傷寒論を読もう 高山宏世著 東洋学術出版社  
 アーユルヴェーダとヨガ 上馬場和夫著 金芳堂  
 人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
 癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫

## 【成績評価基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**気候変動論 I**

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

**【授業の到達目標】**

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

[]

**【授業の概要と方法】**

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	気候変動研究の歴史	気候変動（とくに地球温暖化）がどのように理解されてきたか、その歴史を概観する。温室効果の発見、キーリング曲線、IPCC など。
第 3 回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 4 回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 5 回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 6 回	地球の構造	地球の構造と元素組成を学びながら地球全体を概観する。
第 7 回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 8 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 9 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 10 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 11 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第 12 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 13 回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 14 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業のなかで指示をする。

**【テキスト】**

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価基準】**

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。これらを総合的に評価する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012 年度の実施状況を鑑みて、シラバスを大幅に改訂した。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自の携帯電話を使う。

**【その他】**

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 気候変動論Ⅱ

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても解説する。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化(1)	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化(2)	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス(1)	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス(2)	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果(気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など)を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	気候変動をとりまく動き	地球温暖化の周辺の動向について考える。懐疑論についても考察する。
第14回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業のなかで指示をする。

### 【テキスト】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。これらを総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度の実施状況を鑑みて、シラバスを大幅に改訂した。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話を使う。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ(春学期)では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤の手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ(秋学期)では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題

②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

[]

### 【授業の概要と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全対策」、「新たな課題である里山問題と生物多様性」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	陸水をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第4回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特性と取り巻く課題
第5回	湿原をめぐる諸課題	成立過程と固有の生物相、脆弱性、人為的な攪乱による影響
第6回	都市・農地をめぐる諸課題	都市に生きている生物たち、水田環境と取り巻く課題
第7回	貴重種の保護	リッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第8回	外来種問題	様々な導入と影響の事例、外来生物対策、対策の難しさ
第9回	日本の自然環境保全政策(1)	自然公園、自然環境保全地域、狩猟制度と鳥獣保護区、種の保護法
第10回	日本の自然環境保全政策(2)	林業・河川管理・水産業と自然環境保全
第11回	日本の自然環境保全政策(3)	野生生物の保護管理、シカとサルの事例
第12回	自然の修復と再生	自然再生、近自然河川工法、エコアップ、植生の復元
第13回	里山問題と保全	伝統的な人と自然の関係、資源の循環、生物相の特徴
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生物多様性からの恵み、劣化損失の危機と保全
第15回	まとめ	これまでの復習、政策の果たす役割

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を広げよう努めてください。

### 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧な説明し理解を促していきます。

【その他】

自然環境政策論Ⅰ（春学期）とⅡ（秋学期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて履修することを勧めます。自然環境や野生生物に関心のある人は、併せて自然環境科学の基礎（生態学）、自然環境論Ⅳを履修するとさらに理解が深まります。

また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

2011年度までに旧名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目は履修できません。「自然環境政策論」の再履修者は「自然環境政策論」で登録してください。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

## 自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春学期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤の手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋学期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み、並びに国際条約による保全

【】

【授業の概要と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「生物多様性保全とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	日本人と自然	日本における動物・水・森林と人との関わり
第3回	環境影響評価(1)	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価(2)	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	計画・指針による自然環境保全	生態学と環境計画、環境管理計画・環境基本計画、自然環境保全指針
第6回	法によらない保全メカニズム	土地のもつ社会性、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ(1)	フランスの地方自然公園とエコミューゼ
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ(2)	イギリスのナショナルトラスト、シビクトラスト、グラウンドワーク
第9回	海外の自然環境政策に学ぶ(3)	欧州農業環境政策、マネージメントアグリメント、環境支払い
第10回	海外の自然環境政策に学ぶ(4)	ドイツのピオトープ、アメリカの国立公園とエコシステムマネージメント
第11回	国際的な取り組み(1)	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第12回	国際的な取り組み(2)	ワシントン条約と象牙問題の事例
第13回	観光と自然環境保全	エコツーリズム、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光
第14回	地域自然資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例、野生生物を生かした取組事例
第15回	まとめ	これまでの復習、総合的視点にたった政策ガバナンス

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

【テキスト】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価基準】

期末試験により評価します。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

**【その他】**

自然環境政策論Ⅰ（春学期）とⅡ（秋学期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて履修することを勧めます。自然環境や野生生物に関心のある人は、併せて自然環境科学の基礎（生態学）、自然環境論Ⅳを履修するとさらに理解が深まります。また講義改善の目的で、時々感想や解決へのアイデアを記述してもらうことがあります。

**【関連の深いコース】**

地域環境共生コース・国際環境協力コース

**環境科学Ⅰ**

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰ（春学期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱ（秋学期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。ⅠとⅡのどちらか片方だけを履修してもかまいません。

**【授業の到達目標】**

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

【】

**【授業の概要と方法】**

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壤汚染（第3章）	工場排水の処理、土壤汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第14回	基準の決め方（第6章）	環境基準と排出基準
第15回	まとめ	全体のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

**【テキスト】**

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

**【参考書】**

講義中に指定します。

**【成績評価基準】**

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

**【学生が準備すべき機器他】**

プロジェクター

**【関連の深いコース】**

地域環境共生コース

**環境科学Ⅱ**

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰ（春学期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱ（秋学期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。ⅠとⅡのどちらか片方だけを履修してもかまいません。

**【授業の到達目標】**

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

【】

**【授業の概要と方法】**

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第6回	気候変動・その3（第8章）	京都議定書、京都メカニズム
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境大気汚染（第9章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境の評価（第12章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第13回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第14回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境O D A
第15回	まとめ	全体のとりまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

**【テキスト】**

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

**【参考書】**

講義中に指定します。

**【成績評価基準】**

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

**【学生が準備すべき機器他】**

プロジェクター

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース

## 環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

資源の歴史的意味に始まり、さまざまな資源の性質や利用などについて学習します。

## 【授業の到達目標】

資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得する。

【】

## 【授業の概要と方法】

パワーポイントとレジユメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水(1)	水の循環、淡水資源
第3回	淡水(2)	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー(1)	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー(2)	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー(3)	石炭、水力
第7回	エネルギー(4)	原子力、新エネルギー
第8回	土壌(1)	土壌の構造
第9回	土壌(2)	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属(1)	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属(2)	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

毎回配布するレジユメを使って復習してください。

## 【テキスト】

特にありません。

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【その他】

2011年度に開講した「人間環境特論(天然資源の科学)」(春学期月曜日7時限)を修得済の場合、本科日は履修できません。「人間環境特論(天然資源の科学)」の再履修者は「人間環境特論(天然資源の科学)」で登録してください。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を迫り、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

## 【授業の到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、何が問題なのかを知り、どのような飲酒習慣を身につけていくべきかを考える。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【】

## 【授業の概要と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第2回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第3回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第4回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患
第5回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病の予防について
第6回	喫煙の健康影響①	生活習慣病各論
第7回	喫煙の健康影響②	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、喫煙による疾病
第8回	アルコールの健康影響①	禁煙について
第9回	アルコールの健康影響②	アルコールの健康被害について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	アルコール依存症について
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	ビデオ
第12回	児童虐待	少子・高齢化社会
第13回	遺伝子関連問題	健康問題
第14回	感染症	介護問題について
第15回	授業内試験	高齢者虐待
		児童虐待の現状と対策
		遺伝病、色覚異常
		ビデオ
		性感感染症・食中毒
		試験実施

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。

## 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース



## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をたげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

### 【授業の到達目標】

本講座では、疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、実際の健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。

日本の医療の現状について学び、患者としての受療行動を考える。また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。

[]

### 【授業の概要と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健 就労女性の母性保護 ワークライフ・バランス
第10回	成人保健・老人保健	成人保健・老人保健の課題と施策
第11回	社会保障	社会保障制度について 日本の医療制度
第12回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊
第13回	生命倫理②	患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第14回	生命倫理③	医療訴訟 映画鑑賞（死について考える）
第15回	授業内試験	感想文提出 試験の実施

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後に復習を行う。

### 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

### 【参考書】

開講時に指定する

### 【成績評価基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

### 【その他】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース





## 自然環境政策論

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春学期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋学期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

[]

### 【授業の概要と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全対策」、「新たな課題である里山問題と生物多様性」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	陸水をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第4回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特性と取り巻く課題
第5回	湿原をめぐる諸課題	成立過程と固有の生物相、脆弱性、人為的な攪乱による影響
第6回	都市・農地をめぐる諸課題	都市に生きる生物たち、水田環境と取り巻く課題
第7回	貴重種の保護	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第8回	外来種問題	様々な導入と影響の事例、外来生物対策、対策の難しさ
第9回	日本の自然環境保全政策(1)	自然公園、自然環境保全地域、狩猟制度と鳥獣保護区、種の保護法
第10回	日本の自然環境保全政策(2)	林業・河川管理・水産業と自然環境保全
第11回	日本の自然環境保全政策(3)	野生生物の保護管理、シカとサルの事例
第12回	自然の修復と再生	自然再生、近自然河川工法、エコアップ、植生の復元
第13回	里山問題と保全	伝統的な人と自然の関係、資源の循環、生物相の特徴
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生物多様性からの恵み、劣化損失の危機と保全
第15回	まとめ	これまでの復習、政策の果たす役割

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を広げよう努めてください。

### 【テキスト】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【その他】

自然環境政策論Ⅰ（春学期）とⅡ（秋学期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて履修することを勧めます。自然環境や野生生物に関心のある人は、併せて自然環境科学の基礎（生態学）、自然環境論Ⅳを履修するとさらに理解が深まります。また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

## 人間環境特論（天然資源の科学）

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

資源の歴史の意味に始まり、さまざまな資源の性質や利用などについて学習します。

## 【授業の到達目標】

資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得する。

[]

## 【授業の概要と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造
第9回	土壌（2）	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト】

特にありません。

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【その他】

講義名称は2012年度から「環境科学Ⅲ」になりました。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大気の動きと社会、人間生活との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. 大気運動現象の性質を説明できる。
2. 大気をもたらす社会リスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

地球を覆っている大気は地球の規模から見ると、薄い膜のようなものである。その薄い膜の中で大気は動き、人は生活している。人にとって大気は生存するために必要なものであると同時に、時には強い気流となって襲いかかってくる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。大気と社会Ⅰ、Ⅱにおいては、大気の動きと人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。大気と社会Ⅰにおいては、気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会にとっての大気	大規模大気循環、人の生活圏の気流、強風の要因
第2回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第3回	局地風	陸海風、オロシ、ダシ、フェーン
第4回	竜巻、ダウンバースト	竜巻の構造、フジタスケール、マクロ・マイクロバースト
第5回	気流による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第6回	大気観測	大気観測方法
第7回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第8回	気流の統計的性質（2）	再現期間、風速の超過確率・非超過確率
第9回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T年最大値
第10回	地表面性状と気流	地表面の粗度、風速の高度分布
第11回	気流の周期性と評価時間	風速のスペクトル、風速の長周期変動、10分間平均
第12回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第13回	渦、風の息	カルマン渦の性質、風速変動と渦の重なり
第14回	騒音と大気	音の強さ、風騒音、空振
第15回	生活と大気	強風による生活障害、高層建物とビル風

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくことと良い。第1～4回：大気・天候・強風に関する時事問題、第5回：気流災害の事例、第6回：風向風速計、第7～9回：確率統計の基礎的な用語、第10回：べき乗、第11～13回：周期あるいは周波数、第14回：音の大小・高低、第15回：ビル風

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

スクリーンに映す文字がやや小さいとの指摘がありました。できるだけ大きい文字サイズにしてゆきます。

## 【その他】

大気の動きと社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境サイエンスコース

## 人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

大気の動きと社会および環境との関係がテーマである。

### 【授業の到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市の環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第11回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	スポーツと大気	スポーツエアロダイナミクス、スポーツにおける気流対策
第14回	農作物と大気	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第15回	損害保険と大気	自然と損害保険、天候デリバティブ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくとい、第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさと形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13回：揚力、第14回：受粉、第15回：大気関連災害の損害保険額の規模

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生さんからは、おおむね好評でした。

### 【その他】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

## 自然環境科学の基礎（物理学）

## 渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：簡単な実験から環境問題の基礎を学ぶ

本科目では、日常のありふれた道具を使って簡単な実験を行うことにより、物理が、(1)我々の生活に密接に関連していること、(2)もちろん環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を自然法則に照らして理解する必要がある。この授業ではその内容に沿ってのエッセンスが並べられている。

## 【授業の到達目標】

物質とエネルギーに関する内容を中心とするが、最終的に「熱力学の第二法則」は環境問題を探求するための土台であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回実験（デモンストレーション）を行うことにより授業を進めていく。文系の学生、物理を苦手としている学生に充分わかりやすい授業となるように留意しながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（玩具「水飲み鳥」による運動の持続性に関する実験）	水飲み鳥はなぜ動くのか？ 持続可能となるための条件は何か？ なぜ物理は環境問題を考察するための土台なのか？
第2回	スピードガンで測ろう1（落下するボールの速度を測る実験+ PC シミュレーション付）	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について
第3回	スピードガンで測ろう2（振り子運動、放物運動をするボールの速度を測る実験+ PC シミュレーション付）	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など
第4回	エネルギーと熱の実験（様々なエネルギーの間の変換の実験+太陽光、電気、摩擦（力学）を熱に変える実験）	異なった形態のエネルギーと変換。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう
第5回	熱の伝わり方を見る（金属棒を伝わる熱+空気の流れによる伝熱+電気ストーブによる加熱などの実験）	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第6回	気体の性質を調べよう（風船の体積と温度の関係調べる実験+タイヤチューブの圧力と温度との関係調べる実験）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1（加熱器を用いての水の融解熱の測定実験+水の蒸発熱の測定実験）	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2（水の膨張率の測定実験+水の体積（密度）・浮力と融解の実験）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は水位の上昇と関係するの？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？
第9回	ウエーブマシンを作ろう（身近な材料を用いての横波&縦波発生器の作製+波動実験）	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波に関連する内容の理解

第10回	超簡単な電気回路を作ろう（抵抗線を通れる電流による熱発生（ジュール熱）の測定実験）	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化するモーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石を作ろう（電界と磁界に関する実験）	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）と Sv（シーベルト）などについての超入門。原子力発電とウラン、セシウムなどの解説
第12回	原子模型を使って原子・分子を理解しよう（原子の構造とエネルギーに関するデモ）	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から空間全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1（水と湯の間の熱移動の実験+水中に落とされたインク拡散の観察）	なぜ LED 電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピーの解釈超入門
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2（LED 電球と白熱電球の熱発生測定実験）	広い空間では動き続ける水飲み鳥だが狭い空間に置くと動きが止まる。物質・エネルギーの保存則と拡散則から循環と持続の考察へ。熱力学の第二法則・・・そして熟死
第15回	総括（玩具「水飲み鳥」再登場：「持続可能」をどう見るか？）	

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、それと最終授業時に出题するレポートの内容を勘案して判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生が各自情報機器を使用しながら進めていく授業ではありません。実験内容をプロジェクターに映しながら進めていきます。

## 【その他】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える  
モデルとは、自然界や人間社会などで起きている現象とそこに働いている法則や様々な対象同士の関係性を分析し、そのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を現象分析し、それらの関連性を理解することが必要である。地球とそこに生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いるのか？ 本科目では、物質とエネルギーという観点から「地球」と「人為」について分析し「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリント指標などの具体的な手法も紹介することにより、人為の特徴を調べていく。これらの内容は物質循環や持続可能という問題を科学的に捉えるための基礎となるであろう。

### 【授業の到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための基礎を習得することが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

I]

### 【授業の概要と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえようという授業としたい。情報教室を使用し、画像、映像などの提示や、情報検索、各種ソフトを活用しながら進めていく予定である。授業では、毎回、パソコンの利用のしかたについての演習も含める予定である。

I]

I]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	人為と物質（人間活動に伴う物質とその動きを考える）	製品製造と消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至るプロセスを考える。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 物質の保存則と拡散則を考察する
第 4 回	人為とエネルギー（人間活動に伴うエネルギーとその動きを考える）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考える。エネルギーはどのように変化し最後はどこに行くのか？ エネルギーの保存則と拡散則を考察する
第 5 回	地球システムを概観する（宇宙から微生物までを考える）	太陽・地球とエネルギー、生態系と炭素・水・窒素などの物質循環を考える。地球や生命活動をどのようにモデル化できるのか？
第 6 回	自然の法則 1（物質とエネルギーの保存則）	熱力学の第一法則とは何か？ 「地球」、「人為」とどのように関連しているのかを考える。定常開放系とは何か？
第 7 回	自然の法則 2（物質とエネルギーの拡散則）	熱力学の第二法則とは何か？ 「地球」、「人為」とどのように関連しているのかを考える。エントロピーとは？ そしてそれが増大するとは？ ごみ処理場はエントロピーのたまり場。定常開放系とは何か？
第 8 回	自然の法則 3（定常開放システムと環境系のモデル）	自然と人間活動のシステムとしてのモデル化について。自然界における定常開放システムの連鎖ループと人為におけるその不連続性について
第 9 回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る「人為」の熱力学 1	「人為」の特徴を LCA から分析する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析とは何か？ 物質・エネルギーの保存と拡散は LCA ではどのように表現されているか？
第 10 回	ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る「人為」の熱力学 2	具体例による考察。資源採掘、加工・変換、運搬、消費、廃棄などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて

第 11 回	環境負荷の大きさを測る 1（エコロジカルフットプリント）	人間活動による環境負荷の大きさとエコロジカルフットプリント指標について。資源消費・排出量と土地面積への変換など
第 12 回	環境負荷の大きさを測る 2（エコロジカルフットプリント）	具体例による考察。人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について
第 13 回	地球と人為の理解へ向け 1	定常開放システムとエントロピー。資源と廃棄する空間の有限性。自然界における循環と人工的な循環など
第 14 回	地球と人為の理解へ向け 2	参加者による討論を行う
第 15 回	総括	授業内容の振り返りと総括、レポートの説明

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業内容を復習してください。

### 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

### 【参考書】

開講時に紹介します。

### 【成績評価基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、それと最終授業時に出题するレポートの内容を勘案して判断します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

### 【その他】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「自然環境科学の基礎（物理学）」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。この授業は毎回情報教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講を希望する方は必ず第 1 回の授業に出席してください。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境サイエンスコース



## 環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える

本科目では、持続可能とは何か？という問題をより具体的にかつ科学的に考えることをテーマとする。自然界においては物質・エネルギーは保存しているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）がありそれらは拡散する（言い換えると、エントロピーは増大する）という特徴を持つ。システムを持続させるためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。本科目では、「地球」と人間活動としての「人為」の特徴をこのような法則性をもとに浮き彫りにした上で、幾つかの現象や具体例を眺めることにより「物質循環」や「持続可能」という問題を考えていく。

### 【授業の到達目標】

本科目は環境問題を考察する上で基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。エントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることを目標としている。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

[]

### 【授業の概要と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業をしたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	情報教室の利用のしかた	情報環境の説明と各種ソフトウェア＋ネットワークの利用のしかたについて
第3回	環境の基礎学1	物質・エネルギーの保存則と劣化則。避けられない「熱」の発生。エントロピーとは？「人為」についての優しい熱力学超入門
第4回	環境の基礎学2	宇宙と太陽と地球。生態系と生物。食物連鎖や光合成とエントロピー。「地球」についての優しい熱力学超入門
第5回	環境の基礎学3	定常系（平衡、非平衡系）と持続性。環境モデルとしての定常開放システムとその連鎖構造。環境の階層性。自由エネルギーと安定性。定常開放システムについての優しい熱力学超入門
第6回	ダイナミクス1（具体例が示唆すること）	カオスと決定論。動物個体数の変動モデル（喰うもの喰われるもの）。複雑変動における＋（増加）と－（減少）の競争とバランスについて。持続が可能であるためには？
第7回	ダイナミクス2（具体例が示唆すること）	喰うものと喰われるものの関係の構造。ヴォルテラによる捕食者と被捕食者の増殖速度と競争など。持続が可能であるためには？
第8回	ダイナミクス3（具体例が示唆すること）	細菌増殖モデル。増殖曲線（S字型のロジスティック曲線）と成長そして限界。栄養としての資源量・増殖空間の大きさとその有限性。成長が限界をむかえるのはなぜか？
第9回	成長の限界1	ローマクラブ「成長の限界」（1972）。システムダイナミクス入門。人口、食糧、資源消費などの幾何級数的（指数関数的）成長のメカニズムについて
第10回	成長の限界2	有限な世界における成長について。フィードバック・ループと時間遅れの効果。限界をむかえるメカニズムなど
第11回	成長の限界3	システムダイナミクスと世界モデル。「限界を超えて」（1992）・「成長の限界 人類の選択」（2004）など

第12回 循環と持続を考える1

自然界における物質のサイクルと人工的な物質のサイクル。逆工場（クロズドループ・インダストリー）は存在するのか？ゼロエミッションは可能か？そもそも永久機関は存在するのか？熱力学第二法則の壁について物質・エネルギーの取り込みと排出そしてその容量の有限性と無限性。廃棄物・リサイクルのエントロピー的考察。科学と科学技術のありかた考

第13回 循環と持続を考える2

第14回 循環と持続を考える3

第15回 総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業内容を復習してください。

### 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

### 【参考書】

開講時に紹介します。

### 【成績評価基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、これと最終授業時に出题するレポートの内容を勘案して判断します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

### 【その他】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「自然環境科学の基礎（物理学）」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。この授業は毎回情報教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講を希望する方は必ず第1回の授業に出席してください。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境サイエンスコース



【その他】

応用的内容を含みますので、政策を主とした自然環境政策論Ⅰ及びⅡ、生態学の基礎を学ぶ自然環境科学の基礎（生態学）と併せて履修することでより理解が深まります。  
また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 公害防止管理論Ⅰ

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

多くの企業や組織は環境対策を経営の柱にしている。環境ビジネスの起業や海外展開においても環境知識が必須となっており、行政職含め環境保全で国際協力に貢献する機会も増えている。当講座では水環境と産業公害の実務知識をビジュアル中心で学び、基本的な水質管理の基礎が理解できる人材の育成をめざす。同時に、公害防止管理者国家資格の取得準備のための知識を習得する。

【授業の到達目標】

環境系学部卒にふさわしい、河川など水環境の基礎知識をマスターする。米国の環境科学の関連テーマも交えて国際レベルの環境情報も学ぶことができ、専門分野や実社会において有益な環境スキルの理解を深めることもできる。

【】

【授業の概要と方法】

水環境の事例から実践知識を学ぶ。各論では、産業公害の実際、汚染物質、汚染メカニズム、環境法等を理解して、環境に関係する問題解決の基礎を学ぶ。また、水質浄化技術等の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全方法を習得する。講師が作成した実社会向け教材や海外政府向け資料も国際レベルの知識を得るために時々使用する。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現場でみた水俣病からネパール砒素汚染まで	現地取材した汚染実態と公害防止の側面からの分析。国内の水質汚濁状況の現状。
第2回	水質汚濁のメカニズム	大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのようなメカニズムで起こるのか、事例研究。
第3回	水質汚濁の種類と発生源	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。これらの発生源はどこか。
第4回	環境法概論	環境基本法、水質汚濁防止法、土壤汚染対策法、公害防止者管理法等の概論。
第5回	環境法各論	水質汚濁防止法、土壤汚染対策法、廃棄物処理法の各論。
第6回	物理化学的処理法 1	排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法。
第7回	物理化学的処理法 2	排水を浄化するための浮上、ろ過、化学処理等物理化学的処理法。
第8回	生物学的処理法 1	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法。
第9回	生物学的処理法 2	排水を浄化するための嫌気性微生物を利用する処理法。
第10回	高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用等高度な処理法。
第11回	有害物質処理法 1	健康に有害な金属物質を含む排水を浄化するための処理法。
第12回	有害物質処理法 2	健康に有害な有機化合物質を含む排水を浄化するための処理法。
第13回	水質測定法	水質測定の基礎知識と水質汚濁物質についての測定方法。
第14回	公害防止の実践	事業所における実例、ビジュアル利用による実践事例の研究。
第15回	総括	総括春学期習得事項の整理と練習問題。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定テーマに関して、インターネット検索により予習復習を課すことがある。

【テキスト】

毎回プリントを配布予定

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」  
発行所 (社) 産業環境管理協会  
「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」  
発行所 (社) 産業環境管理協会

【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70

C : 69-60 D : 59点以下で不合格。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の生産現場における公害防止技術が必要不可欠である。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、1970年代に環境法規の整備、環境設備への投資、処理技術開発、企業努力によってそれを克服した経緯がある。本講座では大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理について学ぶ。

## 【授業の到達目標】

大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理を担う、公害防止管理者の国家資格取得を目標とする。

【】

## 【授業の概要と方法】

前半は大気汚染の歴史、現在の大気汚染問題や汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。授業は基本的事項を学んだ後に、例題を解く方式で理解を深める。定期試験ではなく、授業内を行う2回の試験と出席率で成績評価を行う。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	わが国及び海外の大気汚染のエピソード及びわが国の大気汚染の現状。
第2回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要
第3回	大気汚染物質の発生源と大気拡散	大気汚染物質の発生源の種類と発生源から排出された大気汚染物質がどのように拡散して我々の健康に影響を及ぼすのか。
第4回	大気汚染による影響	大気汚染物質による人への健康及び植物への影響について。
第5回	燃料の種類と燃焼管理方法	発生源から排出される大気汚染物質の量は、燃料の種類と燃焼管理方法によってどのように異なるか。
第6回	燃焼計算	燃料と空気を燃焼させるときの空気量や発生する燃焼ガス量等を求める。
第7回	硫酸酸化物及び窒素酸化物処理技術	排ガス中の硫酸酸化物及び窒素酸化物の排出低減及び処理技術。
第8回	有害物質処理技術	ふっ素、塩素等の健康に有害な物質についての排出処理技術。
第9回	ダストの粒径分布と集じん性能	排出ガスに含まれる粒子（すす）を除去する技術を習得するための基礎知識。
第10回	ダストの粒径分布と集じん性能	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	除じん・集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第12回	硫酸酸化物及び窒素酸化物の測定法	排ガス中の硫酸酸化物及び窒素酸化物の測定法について。
第13回	有害ガス測定方法	排出ガスに含まれる有害ガスについての測定技術。
第14回	ばいじん測定方法	排出ガスに含まれる粒子についての測定技術。
第15回	総括試験	8回～14回までの内容を中心に本講座の内容を総括した試験を実施する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

## 【テキスト】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編  
発行所 (社) 産業環境管理協会

## 【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70 C：69-60 D：59点以下で不合格

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

アンケート結果が出ていなので、記述できない。

発行日：2021/6/1

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

## 廃棄物・リサイクル論

鈴木 儀郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「リサイクル」には廃棄物問題の解決、資源・エネルギー有効活用の決めるような強いポジティブイメージがある。しかし、現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。

本科目では、「廃棄物」、リサイクルの意義、今後の対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

廃棄物と有価物の差異を知ることで廃棄物及びその処理の意義を各自の生活体験に照らして考えられるようになる。自分の排出した廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。各種リサイクル法規の考え方を知り、各自が都市の特性に応じてリサイクルの推進を組み込んだ都市計画を策定する際の考え方を身につけることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義資料と参考図書をもとにして、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。それらを基にして、自らが廃棄物問題に悩む市長となった事態を想定し、廃棄物のリサイクルを進める計画について考察する。廃棄物のリサイクルと社会との関係についての考察力を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方  まず知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第2回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のバリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理体系の考え方	PCB廃棄物などの特別管理廃棄物制度の創設の背景や現状についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第11回	エコタウン	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などについて知識を得る。
第12回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第13回	リサイクル推進等による廃棄物の処理計画立案、レポート出題	仮定の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明し、レポートを出題する。
第14回	まとめとレポートの作成・提出	講義全体の内容をまとめるとともに、レポートの作成と提出を指導する。（この時間内にレポート提出）
第15回	小テスト（理解度の確認）	講義の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくことと良い

### 【テキスト】

講義の際に資料を配布する

### 【参考書】

「新・廃棄物学入門」田中勝著 中央法規

### 【成績評価基準】

①出席の状況、②提出レポートの内容、③小テストの結果により、講義の理解度と、廃棄物とリサイクルについて考える力がついているかどうか等を評価の基準とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらおう出席表を使って各自が感想、疑問を述べられるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他】

・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。

・2011年度までに旧名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修できない。「リサイクル論」の再履修者は「リサイクル論」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境サイエンスコース

## 環境教育論

吉川 まみ

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境教育の成立とあゆみ、展開や、さまざまな環境教育実践を学び、安心・安全で持続可能な社会の構築に向けて、3.11以降の環境教育の在り方を考える。

### 【授業の到達目標】

1975年、世界で初めて環境教育をテーマにした国際会議がバオグラードで開催され、「環境教育」の目的は「人と人との関係性、人と自然との関係性の再構築」であるとされました。この講義を通じて、一人一人が、あるべき持続可能な社会像や新たな関係性を再考し、それぞれがこれからの環境教育の在り方を考えることをねらいとする。

[]

### 【授業の概要と方法】

毎回、理論的な説明だけでなく、具体的に身近な事例を用いて理解を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境教育とは	・環境教育を学ぶ意義 ・環境教育のはじまり（自然保護思想と公害教育）
第2回	環境教育の展開とESD 持続可能な開発のための教育	・日本と主な国々の環境教育のあゆみ ・主要な国際会議における環境教育の位置づけの変遷 ・先進国と途上国の開発教育と環境教育
第3回	環境教育の方法と実践	・国連ESDの10年とESD実践 ・環境教育の多様な主体とアプローチ
第4回	環境思想と環境教育	・環境教育のIn・About・For ・エコロジー、ディープエコロジー、エコフェミニズム
第5回	国際教育協力と環境教育	・日本の環境思想とバイオリージョン ・途上国支援と環境教育 ・世界遺産と環境教育
第6回	環境行政と環境教育	・ESDの取組みとユネスコスクール ・地球温暖化をめぐる国内外の取組みと日本の環境政策 ・3.11以降の環境教育
第7回	学校を中心とした環境教育	・環境教育推進法、新環境教育指導資料、「総合的な学習の時間」と環境教育 ・学校におけるESD実践
第8回	生涯学習としての環境教育	・幼児の環境教育、子どもと自然体験、感性と環境教育 ・学びの変遷と体験型・参加型環境教育
第9回	地域の多様性を尊重した環境教育 ～生活知と科学知の統合～	・エコツーリズム ・農山漁村と環境教育 ・生活知・暗黙知・伝統知と科学知の統合
第10回	大都市圏の環境教育 ～環境・産業・経済～	・環境と経済の好循環 ・社会的責任と環境報告書
第11回	環境教育における連携・協働～市民・企業・行政・NGO/NPO～	・多様なステークホルダーの連携・協働 ・新しい社会の関係性
第12回	消費者と環境教育 ～生産と持続可能な消費～	・生産と消費 ・エココンシューマー、消費者教育と環境教育
第13回	暮らしと環境教育 ～衣食住と環境教育～	・衣生活と環境教育 ・食育と環境教育 ・住生活と住環境教育
第14回	安心・安全で持続可能な社会の構築と環境教育	・さまざまな社会課題と環境教育 ・まちづくり（都市計画）、防災とバリアフリー
第15回	持続可能な地域づくり、その担い手づくりとしての環境教育	・持続可能なコミュニティと意識形成 ・関係性の再考とThink Globally, Act Locally

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

地域の環境活動に参加するなど、いろいろな体験を心がけてください。

### 【テキスト】

講義ごとに配布する。

### 【参考書】

講義ごとに紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況・態度 30%、リアクションペーパー 25%、課題レポート 20%、テスト 25%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

シラバス作成の段階では、授業改善アンケートの結果を受領していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

経済発展段階が先進国段階に到達した日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。

### 【授業の到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持つことができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

日本農業及び農業政策が現在置かれている状況について、国際交渉、国内市場、農業構造、環境問題等との関係から検討する。また、農業の現場で何が起きているのか、実例を踏まえて解説する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ—現代日本における農業問題の枠組み—	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題について、理論的に解説する。
第2回	国際農産物市場の構造変化と先進国の農業政策	80年代以降の先進国を中心とした農産物過剰と、それをもたらした農業保護政策についてEU（EC）を中心に解説する。
第3回	ガット・ウルグアイラウンド農業合意とWTO農業交渉の経緯	90年代以降の各国の農政改革を規定したガット・ウルグアイラウンド農業合意と、現在も継続中のWTOドーハラウンド農業交渉の状況を解説する。
第4回	先進国の農政改革	90年代以降の先進国の農政改革について、EUを中心に解説する。
第5回	日本の農産物貿易政策と食料自給率	自由化に向かう日本の農産物貿易政策の経緯と、それに大きく影響を受けた食料自給率の低下を検討する。
第6回	家計消費と米市場の構造変化	日本農業において最も重要な農産物である米について、家計消費との関係から考察する。
第7回	労働市場の構造変化と農村労働力	農村労働力の存在状況について、労働市場との関係から検討する。第6回と第7回は、日本経済の長期停滞と絡めて議論する。
第8回	農地制度と構造政策	日本農業の規模拡大を促進する農地制度改革と構造政策の役割について解説する。
第9回	多様な担い手と農業経営の発展	家族経営以外の農業の担い手の現状と、農業経営発展の可能性について検討する。
第10回	農業と環境問題	農業が環境に与える正負両面の影響を解説し、望まれる農業環境政策の方向性を考える。
第11回	条件不利地域問題と農業の多面的機能	条件不利地域農業の存立根拠はあるのか、農業の多面的機能に注目して検討する。
第12回	食品安全問題と産直運動	BSE問題を中心とした食品安全問題の発生と、それに対する産直運動の有効性を検証する。
第13回	日本農業の政治過程	日本における農業政策の決定過程について、政-官-農協の関係に着目して検討する。
第14回	政権交代と農業政策	小泉政権から民主党、そして自民党への政権交代を経た農政の変化を検証する。
第15回	エピローグ—現代日本の農業問題—	これまでの講義の内容を総括する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことをお勧めします。

### 【テキスト】

生源寺眞一『日本農業の真実』（ちくま新書 902）、筑摩書房、2011年、756頁。

### 【参考書】

速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年、4,200頁。

### 【成績評価基準】

期末試験：100点

【評価基準】 穴埋め、語句解説、論述等を検討している。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

昨年度より講義のスピードを落とすことを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する予定。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース



## 食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考えます。

### 【授業の到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

【】

### 【授業の概要と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」です。また農産物は動植物の「いのち」そのものです。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされます。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのです。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考えていきます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる～まずは農業・農村に興味をもとう！	まずは農業・農村に興味をもとう！・・・現代社会において農業や農村を考える意義について学習します。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習します。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習します。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習します。
第5回	第5回 「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習します。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習します。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習します。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習します。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習します。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習します。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習します。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習します。

- 第13回 「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？
- 自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習します。
- 第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！
- 生命・物質が循環する自然生態系の中に農業の営みを埋め戻す意義について学習します。
- 第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！
- 日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考えます。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておいてください。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習をお願いします。

### 【テキスト】

テキストは指定しません。毎回、プリントを配布します。

### 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介します。

### 【成績評価基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価します。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがあります。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようでした。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではありませんが、授業後にリアクションペーパーを課したいと思います。

### 【その他】

2011年度までに旧名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修できません。旧名称科目の再履修者は旧名称で登録してください。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 食と農の環境学Ⅲ

吉田 岳志

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

農業問題を考える

### 【授業の到達目標】

食料生産を担う農業・農村の現状を理解するとともに①食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題②農業生産を支える技術の発展と課題③産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係④地球環境問題に対応した農業生産⑤新たな農業生産の展望、等についての知識を取得し、農業問題について多面的なものを見方を身につける。

Ⅰ

### 【授業の概要と方法】

(概要)

食料自給率や世界の食料問題について紹介するとともに、これまでの我が国の農業生産の推移を技術や政策の転換に着目しながら講義します。その上で、現在の農業の主な課題である①環境保全型農業②食の安全問題（リスク分析の考え方）③遺伝子組み換え技術をはじめとしたバイオテクノロジーやITの農業への応用④地球温暖化と農業⑤生物多様性と農業等について現状と課題を講義します。

(方法)

パワーポイントを使った講義を行います。

Ⅰ

Ⅰ

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介しします。
第2回	農業生産の推移Ⅰ	戦後60年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第3回	農業生産の推移Ⅱ	第2回の続き。農業生産資材の役割、農産物の輸入自由化問題についても講義します。
第4回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第5回	農村の現状	農業の担い手問題、農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第6回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品の安全性との関係、リスク分析の考え方を講義します。
第7回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第8回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	遺伝子組み換え技術の農業分野での活用について講義します。
第9回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	遺伝子組み換え技術以外のバイオテクノロジーの農業分野での活用について講義します。
第10回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第11回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割について講義します。
第12回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、IT化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第13回	震災対応問題	津波や放射能汚染の被害への対応の現状と課題について講義します。
第14回	農業・農村の展望	農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第15回	まとめ	必要に応じて14回までの講義の補足を行うとともに、全体を総括します。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

### 【テキスト】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

### 【参考書】

農業白書（平成23年度食料・農業・農村の動向）

### 【成績評価基準】

出席点40%、期末試験60%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

一回ごとの講義の最後に、その日の講義についての講師の考え方、学生に知って欲しいことを、まとめて説明する時間を設ける。

また、昨年度と同様、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問（出席調査票に記入）に対する回答を行い、学生の理解を深める。

### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## スポーツビジネス論Ⅰ

千田 利史

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現代社会におけるスポーツを、ビジネスの側面から総合的に解説したい。

## 【授業の到達目標】

ビジネスとしてのスポーツを成立させている、歴史的な要因や、現在のメカニズム、及び今後の展望についての体系的な知識の取得を目指す。

[]

## 【授業の概要と方法】

スポーツマーケティングの実務経験を持つ講師が、ケーススタディを紹介しつつ、最新の理論体系をわかりやすく解説する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会とスポーツ	見るスポーツ、するスポーツ
第2回	マーケティングとスポーツ	理論
第3回	スポーツマーケティングの実際	ケーススタディ
第4回	スポーツ団体の仕組み	各種競技団体
第5回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第6回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第7回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ
第8回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第9回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート
第10回	テレビとスポーツ	放映権とスポーツ番組
第11回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第12回	インターネット状況とスポーツ	新しいメディアとスポーツ
第13回	スポーツと消費者	理論、消費者類型
第14回	現代社会にとってのスポーツの意味	総論
第15回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

試合結果だけではなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する記事に多く目を通しておくこと

## 【テキスト】

各テーマに応じ配布

## 【参考書】

特に指定しない

## 【成績評価基準】

レポートの評価

および出席状況を加味する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビジュアル素材などもより積極的に活用する。

最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

## 【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、スライドなどを活用

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

スポーツビジネス上の課題を発見し、その解決策を考案する。

チームでのプレゼンテーションを行い、チームごとに競う。

## 【授業の到達目標】

課題の発見と、その解決策を、グループ学習も加えて学ぶ機会とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

スポーツビジネスの応用編として、グループごとに選択した課題をもとに、ソリューションを発見し、発表する実践的な授業を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	課題の設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ
第2回	課題の解説①	チームの運営と役割分担をどう行うか
第3回	課題の解説②	メディアリレーション
第4回	課題の解説③	スポンサーシップ
第5回	グループ分け	編成とリーダーの決定
第6回	プレゼンテーションの仕方	発表形式
第7回	グループ発表①	質疑 コメント
第8回	グループ発表②	質疑 コメント
第9回	中間総括	プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第10回	グループ発表③	質疑 コメント
第11回	グループ発表④	質疑 コメント
第12回	優秀プレゼンの発表	選考基準 コメント
第13回	スポーツビジネスとは何か	理論の整理
第14回	職業としてのスポーツの可能性	スポーツに関わる職業
第15回	グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか（まとめの議論）

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業時間以外に、グループでの簡単な調整準備会議が必要

## 【テキスト】

各回の講義で配布

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価基準】

発表内容

グループ作業への貢献

出席

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生諸君の積極的な参加と発表を期待します。

## 【学生が準備すべき機器他】

各自が PPT で発表資料作成

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## リサイクル論

鈴木 儀郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「リサイクル」には廃棄物問題の解決、資源・エネルギー有効活用の決めるような強いポジティブイメージがある。しかし、現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。

本科目では、「廃棄物」、リサイクルの意義、今後の対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

廃棄物と有価物の差異を知ることで廃棄物及びその処理の意義を各自の生活体験に照らして考えられるようになる。自分の排出した廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。各種リサイクル法規の考え方を知り、各自が都市の特性に応じてリサイクルの推進を組み込んだ都市計画を策定する際の考え方を身につけることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義資料と参考図書をもとにして、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。それらを基にして、自らが廃棄物問題に悩む市長となった事態を想定をし、廃棄物のリサイクルを進める計画について考察する。廃棄物のリサイクルと社会との関係についての考察力を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方  まず  知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第2回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のバリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理体系の考え方	PCB廃棄物などの特別管理廃棄物制度の創設の背景や現状についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第11回	エコタウン	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などについて知識を得る。
第12回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第13回	リサイクル推進等による廃棄物の処理計画立案、レポート出題	仮定の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明し、レポートを出題する。
第14回	まとめとレポートの作成・提出	講義全体の内容をまとめるとともに、レポートの作成と提出を指導する。（この時間内にレポート提出）
第15回	小テスト（理解度の確認）	講義の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておく和良好的

### 【テキスト】

講義の際に資料を配布する

### 【参考書】

「新・廃棄物学入門」田中勝著 中央法規

### 【成績評価基準】

①出席の状況、②提出レポートの内容、③小テストの結果により、講義の理解度と、廃棄物とリサイクルについて考える力が付いているかどうか等を評価の基準とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらおう出席表を使って各自が感想、疑問を述べられるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他】

・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境サイエンスコース

## 人間環境特論（交通モビリティと持続可能性）

田中 勝昭

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義の目的は環境に多大な影響を与えている自動車を中心とした交通システムをどのように再構築し、持続可能な社会を達成していくかを推論していくことである。カーシェアリングシステムなどの最新のシステムについても紹介する。また現在までの世界や日本の自動車産業の歴史、生産システム、企業形態、環境対策についても学習する。また具体的な事例に入っていく前に社会科学とは何か、社会科学の方法論についても学び、社会に対する分析、知識の体系化、研究方法についても習得していく。経営学からはピータードラッカーの理論なども紹介する。

## 【授業の到達目標】

自動車産業の歴史や生産システム、環境対策についての知識、および新しい交通システムへの理解を深める。また、科学的、論理的思考方法についても学び、将来的に学究的な研究をするための基礎知識、就職活動にも役立つ論理性や知識も習得する。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初の段階では講義全体を把握するための科学的思考、知識について学習し、体系的知識の習得方法について学習する。その後具体的に自動車産業の歴史、生産システム、経営について学び、カーシェアリングシステムなどを導入した交通システム全体の再構築および将来的なビジョンの構築について紹介していく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	全体の講義の進め方や、講義を受けるにあたっての取り組み方などの説明を行う。
第2回	社会科学とは何か？	社会科学とは何かについての基本的な理解を深める。
第3回	社会科学の研究方法与・ビジョンの構築	社会科学を学習するにあたっての方法論と考え方を習得する。また、その後のビジョンの持ち方についても学ぶ。
第4回	社会科学分析のための経営諸理論の紹介	環境や社会を分析するためにピータードラッカーなどの経営学の諸理論を学ぶ。
第5回	環境問題の全般的分析と環境対策における交通システムの重要性	これまでに学んだ社会科学の理論、経営学の理論を応用して体系的に環境問題全般を把握し、その中でも交通システムの果たす役割の重要性について考察する。
第6回	世界の自動車産業の歴史	世界の自動車産業の発達史（概略）を学習する。
第7回	世界の自動車産業のシステムと経営（1）	GM やフォードなど世界の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。
第8回	世界の自動車産業のシステムと経営（2）	GM やフォードなど世界の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。
第9回	日本の自動車産業の歴史	日本の自動車産業の歴史（概略）を学習する。
第10回	日本の自動車産業のシステムと経営（1）	日本の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。トヨタのカンバン方式や最新のシステムについても紹介する。
第11回	日本の自動車産業のシステムと経営（2）	日本の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。トヨタのカンバン方式や最新のシステムについても紹介する。
第12回	自動車産業における環境対策	自動車産業における環境対策全般を紹介する。
第13回	ヨーロッパの交通システムの変遷	ヨーロッパ、とくにスイスやドイツを中心とした交通システムの紹介、分析を行う。
第14回	新しい交通システムと体系的ビジョンの構築	ここまでの講義の内容を踏まえ、体系的に持続可能な社会を達成するための自動車産業、交通システムに対するのビジョンを構築する。
第15回	授業内試験	一定の知識に対するの確認および論述による試験を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

普段から新聞やニュースの記事も含め、関連する話題について敏感に接しておくようにする。社会科学の入門書や簡単な哲学についての紹介本なども読んでおくことが望ましい。自動車産業は経済や経営と無関係ではないので、関連した知識を身につけておくことで就職活動などにも必ず役に立つ。頭を柔軟にし、自らの発想を持つことができるように常に訓練しておくこと。

## 【テキスト】

講義の前に随時紹介する。

## 【参考書】

講義の内容にあわせて逐次紹介するが、ピータードラッカーや哲学全般に関する基礎的な文献などに目を通しておくとよい。

## 【成績評価基準】

出席およびレポート、テストの総合で判断する。特に授業の内容を踏まえた上での独自の視点、発想、ビジョンについては重視する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からのスタートであるが、授業内でも学生と積極的にディスカッションを行いたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント等

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 人間環境特論（観光と地域振興）

【関連の深いコース】  
地域環境共生コース

## 沓掛 博光

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

観光を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。この講義では一般生活に定着した観光をプリンシプルに見直し、ここから発生する観光の様々な事象を広く認識し、観光が何故、地域社会の創造と再生に役立つのかを学ぶ。観光は狭義には楽しみを求める旅であり、広義には観光事業全般を含めて指し、意味するところは広い。21世紀に求められている価値観や生活のあり様なども視野に入れながら考察する。

## 【授業の到達目標】

時代と共に変遷する旅の姿や観光の楽しみ方を歴史的に追いながら、観光のもつ意義を今日的に理解する。現在わが国の市、町、村において官民一体となって観光に取り組むのは何故なのかを事例を挙げながら認識し、地域において観光が観光関係者のみの範疇から出て、広く一般の生活者のレベルにまでひろがりを見せている現状を理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行う。国内外の観光の実際を紹介しながら、観光を多面的にとらえ、受動的な観光から主体的な観光のあり方を考察する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	観光についての導入的な説明と授業の進め方について
第 2 回	観光の定義とは？	観光は広く解釈されている。その定義はどんなものがあるのか。言葉の意味から国際比較までを学習
第 3 回	観光を構成する要因	観光には自然と文化の2つの資源がある。それらの構成要因を分析
第 4 回	観光の自然資源	何故、多くの人は観光を楽しむのか。その資源的要因を探る
第 5 回	温泉の魅力	日本人の観光に不可欠な温泉の魅力とは何かを、全国の事例から検証する
第 6 回	観光の文化資源	各地に残る歴史的建造物や町並み、伝統芸能、祭事など観光の文化資源を検証する
第 7 回	旅の変遷 I	古代から近世までわが国の旅の変遷をとらえ、旅と社会生活とのかかわりを見る
第 8 回	旅の変遷 II	近代から現代までの旅の変遷をとらえ、今日の旅がどのようにして登場してきたかを知る
第 9 回	様々なツーリズム	時代を経て変遷した旅が現在は色々な形で発展してきている。その実態を分析
第 10 回	観光は何故地域振興とつながるのか	観光の持つ多面的な力を事例を見ながら学習
第 11 回	観光を通した町おこし I	観光を町おこしに生かしている事例を研究
第 12 回	着地型観光と町おこし	ここ2、3年の間に各地で始まった着地型観光の実際を学習
第 13 回	着地型観光の課題と可能性	新しい観光故に可能性と共に課題も残る。このことについて学習
第 14 回	まとめ	1回から13回までのまとめ
第 15 回	期末テスト	理解の確認

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日常的に観光地や観光施設など観光に関する情報をマスコミ等を通じて収集すること。前回の復習。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考書】

授業の中で紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験。日頃の授業態度。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント及びプロジェクター

## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることもめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各回講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は、一年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは火曜1時限目に、G～Lクラスは水曜1時限目に登録・履修すること。再履修者は、どちらかを選ぶこと。

## 人間環境学入門

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることもめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドからみる地域環境」ミネルヴァ書房

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各領域の講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は「人間環境学への招待」と名称変更した。火曜1限目または水曜1限目のどちらかのクラスを登録・履修すること。



## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各回講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は、一年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは火曜1時限目に、G～Lクラスは水曜1時限目に登録・履修すること。再履修者は、どちらかを選ぶこと。

## 人間環境学入門

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることもめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各回講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は「人間環境学への招待」と名称変更した。火曜1限目または水曜1限目のどちらかのクラスを登録・履修すること。

## 環境科学入門

藤倉 良

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

自然環境科学を今後より高度により専門的に学ぶためには、化学理論や化学計算方法の理解と習得が必須となります。物質計算や溶液濃度計算などの基礎的内容から溶液の緩衝作用やDO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）の測定原理などの応用例までを問題演習形式で解説してゆきます。

## 【授業の到達目標】

高等学校で履修する「化学Ⅰ」および「化学Ⅱ」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論や基本化学計算を習得することを旨とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

自然環境科学をより専門的に学ぶために必要な、化学理論や計算法を問題演習を中心に解説します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境科学の基礎（化学）の内容説明	授業内容、授業の進め方、評価方法など説明
第2回	物質の構成（1）	物質の成分、物質の構成元素
第3回	物質の構成（2）	原子の構造、元素の周期律
第4回	物質の構成（3）	化学結合の種類
第5回	物質の構成（4）	物質計算、溶液濃度計算
第6回	物質の変化（1）	化学反応式と量的関係
第7回	物質の変化（2）	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則を利用した反応熱計算
第8回	物質の変化（3）	反応速度と活性化エネルギー
第9回	物質の変化（4）	化学平衡
第10回	物質の変化（5）	酸と塩基、pH、中和滴定
第11回	物質の変化（6）	弱酸、弱塩基の電離平衡
第12回	物質の変化（7）	緩衝溶液、塩の加水分解反応
第13回	物質の変化（8）	酸化と還元
第14回	物質の変化（9）	酸化還元滴定
第15回	まとめ	期末試験対策問題演習、質疑応答

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回授業の内容に関する簡単な確認テスト（10分程度）を毎授業時に実施します。前回授業の内容を簡単に復習しておいてください。

## 【テキスト】

特にテキストは指定しません。授業時に配布するプリントを使用します。

## 【参考書】

第1回授業時に紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験および毎授業時に実施する確認テスト（10分程度）の総合点で評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度は担当が交代になります。

## 【その他】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 環境科学入門

宮川 路子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

## 【授業の到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をばぐむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

細胞、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂。組織、血液とその仕組み。呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。
第3回	呼吸器	呼吸器の病気。循環器系の構造と働き。
第4回	循環器	心臓について。血管について。循環器系の病気。
第5回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸。消化器系の働きと病気。ビデオ鑑賞
第6回	消化器（2）	肝臓の構造と機能。ビデオ鑑賞
第7回	泌尿器	腎臓の構造と機能。尿について
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能。関節の仕組みと働き。筋収縮について
第9回	神経	神経の仕組みと働き。中枢神経系と末梢神経系。神経伝達のメカニズム。神経の病気。
第10回	感覚（2）	視覚について。ビデオ鑑賞
第11回	感覚（2）	聴覚・平衡感覚。嗅覚、味覚、皮膚感覚。内臓感覚
第12回	生殖器	人の生殖の仕組み
第13回	発達	発達の成り立ち。赤ちゃんの発達。ビデオ鑑賞
第14回	学習	学習の成り立ち
第15回	試験	授業内試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。

## 【テキスト】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

## 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

## 【成績評価基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本シラバス作成時点では2012年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他】

「自然環境科学の基礎（生物学）」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 環境科学入門

高田 雅之

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎を学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることをテーマとします。

## 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①動植物及び植物の生態と相互作用
- ②様々な生態系の特徴と取り巻く課題

【】

## 【授業の概要と方法】

「動物（鳥類と哺乳類を中心に）と植物の生態」、「環境との相互作用及び群集生態」、「進化と適応」、「主な生態系の特徴と構造・機能」、「生態系をめぐる課題」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態	日本の鳥類相、鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係
第3回	種子の散布	様々な散布形式、動物と植物の相互作用
第4回	進化と適応	適応とは、進化と自然選択、適応のための様々な生存戦略
第5回	動物の行動生態(1)	日本の動物相、ニホンジカ・素数ゼミの例
第6回	動物の行動生態(2)	なわばり行動、社会行動、共生とすみわけ、群集生態
第7回	森林生態系	森林の仕組みと機能、森の生物、物質の循環
第8回	湿地・草地生態系	日本の主な湿地と草原、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第9回	淡水生態系	河川・湖沼の生物と生態系、水生昆虫のすみ分け、魚類と河川環境
第10回	沿岸生態系	海から陸への物質輸送、サケと海洋環境、サンゴや海藻など多様な沿岸生態系
第11回	島嶼生態系	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第12回	都市・田園生態系	水田とため池の生態系、都市内緑地の生物相
第13回	貴重種と外来種	リッドリストとブルーリスト、貴重種保護の事例、外来種問題
第14回	生物多様性	生物多様性とは、ホットスポットと日本の生物多様性
第15回	まとめ	これまでの復習、野生生物との共生

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めてください。

## 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他】

生態学の知識に基づいた自然環境保全に関する講義（政策を主とした自然環境政策論Ⅰ及びⅡ、生態学の応用を学ぶ自然環境論Ⅳ）を、在学中に履修することでより理解が深まります。

また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

**環境科学入門**

杉戸 信彦

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

**【授業の到達目標】**

自然環境（気候や地形、水循環など）の地域的差異とそのメカニズム、歴史的な変遷の概要を把握し、人間社会が自然環境に左右される側面を再認識する。

【】

**【授業の概要と方法】**

われわれをとりまく自然環境は地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	環境決定論・環境可能論・その後、自然災害
第2回	大気海洋のしくみ・地球のエネルギー収支	大気と海洋の構造、熱対流、大気大循環、海洋大循環、潮汐
第3回	気候要素・気候因子・気候区分	気温・降水・風、緯度帯・海流・地形、ケッペンの区分・アリソフの区分
第4回	日本列島の気候	気団と海流、四季、暦、二十四節気、エルニーニョ南方振動、都市気候
第5回	編年法・古環境復元法	年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、古地磁気、酸素同位体ステージ、花粉、珪藻
第6回	グローバルな気候変動と海水準変動	数万年スケール/歴史時代の気候変動と海水準変動
第7回	固体地球のしくみ・プレートテクトニクス	地球の内部構造、プレートとは、プレート境界、島弧-海溝系
第8回	地震と火山噴火	プレート境界・活断層、震度とマグニチュード、火山前線・中央海嶺・ホットスポット
第9回	地形をつくる力：外的営力・内的営力	風化・侵食・堆積、地殻変動・火山活動
第10回	地形の種類と成り立ち	低地・台地・丘陵・山地、地形の時空間スケール
第11回	日本列島の地形と地質	海溝、島弧、付加体、日本海形成、アクティブテクトニクス、鉱物資源
第12回	水	河川の水・湖沼の水・地下水・雪水、海水、循環・滞留時間・収支
第13回	土壌	世界の土壌、因子、成帯性土壌・成帯内性土壌・非成帯性土壌、有機物
第14回	植生・動物	世界の植生・動物、因子、自然植生・代償植生、植生遷移、外来種と絶滅種
第15回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

自然環境に関わる文献や映像等、また時の話題に積極的に触れて下さい。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

**【参考書】**

授業中に紹介

**【成績評価基準】**

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2013年度より担当

**【その他】**

「自然環境論 I」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 環境科学入門

北川 徹哉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

エネルギーの基礎ならびにエネルギーと社会との関係がテーマである。

### 【授業の到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【】

### 【授業の概要と方法】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。  
試験（50％）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

内容が難しいとの感想がありましたが、ほとんどの学生さんが楽しく受講しています。わからないところは遠慮なく質問してください。

### 【その他】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げます。わからないところは、どんどん質問しましょう。「エネルギー論Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 環境科学入門

谷本 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

### 【授業の到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【】

### 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観（1）	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観（2）	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観（1）	デカルトの『哲学原理』（1644）の地球論
第8回	科学革命期の地球観（2）	ステノの『プロドロムス』（1669）の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観（3）	ライブニッツの『プロトガイア』（1691）啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観（1）	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観（2）	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観（3）	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

### 【その他】

「地球科学史Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 環境科学入門

朝比奈 茂

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。本講義では、補完代替医療について、その概要を把握し、現代社会における役割や位置づけ、将来への可能性など検討する。また人間に備わっている自然治癒力について、免疫の観点から検討する。

## 【授業の到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. 本来からだに備わった働きの一つである自然治癒力を説明できる。
3. 創傷の治癒過程について説明できる。
4. 免疫の働きについて説明できる。
5. 治癒を妨げるもの、治癒を促進する食品が説明できる。
6. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
7. 自らの健康観を述べることができる。

[]

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方向（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率のよい知識の伝達を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	環境と健康：自然が与える生命力、森林と自然治癒力	環境の問題についての意識を高めるために誰もが入りやすい題材として森林と自然治癒力の関係を取りあげる。
第 3 回	エコロジカルな健康観：地球の健康なくして、人間の健康はない	環境に優しい医学として、世界各地で発展してきた伝統医学を取りあげ、その特徴、健康観について説明する。
第 4 回	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) : ホメオパシー的思考、基本概念	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーを例に挙げ、本来からだに備わっている自然治癒力について説明する。
第 5 回	治癒の本質：治癒の 3 局面 (反応・再生・適応)	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力 (自然治癒力) について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第 6 回	創傷の治癒：線維の増殖、癒痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを説明する。
第 7 回	病気になる人、ならない人：人はどうして病気になるのだろうか？	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連する DVD を視聴しながら解説する。
第 8 回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について説明する。
第 9 回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性をを説明する。
第 10 回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人の生活は日々摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。

- 第 12 回 有害物質から身を守る 水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
- 第 13 回 ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係 精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
- 第 14 回 成熟した人間になるために：治療は外から、治癒は内から 治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
- 第 15 回 総括 これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

## 【参考書】

人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
 癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
 補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクトブ新書  
 ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
 免疫 (からだを護る不思議なしくみ) 第 4 版 矢田純一著 東京化学同人  
 腸内革命 藤田紘一郎著 海竜社

## 【成績評価基準】

期末試験 (100 %) により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 【その他】

「環境健康論 I」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 環境科学入門

松本 倫明

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	気候変動研究の歴史	気候変動（とくに地球温暖化）がどのように理解されてきたか、その歴史を概観する。温室効果の発見、キーリング曲線、IPCC など。
第3回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第4回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第5回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第6回	地球の構造	地球の構造と元素組成を学びながら地球全体を概観する。
第7回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第8回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第9回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第10回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第11回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。
第12回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第13回	放射平衡	大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第14回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業のなかで指示をする。

### 【テキスト】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。これらを総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度の実施状況を鑑みて、シラバスを大幅に改訂した。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話を使う。

### 【その他】

「気候変動論Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース



## 環境科学入門

## 渡邊 誠

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：簡単な実験から環境問題の基礎を学ぶ

本科目では、日常のありふれた道具を使って簡単な実験を行うことにより、物理が、(1) 我々の生活に密接に関連していること、(2) もちろん環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を自然法則に照らして理解するための環境がある。この授業ではその内容に沿ってのエッセンスが並べられている。

## 【授業の到達目標】

物質とエネルギーに関する内容を中心とするが、最終的に「熱力学の第二法則」は環境問題を探求するための土台であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回実験（デモンストレーション）を行うことにより授業を進めていく。文系の学生、物理を苦手としている学生に充分わかりやすい授業となるように留意しながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（玩具「水飲み鳥」による運動の持続性に関する実験）	水飲み鳥はなぜ動くのか？ 持続可能となるための条件は何か？ なぜ物理は環境問題を考察するための土台なのか？
第2回	スピードガンで測ろう1（落下するボールの速度を測る実験+ PC シミュレーション付）	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について
第3回	スピードガンで測ろう2（振り子運動、放物運動をするボールの速度を測る実験+ PC シミュレーション付）	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギーに約100Wの電球と同じ、など
第4回	エネルギーと熱の実験（様々なエネルギーの間の変換の実験+太陽光、電気、摩擦（力学）を熱に変える実験）	異なった形態のエネルギーと変換。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。エネルギーの最後は熱になる。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう
第5回	熱の伝わり方を見る（金属棒を伝わる熱+空気の流れによる伝熱+電気ストーブによる加熱などの実験）	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第6回	気体の性質を調べよう（風船の体積と温度の関係調べる実験+タイヤチューブの圧力と温度との関係調べる実験）	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1（加熱器を用いての水の融解熱の測定実験+水の蒸発熱の測定実験）	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2（水の膨張率の測定実験+水の体積（密度）・浮力と融解の実験）	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は水位の上昇と関係するの？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？
第9回	ウエーブマシンを作ろう（身近な材料を用いての横波&縦波発生器の作製+波動実験）	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波に関連する内容の理解

第10回	超簡単な電気回路を作ろう（抵抗線を通れる電流による熱発生（ジュール熱）の測定実験）	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう（電界と磁界に関する実験）	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間
第12回	原子模型を使って原子・分子を理解しよう（原子の構造とエネルギーに関するデモ）	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）と Sv（シーベルト）などについての超入門。原子力発電とウラン、セシウムなどの解説
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1（水と湯の間の熱移動の実験+水中に落とされたインク拡散の観察）	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から空間全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2（LED電球と白熱電球の熱発生測定実験）	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピーの解釈超入門
第15回	総括（玩具「水飲み鳥」再登場：「持続可能」をどう見るか？）	広い空間では動き続ける水飲み鳥だが狭い空間に置くと動きが止まる。物質・エネルギーの保存則と拡散則から循環と持続の考察へ。熱力学の第二法則・・・そして熟死

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、それと最終授業時に出题するレポートの内容を勘案して判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生が各自情報機器を使用しながら進めていく授業ではありません。実験内容をプロジェクターに映しながら進めていきます。

## 【その他】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。





## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。



## 【その他】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

## ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにと  
もない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった  
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学  
ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理につ  
いても触れる。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【】

### 【授業の概要と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題  
を行なって操作方法の理解を確認する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パ ソコンの基本的な操作を確認する。 キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木 構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を 学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理： Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理 方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画 像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由 課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作： HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。 HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題 ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信 と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の 方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影 ：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学 ぶ。様々な事例を取り上げ、インター ネットの利用における問題点や注意点 を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないか  
もしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

### 【テキスト】

WWW を通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

出席回数・平常点・課題提出を総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

**【その他】**

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。



## 統計とデータ分析

### 渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

テーマ：EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する  
統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用して統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

#### 【授業の到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけでなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

II

#### 【授業の概要と方法】

授業は毎回、情報教室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

II

II

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など
第 4 回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など
第 5 回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など
第 6 回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など
第 7 回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など
第 8 回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？

第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について
第 14 回	統計学入門 7	因子分析について。原因と結果の分析法。結果からその重要な要因を見抜くには？
第 15 回	総括	環境データを統計的に理解する

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業内容を復習してください。

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

#### 【参考書】

開講時に紹介します。

#### 【成績評価基準】

試験は行いません。出席を重視し、これと最終授業に出題するレポートの内容を勘案して判断します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を使用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

#### 【その他】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要ありません。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。

この授業では毎回情報教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講を希望する方は必ず第 1 回の授業に出席してください。

2011 年度までに旧科目名称「統計概論」を履修済の場合、この科目は履修できません。科目名称変更に関する詳細は、履修の手引きを確認してください。

## 統計概論

## 渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～9.5%が含まれる範囲」、「9.0%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用して統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

## 【授業の到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけでなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

II

## 【授業の概要と方法】

授業は毎回、情報教室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

II

II

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウエア+ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など
第 4 回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など
第 5 回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など
第 6 回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など
第 7 回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など
第 8 回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？

第 12 回 統計学入門 5

統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？

第 13 回 統計学入門 6

統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について

第 14 回 統計学入門 7

因子分析について。原因と結果の分析法。結果からその重要な要因を見抜くには？

第 15 回 総括

環境データを統計的に理解する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回、授業内容を復習してください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

試験は行いません。出席を重視し、これと最終授業に出題するレポートの内容を勘案して判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業内容をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

## 【その他】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要といたしません。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。

この授業では毎回情報教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講を希望する方は必ず第 1 回の授業に出席してください。

## 英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたりリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコ・シュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

URL

<http://www.mpa.org/><http://www.ox.ac.uk/gazette/><http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

・出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

・参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

・モニターテスト

・映画に関するショートエッセイ

・期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALL システムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4群必修）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～3年／1単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

## URL

<http://www.mpa.org/>

<http://www.ox.ac.uk/gazette/>

<http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

・出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

・参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

・モニターテスト

・映画に関するショートエッセイ

・期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALLシステムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群選択）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコ・シュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

URL

<http://www.mpa.org/><http://www.ox.ac.uk/gazette/><http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

・出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

・参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

・モニターテスト

・映画に関するショートエッセイ

・期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALL システムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（スキルアップ科目）

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

## 【授業の到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々な状況で適切な英語の表現を自然に、かつ臨機応変に用いることができるようになることを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかく覚えた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはよくあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話での臨機応変なやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	試験	授業でおぼえた表現を聴き取る試験をおこないます。
第 15 回	試験の解説	試験の解説

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用 CD を用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

## 【テキスト】

Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

## 【参考書】

必要に応じて指示します

## 【成績評価基準】

①出席状況、②授業に対する取り組み、③期末試験から総合的に評価します。①に関しては、欠席 5 回で単位取得資格を失います。②に関しては、授業中に適宜、口頭で質問、書き取り問題や吹込み音声の提出、Native World Pro. での英会話のモニターなどを行うことによって評価します。③の期末試験を受けないと、単位取得資格を失います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群必修）

板橋 美也

配当年次／単位：1～3 年／1 単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

## 【授業の到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々な状況で適切な英語の表現を自然に、かつ臨機応変に用いることができるようになることを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかく覚えた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはよくあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話での臨機応変なやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	試験	授業でおぼえた表現を聴き取る試験をおこないます。
第 15 回	試験の解説	試験の解説

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用 CD を用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

## 【テキスト】

Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

## 【参考書】

必要に応じて指示します。

## 【成績評価基準】

①出席状況、②授業に対する取り組み、③期末試験から総合的に評価します。①に関しては、欠席 5 回で単位取得資格を失います。②に関しては、授業中に適宜、口頭で質問、書き取り問題や吹込み音声の提出、Native World Pro. での英会話のモニターなどを行うことによって評価します。③の期末試験を受けないと、単位取得資格を失います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群選択）

板橋 美也

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

## 【授業の到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々な状況で適切な英語の表現を自然に、かつ臨機応変に用いることができるようになることを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかく覚えた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはよくあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話での臨機応変なやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	試験	授業でおぼえた表現を聴き取る試験をおこないます。
第 15 回	試験の解説	試験の解説

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用 CD を用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

## 【テキスト】

Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

## 【参考書】

必要に応じて指示します。

## 【成績評価基準】

①出席状況、②授業に対する取り組み、③期末試験から総合的に評価します。①に関しては、欠席 5 回で単位取得資格を失います。②に関しては、授業中に適宜、口頭で質問、書き取り問題や吹込み音声の提出、Native World Pro. での英会話のモニターなどを行うことによって評価します。③の期末試験を受けないと、単位取得資格を失います。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし

## 【その他】

受講希望者多数の場合、選抜を行いますので、必ず第一回目の授業に出席してください。



## 英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Act ing out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.

Writing down their favorite line.

Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%) , Attendance and Assignments (40%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to have a discussion

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群必修）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～3年／1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第11回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第13回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第14回	Act ing out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第15回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.

Writing down their favorite line.

Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%) , Attendance and Assignments (40%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to have a discussion

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群選択）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第11回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第13回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第14回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第15回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.

Writing down their favorite line.

Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%), Attendance and Assignments (40%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to have a discussion

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円  
 『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群必修）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～3年／1単位  
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円  
 『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群選択）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 1	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730円

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（4群必修）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～3年／1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（4群選択）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Not applicable

### 【授業のテーマ】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

### 【授業の到達目標】

Through the course, students will be able to:

- define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century
- explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

[]

### 【授業の概要と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' to which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write in reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第 3 回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第 4 回	Modernism 1	The Bauhaus
第 5 回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第 6 回	Consumerism and design 1	Art Deco
第 7 回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第 8 回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第 9 回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第 10 回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第 11 回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第 12 回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第 13 回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第 14 回	Exam	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.
第 15 回	Exam review	Exam review

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

### 【テキスト】

Worksheets will be provided by the instructor.

### 【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

### 【成績評価基準】

Students will be assessed based on:

- attendance (Students who miss 5 classes or more will not be able to pass this course.)
- class participation

## テーマ別英語 1（4 群必修）

板橋 美也

配当年次／単位：1～3 年／1 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Not applicable

### 【授業のテーマ】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

### 【授業の到達目標】

Through the course, students will be able to:

- define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century
- explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

[]

### 【授業の概要と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' to which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write in reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第 3 回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第 4 回	Modernism 1	The Bauhaus
第 5 回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第 6 回	Consumerism and design 1	Art Deco
第 7 回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第 8 回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第 9 回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第 10 回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第 11 回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第 12 回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第 13 回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第 14 回	Exam	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.
第 15 回	Exam review	Exam review

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

### 【テキスト】

Worksheets will be provided by the instructor.

### 【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

### 【成績評価基準】

Students will be assessed based on:

- attendance (Students who miss 5 classes or more will not be able to pass this course.)
- class participation



## テーマ別英語 1 (4 群選択)

板橋 美也

配当年次/単位：1～4 年 / 1 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Not applicable

### 【授業のテーマ】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

### 【授業の到達目標】

Through the course, students will be able to:

- define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century
- explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

[]

### 【授業の概要と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' to which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write in reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Guidance on the course
第 2 回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第 3 回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第 4 回	Modernism 1	The Bauhaus
第 5 回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第 6 回	Consumerism and design 1	Art Deco
第 7 回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第 8 回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第 9 回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第 10 回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第 11 回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第 12 回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第 13 回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第 14 回	Exam	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.
第 15 回	Exam review	Exam review

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

### 【テキスト】

Worksheets will be provided by the instructor.

### 【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

### 【成績評価基準】

Students will be assessed based on:

- attendance (Students who miss 5 classes or more will not be able to pass this course.)
- class participation

## テーマ別英語 2 (スキルアップ科目)

### ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

\*Human Society\*

This course provides an overview of the different aspects in human society. This subject introduces students to stimulating topics about human society, including the concept of culture, history, women's and men's movements, genetic engineering and so on.

#### 【授業の到達目標】

By the end of the semester, students should be able to do the following in English:

1. To understand and summarize the written and spoken arguments of others.
2. To formulate well-developed and logical arguments, and convey them in a clear and concise manner.

[]

#### 【授業の概要と方法】

Classes will include a range of listening and speaking activities based on authentic university-level lectures, and help students to develop their comprehension, note-taking, and academic study skills. The content may be difficult for lower proficiency learners, so only students who are willing to actively participate in class should attend.

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation and Overview	Overview of the course, online activities, and overview of human communication.
第 2 回	Anthropology	Listen to the lecture and take notes about anthropology. Note-taking during the Webquest.
第 3 回	The Concept of Culture	Listen to the lecture and take notes about the concept of culture. Note-taking during the Webquest.
第 4 回	Egyptian Pyramids	Listen to the lecture and take notes about Egyptian pyramids. Note-taking during the Webquest.
第 5 回	The First Emperor of China	Listen to the lecture and take notes about the first emperor of China. Note-taking during the Webquest.
第 6 回	The Women's Movement	Listen to the lecture and take notes about the women's movement. Note-taking during the Webquest.
第 7 回	The Men's Movement	Listen to the lecture and take notes about the men's movement. Note-taking during the Webquest.
第 8 回	The Classroom	Listen to the lecture and take notes about the classroom. Note-taking during the Webquest.
第 9 回	Gender and Communication	Listen to the lecture and take notes about gender and communication. Note-taking during the Webquest.
第 10 回	The Origins of Genetics	Listen to the lecture and take notes about the origins of genetics. Note-taking during the Webquest.
第 11 回	Genetic Engineering in the Biotech Century	Listen to the lecture and take notes about genetic engineering in the biotech century. Note-taking during the Webquest.
第 12 回	Research Workshop	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing.
第 13 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper.
第 14 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

#### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

#### 【テキスト】

Materials will be distributed in class.

#### 【参考書】

関連 URL : <http://hosei.freepgs.com>

#### 【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and online tasks.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

This course will be offered from 2013.

## テーマ別英語 2（4 群必修）

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～3 年／1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

\*Human Society\*

This course provides an overview of the different aspects in human society. This subject introduces students to stimulating topics about human society, including the concept of culture, history, women's and men's movements, genetic engineering and so on.

### 【授業の到達目標】

By the end of the semester, students should be able to do the following in English:

1. To understand and summarize the written and spoken arguments of others.
2. To formulate well-developed and logical arguments, and convey them in a clear and concise manner.

[]

### 【授業の概要と方法】

Classes will include a range of listening and speaking activities based on authentic university-level lectures, and help students to develop their comprehension, note-taking, and academic study skills. The content may be difficult for lower proficiency learners, so only students who are willing to actively participate in class should attend.

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation and Overview	Overview of the course, online activities, and overview of human communication.
第 2 回	Anthropology	Listen to the lecture and take notes about anthropology. Note-taking during the Webquest.
第 3 回	The Concept of Culture	Listen to the lecture and take notes about the concept of culture. Note-taking during the Webquest.
第 4 回	Egyptian Pyramids	Listen to the lecture and take notes about Egyptian pyramids. Note-taking during the Webquest.
第 5 回	The First Emperor of China	Listen to the lecture and take notes about the first emperor of China. Note-taking during the Webquest.
第 6 回	The Women's Movement	Listen to the lecture and take notes about the women's movement. Note-taking during the Webquest.
第 7 回	The Men's Movement	Listen to the lecture and take notes about the men's movement. Note-taking during the Webquest.
第 8 回	The Classroom	Listen to the lecture and take notes about the classroom. Note-taking during the Webquest.
第 9 回	Gender and Communication	Listen to the lecture and take notes about gender and communication. Note-taking during the Webquest.
第 10 回	The Origins of Genetics	Listen to the lecture and take notes about the origins of genetics. Note-taking during the Webquest.
第 11 回	Genetic Engineering in the Biotech Century	Listen to the lecture and take notes about genetic engineering in the biotech century. Note-taking during the Webquest.
第 12 回	Research Workshop	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing.
第 13 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper.
第 14 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

### 【テキスト】

Materials will be distributed in class.

### 【参考書】

関連 URL : <http://hosei.freepgs.com>

### 【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and online tasks.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

This course will be offered from 2013.

## テーマ別英語 2（4 群選択）

## ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

\*Human Society\*

This course provides an overview of the different aspects in human society. This subject introduces students to stimulating topics about human society, including the concept of culture, history, women's and men's movements, genetic engineering and so on.

## 【授業の到達目標】

By the end of the semester, students should be able to do the following in English:

1. To understand and summarize the written and spoken arguments of others.
2. To formulate well-developed and logical arguments, and convey them in a clear and concise manner.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will include a range of listening and speaking activities based on authentic university-level lectures, and help students to develop their comprehension, note-taking, and academic study skills. The content may be difficult for lower proficiency learners, so only students who are willing to actively participate in class should attend.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation and Overview	Overview of the course, online activities, and overview of human communication.
第 2 回	Anthropology	Listen to the lecture and take notes about anthropology. Note-taking during the Webquest.
第 3 回	The Concept of Culture	Listen to the lecture and take notes about the concept of culture. Note-taking during the Webquest.
第 4 回	Egyptian Pyramids	Listen to the lecture and take notes about Egyptian pyramids. Note-taking during the Webquest.
第 5 回	The First Emperor of China	Listen to the lecture and take notes about the first emperor of China. Note-taking during the Webquest.
第 6 回	The Women's Movement	Listen to the lecture and take notes about the women's movement. Note-taking during the Webquest.
第 7 回	The Men's Movement	Listen to the lecture and take notes about the men's movement. Note-taking during the Webquest.
第 8 回	The Classroom	Listen to the lecture and take notes about the classroom. Note-taking during the Webquest.
第 9 回	Gender and Communication	Listen to the lecture and take notes about gender and communication. Note-taking during the Webquest.
第 10 回	The Origins of Genetics	Listen to the lecture and take notes about the origins of genetics. Note-taking during the Webquest.
第 11 回	Genetic Engineering in the Biotech Century	Listen to the lecture and take notes about genetic engineering in the biotech century. Note-taking during the Webquest.
第 12 回	Research Workshop	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing.
第 13 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper.
第 14 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentations	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト】

Materials will be distributed in class.

## 【参考書】

関連 URL : <http://hosei.freepgs.com>

## 【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and online tasks.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

This course will be offered from 2013.

## テーマ別英語 3 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

[]

## 【授業の概要と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【その他】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

## テーマ別英語 3 (4 群必修)

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～3 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

[]

## 【授業の概要と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【その他】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

## テーマ別英語 3 (4 群選択)

R. G. ジェイムズ

配当年次/単位：1～4 年 / 1 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

[]

## 【授業の概要と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【その他】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

## テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4 年 / 1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The development and social history of modern western popular music

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【学生が準備すべき機器他】

Classroom multimedia facilities, Web

## 【その他】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

## テーマ別英語 4（4 群必修）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～3 年／1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The development and social history of modern western popular music

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【学生が準備すべき機器他】

Classroom multimedia facilities, Web

## 【その他】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

## テーマ別英語 4（4 群選択）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The development and social history of modern western popular music

## 【授業の到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト】

None.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

## 【成績評価基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

New course from 2013

## 【学生が準備すべき機器他】

Classroom multimedia facilities, Web

## 【その他】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

## 研究会 (A)

## 朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「なぜヒトは病気になるのだろうか?」「病気になるにくい身体は作れるのだろうか?」など、素朴な疑問から始まり、体の構造や働きを学び、さらには「こころ」についても考えていく。

## 【授業の到達目標】

1. 病気になるにくい体づくりを実践できる。
2. 食習慣、生活習慣の重要性を説明できる。
3. 自分に合った方法でセルフメディケーションを実践できる。
4. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
5. 文献購読をし、ゼミ員に対して発表できる。
6. 指定図書を読んでその内容をまとめ、発表できる。
7. グループ内で、ディスカッションができる。

[]

## 【授業の概要と方法】

指定した図書を全員が読むことで、一定の共通理解を得ながら各自の研究テーマを決定する。授業は主に SGD (スモールグループディスカッション) 形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、皆の前で文献 (日本語、英語どちらでも良い) 講読を行い、発表の技術を身につける。学年ごとに目標やテーマを決め、調査および討論を行う。各学年の最終段階にはレポートを提出、特に4年生においては、研究会終了論文の提出を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーションまでに関する DVD を鑑賞する。
第 3 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 4 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとこれまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	レクリエーション	ゼミ員相互のコミュニケーションをはかる目的で、スポーツ大会を行う。
第 9 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 11 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 12 回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) を講読し、意見交換を行う。
第 13 回	文献講読、指定図書の講読、発表	グループごと、テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) に関して発表を行い、ディスカッションする。
第 14 回	文献講読、指定図書の講読、発表	グループごと、テキスト (成長の限界、人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社) に関して発表を行い、ディスカッションする。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

第 16 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 17 回	文献講読、レポート作成	レポートの作成方法に関する DVD を鑑賞し、要点をまとめ、全員で共有する。
第 18 回	文献講読、テーマの選別	各自で興味がある分野を検討し、研究課題に向けた準備を行う。
第 19 回	文献講読、テーマの決定	各自で興味がある分野を検討し、研究課題を決定する。
第 20 回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第 21 回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第 22 回	中間研究報告	今までに調査収集した文献について、途中経過を発表する。
第 23 回	レクリエーション	ゼミ員相互のコミュニケーションをはかる目的で、スポーツ大会を行う。
第 24 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 25 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 26 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 27 回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第 28 回	研究発表会 (1)	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第 29 回	研究発表会 (2)	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ・補完代替医療についての概要を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・テキスト、参考図書の購読を事前に行う。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・普段から健康を意識した生活習慣を行う。

## 【テキスト】

成長の限界 ローマ・クラブ「人類の危機」レポート ドネラ H. メドウズ著  
ダイアモンド社  
成長の限界 人類の選択 ドネラ H. メドウズ著 ダイアモンド社

## 【参考書】

- ・入門漢方医学 社団法人東洋医学会 高南堂
- ・人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル 日本教文社
- ・東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版
- ・動的平衡 福岡伸一 木楽舎

## 【成績評価基準】

出席 (50%)、報告 (25%)、レポート (25%) を総合して判断する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・環境文化創造コース



## 研究会（A）

安藤 俊次

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

江戸庶民の娯楽  
-遊びの精神を探る-

### 【授業の到達目標】

江戸時代の庶民の娯楽にはどんなものがあり、それがいかに形成され、またどのように享受されてきたのか、また、その特徴は何かを探り、理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

まずは、江戸時代に形成された庶民の娯楽にどのようなものがあるかを広く知る。その上で、研究の対象を個々に絞り、適宜研究課程、研究結果の報告、発表を行う。活発な質疑応答を期待する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と江戸庶民の娯楽の概説
第 2 回	江戸庶民の娯楽を知る、文芸・美術（1）	江戸時代の文芸・美術について各自報告、質疑応答
第 3 回	江戸庶民の娯楽を知る、文芸・美術（2）	江戸時代の文芸・美術について各自報告、質疑応答
第 4 回	ことば遊びについて	ことば遊びの概説と質疑応答
第 5 回	川柳に挑戦（1）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 6 回	川柳に挑戦（2）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 7 回	江戸庶民の娯楽を知る、音曲（1）	江戸時代の音曲について各自報告、質疑応答
第 8 回	江戸庶民の娯楽を知る、音曲（2）	江戸時代の音曲について各自報告、質疑応答
第 9 回	川柳に挑戦（3）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 10 回	川柳に挑戦（4）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 11 回	江戸庶民の娯楽を知る、歌舞伎（1）	歌舞伎について各自報告、質疑応答
第 12 回	江戸庶民の娯楽を知る、歌舞伎（2）	歌舞伎について各自報告、質疑応答
第 13 回	川柳に挑戦（5）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 14 回	川柳に挑戦（6）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 15 回	春学期まとめ	春学期のまとめ
第 16 回	江戸庶民の娯楽を知る、人形芝居（文楽）（1）	人形芝居（文楽）について各自報告、質疑応答
第 17 回	江戸庶民の娯楽を知る、人形芝居（文楽）（2）	人形芝居（文楽）について各自報告、質疑応答
第 18 回	川柳に挑戦（7）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 19 回	川柳に挑戦（8）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 20 回	江戸庶民の娯楽を知る、講談（1）	講談について各自報告、質疑応答
第 21 回	江戸庶民の娯楽を知る、講談（2）	講談について各自報告、質疑応答
第 22 回	川柳に挑戦（9）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 23 回	川柳に挑戦（10）	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 24 回	江戸庶民の娯楽を知る、落語（1）	落語について各自報告、質疑応答
第 25 回	江戸庶民の娯楽を知る、落語（2）	落語について各自報告、質疑応答
第 26 回	研究報告（1）	各自が選んだ課題について研究報告
第 27 回	研究報告（2）	各自が選んだ課題について研究報告
第 28 回	研究報告（3）	各自が選んだ課題について研究報告
第 29 回	研究報告（4）	各自が選んだ課題について研究報告
第 30 回	まとめ	1 年間のまとめ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

個々の芸能等については、一定の予備知識を持っておくこと。また、各種メディアを通してでも、できるだけ実際に触れること。

### 【テキスト】

なし。適宜プリント等配布。

### 【参考書】

授業で適宜、紹介する。

### 【成績評価基準】

授業への積極的な貢献と、発表、レポートを重視する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

### 【その他】

江戸時代に形成された芸能、文芸（川柳、狂歌などを含む）、美術などの文化は、江戸以前の文化に比べ、際立った特徴を持つ。それは庶民の側から生まれ、庶民が支えてきた文化です。研究するだけではなく、是非とも五感で触れて欲しい。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 研究会（A）

【関連の深いコース】  
地域環境共生コース

## 石神 隆

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「サステイナブルなまちづくり」

都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。

## 【授業の到達目標】

定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、調査研究能力とともに、様々な企画能力をも涵養する。

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通ミニフィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文(別途単位)、2・3年生は、タムペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介、全体ガイダンス
第2回	全体のテーマ設定	研究の基本方向設定のための議論
第3回	小テーマ・対象の設定	小テーマ・対象内容別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第5回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第6回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第7回	資料収集・研究企画議論	全体およびグループごとの研究活動
第8回	研究構想発表会	各グループの発表・討論
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第10回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第11回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第12回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第13回	中間発表会準備	全体およびグループごとの作業
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究活動
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究活動
第18回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第19回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第22回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第23回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第24回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第28回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会やミニフィールドスタディを実施する。

## 【テキスト】

年度テーマの設定によっては、共通テキストを設定する場合がある。このほか、逐次、輪読のための共通資料を使用する予定である。

## 【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究）評価 50%。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もちとともに、自主学習を課する予定である。

## 研究会 (A)

板橋 美也

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

美術・デザインと異文化交流の歴史

### 【授業の到達目標】

19世紀・20世紀の美術・デザインをめぐる日本と欧米諸国の関わりについての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。

【】

### 【授業の概要と方法】

- 1) 指定したテキストに関する発表とディスカッションを通して、19世紀から20世紀にかけて欧米諸国と日本との間に見られた文化交流の歴史について、美術・デザインの切り口から考えます。
- (2) 発表担当者が各自の関心に基づいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。
- (3) 発表担当者が随時開催中の展覧会に行き、そこで学んだことを報告し、その内容にもとづいてゼミ生全員でディスカッションをします。
- \* (1)～(3) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。
- (4) 夏休みまたは春休みにゼミ生と教員で都内または地方の美術館に見学に行きます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第3回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第4回	3年生による展覧会報告	開催中の展覧会に関する報告とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第5回	3年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第6回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第7回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第8回	4年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第9回	4年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第10回	3年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第11回	3年生による展覧会報告	開催中の展覧会に関する報告とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第12回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第13回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第14回	予備日	予備日
第15回	春学期のまとめ	春学期で学んだことを復習・総括します
第16回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第17回	2年生による展覧会報告	開催中の展覧会に関する報告とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第18回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション

第19回	3年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第20回	3年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第21回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第22回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第23回	2年生による文献発表	指定された文献についての発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第24回	2年生による展覧会報告	開催中の展覧会に関する報告とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれに基づいたゼミ生全員によるディスカッション
第29回	予備日	予備日
第30回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

文献購読の期間は、全員それぞれの週に指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。展覧会報告については、発表者以外もできればその展覧会に行き予習しておきましょう。また、研究発表に際しては、自らの問題意識に基づいて主体的に調査を行います。

### 【テキスト】

随時指定します。

### 【参考書】

必要に応じて指示します。

### 【成績評価基準】

出席状況・研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）・レポートから総合的に判断します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業中は遠慮せずに発言しましょう。

### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース



## 研究会（A）

## 梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究を行う。（なお今年度の新規参加者は教員企画の「沖縄ゼミ合宿」への参加を必修とし、海と日本人の生活文化との関わりというテーマ設定を推奨する。）

## 【授業の到達目標】

「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の現地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかめること。また、一見「環境」というテーマと関係が薄そうな事柄も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養えること。

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）は、都会も含めて身近な地域を選んでも構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。「沖縄ゼミ合宿」参加による調査を現地訪問に替えることもできる。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、随時グループワークも行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第3回	①に関連するグループワーク（GW）	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第4回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第2回に同じ。
第5回	②に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（1）	第3回に同じ。
第6回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第2回に同じ。
第7回	③に関連するGW	第3回に同じ。
第8回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第2回に同じ。
第9回	④に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（2）	第3回に同じ。
第10回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第2回に同じ。
第11回	⑤に関連するGW	第3回に同じ。
第12回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第2回に同じ。
第13回	現地訪問の個別構想情報交換（3）	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第14回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭り） ゼミ合宿	90分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第15回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	個別の現地訪問計画書提出 研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第16回	①に関連するGW	第3回に同じ
第17回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第16回に同じ
第18回	②に関連するGW	第3回に同じ
第19回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第16回に同じ
第20回	③に関連するGW	第3回に同じ
第21回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第16回に同じ
第22回	④に関連するGW	第3回に同じ
第23回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第16回に同じ
第24回	⑤に関連するGW	第3回に同じ

第25回	⑤に関連するGW	第3回に同じ
第26回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第16回に同じ
第27回	⑥に関連するGW、4年生による自主就活セミナー	第3回に同じ
第28回	学年末論文の構想発表	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第29回	小フィールドスタディ（年末の街のイベント）	第14回に同じ。
第30回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介します。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

## 研究会 (A)

## 北川 徹哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは社会環境とエネルギーである。

## 【授業の到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【】

## 【授業の概要と方法】

社会とエネルギーとのかかわりは、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 16 回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第 1 回)
第 18 回	調査テーマの構想発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第 2 回)
第 19 回	調査と分析 (その 1)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 20 回	調査と分析 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 21 回	調査と分析 (その 3)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 22 回	中間発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第 1 回)

第 23 回	中間発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第 2 回)
第 24 回	調査と分析 (その 4)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査と分析 (その 5)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 26 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 27 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 28 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 29 回	最終発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第 1 回)、調査概要書の提出
第 30 回	最終発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第 2 回)、調査概要書の提出

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- 第 1～15 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習  
 第 16 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出  
 第 17～18、22～23 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習  
 第 19～21、24～26 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析  
 第 27～28 回：調査概要書の執筆・データ整理  
 第 29～30 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のレビュー

## 【テキスト】

授業時に指定する。

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート (調査概要書) (30 % : 論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度)、発表 (40 % : スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度)、議論 (30 % : 説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度) により評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

おおむね好評でした。

## 【その他】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 研究会 (A)

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会では、「持続可能な地域社会の創造と公共政策（まちづくり）」をテーマとして、地域環境に直接または間接的にかかわる多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。

## 【授業の到達目標】

日常の研究会における学習、共通テーマと個人テーマの調査研究、地域実践を通して、以下の点を重視した大学生としての総合的な能力を構築することが目標である。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識の獲得、知見の涵養
- ・時事問題に関する知識の獲得、知見の涵養
- ・問題発見力及び対応策の立案能力の涵養
- ・地域実践に関する企画運営能力、チームとしての協働力の涵養
- ・文章力、プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力の涵養

[]

## 【授業の概要と方法】

この研究会では、都市的地域と非都市的地域では異なる持続可能な地域社会の多様な姿、具体的課題や実践について地域再生、環境再生、文化創造などの視点から検討する。また共通テーマでは、PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を通じた調査研究、政策提言を行い報告書にまとめ、個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定して研究論文を作成する。研究会は、文献講読、グループワーク、ワークショップなどを組み合わせて進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	文献講読（3）	同上。
第 7 回	文献講読（4）	同上。
第 8 回	文献講読（5）	同上。
第 9 回	文献講読（6）	同上。
第 10 回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第 11 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 13 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 14 回	個人テーマの報告（4）	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第 18 回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 19 回	共通テーマの調査研究（2）	同上。
第 20 回	共通テーマの調査研究（3）	同上。
第 21 回	共通テーマの調査研究（4）	同上。

第 22 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの調査研究（6）	同上。
第 25 回	共通テーマの最終成果の共有	共通テーマの最終成果について、全体で確認し共有する。
第 26 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 28 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 29 回	個人テーマの報告（4）	同上。
第 30 回	個人テーマの報告（5）	同上。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

## 【テキスト】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価基準】

出席（50％）、参加姿勢（30％）、個人テーマへの取り組み（20％）による総合評価とする。演習という性格上、常時、出席して共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義はあると感じています。

## 【その他】

この研究会は、「地域環境共生コース」、「環境文化創造コース」に登録した学生を対象としている。

したがって、履修にあたって、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース



## 研究会 (A)

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造と公共政策（まちづくり）」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点から理論やケースを検討しながら地域実践を行う。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。

## 【授業の到達目標】

日常の研究会における学習、共通テーマと個人テーマの調査研究、地域実践を通して、以下の点を重視した大学生としての総合的な能力構築を構築することが目標である。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識の獲得、知見の涵養
- ・論文作成能力の涵養
- ・問題発見力及び対応策の立案能力の涵養
- ・地域実践に関する企画運営能力、チームとしての協働力の涵養
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力の涵養

[]

## 【授業の概要と方法】

この研究会の共通テーマでは、持続可能な地域社会の多面的なとらえ方をふまえながら、「ソーシャル・イノベーション」の主体やプロセスのパターンについて、基礎的な文献を読み、さらに PBL（問題発見・解決型学習）として特定地域との連携による実践・交流を企画運営し、さらに自己評価を通して理解を深めていく。研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果についてはプレゼンテーションも行う。なお地実践に関する報告書も作成する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読 (2)	同上。
第 6 回	文献講読 (3)	同上。
第 7 回	地域連携プロジェクトの企画 (1)	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 8 回	文献講読 (4)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読 (5)	同上。
第 10 回	地域連携プロジェクトの企画 (2)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画 (3)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 14 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの企画 (4)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 16 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証 (1)	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	地域連携プロジェクトの検証 (2)	同上。
第 19 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 20 回	文献講読 (2)	同上。
第 21 回	文献講読 (3)	同上。
第 22 回	文献講読 (4)	同上。
第 23 回	文献講読 (5)	同上。
第 24 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。

第 25 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 27 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (5)	同上。
第 30 回	研究会の総括	1 年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習
- ・地域連携プロジェクトの企画
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究

## 【テキスト】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価基準】

出席 (50%)、参加姿勢 (30%)、研究会修了論文への取り組み (20%) による総合評価とする。演習という性格上、常時出席し共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

## 【その他】

この研究会は、「地域環境コース」、「環境文化創造コース」に登録した学生を対象としている。

したがって、履修にあたって、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 研究会 (A)

## ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

\* Mass Media Research \*

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

## 【授業の到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively

第 14 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Method	Data Collection / Entry data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 28 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 29 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.
第 30 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

Shirley, Biagi (2009). Media/Impact: An Introduction to Mass Media Wadsworth: Thomson.

## 【成績評価基準】

1st semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.

2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

There were no particular requirements about this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【その他】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell's'ゼミ B (Human Communication) before.

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 研究会 (A)

## 武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

2013 年度は、途上国の貧困問題の解決のみならず、日本の東北における復興、さらには私たちの日々の人づきあいともかかわりがある「支援」という振る舞いについて、様々な文献や事例にあたりながら、その望ましい姿を求めて議論を行います。

## 【授業の到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようにすることを目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読 (1)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読 (2)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読 (3)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読 (4)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読 (5)	貧困における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読 (6)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 18 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 19 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	同上	同上

第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1年間を通しての議論をまとめる

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

基礎文献、与えられた課題(英文含む)は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

## 【テキスト】

開講時に指示します

## 【参考書】

ゼミ開講前に驚田清一著「語りきれないこと：危機と傷みの哲学」(2012 年) 角川 one テーマ 21 (新書)を一読しておくことが望ましい。

## 【成績評価基準】

研究会への出席および議論への貢献、最終レポートを勘案します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013 年 1 月現在、2012 年度のアンケート集計結果は出ていないが、ゼミ生からの意見として個々のディスカッション課題に費やすグループディスカッションの時間およびグループ発表後のディスカッション時間の増加を求める意見、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

## 【その他】

今年度は試行的に水曜日 1 限をサブゼミの時間と設定します(通年/木ゼミと共通)。具体的な内容や参加が望ましい者(必須ではありません)については、その都度連絡します。

## 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース

## 研究会 (A)

田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

ローカルな環境問題の社会学

### 【授業の到達目標】

参加者それぞれが個別の課題を設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。2・3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は研究会終了論文の作成が最終目的となる。レポート執筆、個人研究報告などのしかたについてもきちんと身につけることもめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

はじめに文献を読み、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。春学期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第2回	文献発表①	担当者による文献発表と討論を行う。
第3回	文献発表②	担当者による文献発表と討論を行う。
第4回	文献発表③	担当者による文献発表と討論を行う。
第5回	文献発表④	担当者による文献発表と討論を行う。
第6回	文献発表⑤	担当者による文献発表と討論を行う。
第7回	文献発表⑥	担当者による文献発表と討論を行う。 個人テーマ記入用紙配布。
第8回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。
第9回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。
第10回	文献発表⑨	担当者による文献発表と討論を行う。 個人テーマ記入用紙の提出締め切り。
第11回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第12回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第13回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第14回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第15回	個人研究構想発表⑤	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。春学期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第16回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第17回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第18回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第19回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第20回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第21回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第22回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第23回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第24回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第25回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第26回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第27回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第28回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。
第29回	研究会終了論文発表①	4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。
第30回	研究会終了論文発表②	4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。  
社会調査（インタビュー・調査票調査）を行う場合は個別に指導する。

### 【テキスト】

関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

西城戸・船戸編「環境と社会」人文書院

### 【参考書】

小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房  
宮内泰介「自分で調べる技術」岩波書店  
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

### 【成績評価基準】

出席をもっとも重視する。  
発表、ディスカッションへの参加度、  
レポートはもちろん評価対象である。  
総合評価で行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

テーマ選択のための情報提供・文献紹介を充実する。

### 【その他】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース

## 研究会 (A)

## 辻 英史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「市民社会」を生きる一歴史・環境・文化  
いま、「市民社会」が関心を集めている。地域社会、コミュニティー、共同体、住民自治、さまざまな名称で呼ばれているが、いずれも人びとが自主的に集まり、議論を通じて自分たちの手で課題を解決していこうとする姿勢を指している。

このゼミでは、日本を含めた世界各国の「市民社会」をめぐる諸問題を扱う。それぞれの「市民社会」はどのような歴史があったのか、どのような問題を抱えているのか、国家、自治体、企業、NPO などとの関係はどうなっているのか。歴史学を中心にさまざまな角度から探っていきたい。

## 【授業の到達目標】

2013 年度は「過去の記憶」をテーマとして集中的に取り組む予定である。市民社会に限らず、過去のある時代について共通の認識やイメージが社会において重要な意味を持つことがある。そうした「過去の記憶」は、その社会のアイデンティティの一部となり、政治上の意志決定や文化活動に反映される。これまで日本人は過去の時代について、どのようなイメージを持ってきたのか。そのことは日本における市民社会の発展にどのように影響を与えてきたのだろうか。

[]

## 【授業の概要と方法】

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究報告のためにサブゼミを開講する（隔週で週 1 回を予定）。

また、参加者の関心に応じて遠足をおこなう（毎学期 1 回を予定）。同志社大学経済学部川越ゼミ、富山大学経済学部久保ゼミと合同でゼミ合宿を開催する（9 月中旬予定）。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第 2 回	図書館ガイダンス	大学図書館で専門ゼミガイダンスを受講する。
第 3 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする基礎的なテキストを購読する。
第 4 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする基礎的なテキストを購読する。
第 5 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする基礎的なテキストを購読する。
第 6 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする基礎的なテキストを購読する。
第 7 回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 8 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 9 回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第 10 回	遠足	目的地は参加者の関心にあわせて決定する。
第 11 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 12 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 13 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 14 回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 15 回	まとめ (全)	全体討論およびゼミ合宿準備
第 16 回	オリエンテーション	ゼミ合宿のまとめ
第 17 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 18 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をおこなう。
第 19 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする発展的なテキストを購読する。
第 20 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする発展的なテキストを購読する。
第 21 回	文献購読	「過去の記憶」をテーマとする発展的なテキストを購読する。
第 22 回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 23 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。

第 24 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 25 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 26 回	遠足	目的地は参加者の関心にあわせて決定する。
第 27 回	研究報告	3 年生対象の研究進捗状況報告
第 28 回	卒論最終報告	4 年生対象の卒論完成報告
第 29 回	卒論最終報告	4 年生対象の卒論完成報告
第 30 回	まとめ	全体討論

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献購読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

## 【テキスト】

植村邦彦、2010 年、『市民社会とは何か』、平凡社新書。  
小熊英二、2012 年、『社会を変えるには』、講談社現代新書。  
小熊英二ほか、2012 年、『平成史』、河出書房新社。  
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

## 【参考書】

小島・西城戸編著、2012 年、『フィールドから考える地域環境』、ミネルヴァ書房。  
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

## 【成績評価基準】

議論への参加（できる限り出席すること）、研究報告、レポート（各学期末）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**研究会 (A)**

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2013 年度は、環境関連の日本法と環境関連の契約（英文）を学びます。

**【授業の到達目標】**

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法学の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

[]

**【授業の概要と方法】**

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境法に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境法に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境法に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境法に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境法に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境法に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境法に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境法に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境法に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境法に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境法に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	環境法に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	英文の環境関連契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	英文の環境関連契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	英文の環境関連契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	英文の環境関連契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	英文の環境関連契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	英文の環境関連契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	英文の環境関連契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	英文の環境関連契約に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	英文の環境関連契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	英文の環境関連契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	英文の環境関連契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	英文の環境関連契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	英文の環境関連契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	英文の環境関連契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

**【テキスト】**

環境法のテキストと、英文の環境関連契約を開講時に指定します。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価基準】**

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることができません。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、プロジェクター。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

**研究会 (A)**

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2013 年度は、環境関連の日本法と環境関連の契約（英文）を学びます。

**【授業の到達目標】**

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法学の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

[]

**【授業の概要と方法】**

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境法に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境法に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境法に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境法に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境法に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境法に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境法に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境法に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境法に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境法に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境法に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	環境法に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	英文の環境関連契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	英文の環境関連契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	英文の環境関連契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	英文の環境関連契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	英文の環境関連契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	英文の環境関連契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	英文の環境関連契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	英文の環境関連契約に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	英文の環境関連契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	英文の環境関連契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	英文の環境関連契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	英文の環境関連契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	英文の環境関連契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	英文の環境関連契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

**【テキスト】**

環境法のテキストと、英文の環境関連契約を開講時に指定します。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価基準】**

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることができません。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、プロジェクター。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・国際環境協力コース



## 研究会 (A)

## 金子 良事

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

職業生活をとらして労働環境を考える。

## 【授業の到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとらして、私たちが卒業後就職してからかかる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

[]

## 【授業の概要と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといわれてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいが等についてみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係するのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。

第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとらして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どういう意味においてそうなのかについて考える。
第15回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、簡単にコメントをする。
第16回	春学期学習の復習1(日本の雇用とは)	春学期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	春学期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記と同じ
第20回	学生による研究発表3	上記と同じ
第21回	学生による研究発表4	上記と同じ
第22回	学生による研究発表5	上記と同じ
第23回	学生による研究発表6	上記と同じ
第24回	学生による研究発表7	上記と同じ
第25回	学生による研究発表8	上記と同じ
第26回	学生による研究発表9	上記と同じ
第27回	学生による研究発表10	上記と同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回と同じ
第30回	学生による研究発表12	上記と同じ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、秋学期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

## 【テキスト】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

## 【成績評価基準】

成績評価は、1.出席、2.授業での発表、3.発表のために作成したレジュメの内容、4.授業内での議論への参加、5.最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。」

## 【授業の到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会学的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめるといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 9 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 15 回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 16 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

第 17 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 20 回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 21 回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 22 回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 27 回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 28 回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 29 回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 30 回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献講読、調査、論文執筆等）

## 【テキスト】

福永真弓, 2010, 『多声性の環境倫理—サケが生まれ帰る流域の正統性のゆくえ』, ハーベスト社  
内藤潔, 2012, 『建築する人々のエスノグラフィ—ある高齢者施設の建築における共同と葛藤の記録』, ハーベスト社  
黒田由彦, 2013, 『ローカリティの社会学』, ハーベスト社

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2012 年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にレポートの提出を求める。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特に改善する点はない。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

<人>と<環境>との関わり方を見つめ直し、その関係性の再構築を目指すために、市民による実践（市民活動・NPO・ボランティア）に着目した調査研究を実施する。

## 【授業の到達目標】

首都圏近郊（東京都日野市、町田市、埼玉県さいたま市）の都市農業および多摩川流域の市民活動を対象としたフィールド調査により、実証的な研究の手法を学びながら、地域社会における<人>と<環境>のかかわり、その再編の可能性といった実践的な課題解決を探る。

【】

## 【授業の概要と方法】

本授業は 3 つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と閉講しながら、都市農業、河川流域の市民活動の現地視察等を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションの実施。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献講読 (1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献講読 (2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献講読 (3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献講読 (4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献講読 (5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 20 回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査 (9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査 (10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 29 回	グループの発表・報告書作成 (3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 30 回	グループの発表・報告書作成 (4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

関連文献の講読、フィールドワーク

## 【テキスト】

碓井崧、松宮朝編著、2013、『食と農のコミュニティ論』創元社  
鳥越皓之、2012、『水と日本人』岩波書店

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価基準】

出席、参加姿勢（平常点）を重視するが、プレゼンテーション、論文による総合評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース

## 研究会 (A)

加藤 貴、根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：江戸の都市環境史を考える

江戸の都市環境史について歴史史料の読解、古文書の解説、グループ学習、史跡探索、各自の研究発表を通じて、教員と学生が一体となって、環境史研究を進めていきます。

## 【授業の到達目標】

日本歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・史料読解・課題解決の能力を養います。このなかで、環境史研究のテーマを自ら見つけ、4年時に研究会修了論文を提出することを目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は、調査テーマに関連した歴史史料・古文書の読解、フィールドの探索、各自研究のプレゼンテーション、レポート・論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学習する。
第 2 回	史料読解 (1)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解 (2)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解 (3)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	史料読解 (4)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 6 回	古文書解説 (1)	古文書を解説・分析し、討論を行う。
第 7 回	史料読解のグループ学習 (1)	課題として指定した史料を読解・分析し、グループ別に発表する。
第 8 回	史料読解のグループ学習 (2)	課題として指定した史料を読解・分析し、グループ別に発表する。
第 9 回	史跡探索 (1)	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 10 回	特定テーマ中間発表 (1)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表 (2)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表 (3)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表 (4)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表 (5)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	特定テーマ中間発表 (6)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 17 回	史料読解 (5)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解 (6)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解 (7)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	史料読解 (8)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 21 回	史料読解 (9)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。

第 22 回	古文書解説 (2)	古文書を解説・分析し、討論を行う。
第 23 回	史料読解のグループ学習 (3)	課題として指定した史料を読解し、グループ別に発表する。
第 24 回	史料読解のグループ学習 (4)	課題として指定した史料を読解し、グループ別に発表する。
第 25 回	特定テーマ研究発表 (1)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表 (2)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表 (3)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表 (4)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 29 回	特定テーマ研究発表 (5)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 30 回	特定テーマ研究発表 (6)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

歴史史料・古文書の読解、研究テーマの文献探索・講読。

## 【テキスト】

必要に応じてプリントを配付します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況、授業時の積極的姿勢を重視するが、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行います。

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

**研究会（A）**

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

**【授業の到達目標】**

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

[]

**【授業の概要と方法】**

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 卒論構想の発表	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第2回	CSRに関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第3回	CSRに関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第4回	CSRに関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第5回	CSRに関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第6回	CSRに関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第7回	CSRに関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議
第8回	経営分析に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第9回	経営分析に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第10回	経営分析に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第11回	経営分析に関する文献講読④ ストックリーグ活動	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第12回	経営分析に関する文献講読⑤ ストックリーグ活動	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第13回	経営分析に関する文献講読⑥ ストックリーグ活動	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第14回	ゲストスピーカーによる講話	詳細はガイダンス時に提示
第15回	卒業論文の概要発表 ストックリーグ活動	4年生による卒論報告 ファンドテーマの構想発表
第16回	卒業論文報告 ストックリーグ活動	卒業論文の進捗状況報告 ファンドテーマの発表
第17回	ストックリーグ活動	チームの活動報告
第18回	ストックリーグ活動	ユニバースの確定
第19回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第20回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第21回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第22回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第23回	ストックリーグ活動	ポートフォリオの完成 バーチャルトレードの開始
第24回	ストックリーグ活動	レポート作成
第25回	卒業論文中間発表	卒業論文の予備報告
第26回	ストックリーグ活動	レポート作成
第27回	ストックリーグ活動	レポート作成
第28回	ストックリーグ活動	レポート作成
第29回	ストックリーグレポート発表会	レポートの最終発表
第30回	卒業論文発表会	卒業論文の最終発表

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

**【テキスト】**

研究会の開講前に掲示します。

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価基準】**

〔共通評価〕 平常点（ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度）

〔個別評価〕 4年生：卒業論文

2・3年生：ストックリーグのレポート

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 研究会 (A)

### 日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

中国語文献講読

#### 【授業の到達目標】

・中国の新聞、雑誌の一般的な記事なら、辞書を引きながら独力で読むことの出来るレベルへの到達を目指す。

・中国に関するテーマで論文を執筆する。

[]

#### 【授業の概要と方法】

・中国語の基礎を習得した学生を対象に、中国語の文献を読みこなす力を高める訓練をする。

・最初の時間に中国語の文献を読むために必要な工具書、中国語書籍を扱う書店等について紹介する。以後は毎回テキストを輪読してゆく。研究会終了論文執筆予定者が各自の研究テーマについて発表し、意見交換をする時間も設ける。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の文献を読むために	・工具書、中国語書籍を扱う書店の紹介 ・テキストに関する相談
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 26 回	文献講読	テキスト輪読
第 27 回	文献講読	テキスト輪読
第 28 回	文献講読	テキスト輪読
第 29 回	文献講読	テキスト輪読
第 30 回	文献講読	テキスト輪読

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・辞書を引き、次回読む文章を下読みしておく。同時にすらすら音読できるまで繰り返し発音練習を行なう。

・各自研究テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。

・論文を執筆する。

#### 【テキスト】

プリントを配布する。

#### 【参考書】

『中日辞典』（小学館）レベルの中国語辞書。

#### 【成績評価基準】

平常点（出席状況、発表内容）

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

#### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・国際環境協力コース

## 研究会 (A)

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考える。

## 【授業の到達目標】

地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

春学期は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行なった後、参加者各自に舞台鑑賞レポートの作成と発表を求める。秋学期は、文化政策の基本書を輪読しつつ、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義・討論 (能・狂言)	能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義する。映像資料について意見交換する。
第 2 回	講義・討論 (歌舞伎 1)	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」の特徴を講義する。映像資料について意見交換する。
第 3 回	講義・討論 (歌舞伎 2)	「世話物」・「所作物」について講義する。映像資料について意見交換する。
第 4 回	講義・討論 (文楽)	文楽と歌舞伎を対照的に考察する。映像資料について意見交換する。
第 5 回	最新舞台情報・舞台鑑賞レポート作成指導	舞台情報の探し方を指導。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。
第 6 回	講義・討論 (現代演劇 1)	翻訳劇の系譜について講義する。映像資料について意見交換する。
第 7 回	講義・討論 (現代演劇 2)	現代日本の劇作家・演出家について講義する。映像資料について意見交換する。
第 8 回	講義・討論 (前衛)	「アングラ」・「舞踏」につて講義する。映像資料について意見交換する。
第 9 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (1)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 10 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (2)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 11 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (3)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 12 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (4)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 13 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (5)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 14 回	秋学期文献購読のオリエンテーション (1)	『入門文化政策』講読への導入講義。
第 15 回	秋学期文献購読のオリエンテーション (2)	『シンポジウム・劇場芸術の地平』への導入講義。
第 16 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 1)	1. 文化政策の観点からの京都観光 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント (富山の事例)
第 17 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 2)	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり (横浜の事例) 2. 中山間地域の文化政策 3. 人材育成と地域ガバナンス
第 18 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 3)	1. ライフスタイルのための文化政策 2. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント 3. 活動の現場からみた公と民の協働論
第 19 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』 4)	1. 市民文化の創造環境 2. 公共施設の運営と指定管理者制度 3. 文化創造拠点としての宗教空間
第 20 回	地域文化レポート作成指導	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。

第 21 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 1)	1. 日本の現代演劇の問題点 2. 「日本的」であることとその超越
第 22 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 2)	1. グローバリゼーションと舞台芸術の関わり 2. 20 世紀演劇の表現と教育・批評との関わり
第 23 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 3)	1. 日本の芸術教育 2. 公共文化施設の創造活動 (公共劇場と美術館の現状)
第 24 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』 4)	1. 公共ホールと指定管理者制度 2. 地域と文化創造の未来
第 25 回	地域文化レポート発表・討論 (1)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 26 回	地域文化レポート発表・討論 (2)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 27 回	地域文化レポート発表・討論 (3)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 28 回	地域文化レポート発表・討論 (4)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 29 回	地域文化レポート発表・討論 (5)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 30 回	総括 (ラウンドテーブル)	「地域」と「文化」の関わりについて共に考える。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

文献講読の予習 (発表者はレジュメの準備) 舞台鑑賞とフィールド調査 (レポート作成)

## 【テキスト】

井口真 (2008) 『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房  
舞台芸術財団演劇人会議 (2005) 『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議  
ほか。

## 【参考書】

日本放送協会 (2010) 『NHK 日本の伝統芸能 (2010 年度版)』日本放送出版協会  
SPAC (1999) 『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC  
平野井 (2006) 「小鹿野歌舞伎の現在」『法政大学人間環境論集』第 6 巻第 2 号  
平野井 (2007) 「SPAC の地域性と国際性」『法政大学人間環境論集』第 7 巻第 2 号  
ほか。

## 【成績評価基準】

出席・参加態度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート (舞台鑑賞+地域文化のケーススタディ) 分とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

好評である。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室使用

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

**研究会 (A)**

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

幅広い図書を春・秋学期と夏休みで10冊以上読みます。図書の購入費は自己負担です。

**【授業の到達目標】**

読書力と作文力を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

原則として、以下のローテーションで、2週間に1冊を読みます。

- ①第1週金曜日までに読了する。ゼミでは内容に関する質疑応答を行う。
- ②800字～1000字の書評を作成し、第2週水曜日正午までに授業支援システムにアップする。
- ③第2週金曜日のゼミで書評に関する講評、議論等を行う

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方についての解説
第2回	質疑応答	『社畜のすすめ』
第3回	書評	『社畜のすすめ』
第4回	質疑応答	『社会調査のウソ』
第5回	書評	『社会調査のウソ』
第6回	質疑応答	『安全。でも安心できない』
第7回	書評	『安全。でも安心できない』
第8回	質疑応答	『正しいリスクの伝え方』
第9回	書評	『正しいリスクの伝え方』
第10回	質疑応答	『高校生のための経済学入門』
第11回	書評	『高校生のための経済学入門』
第12回	質疑応答	『生命観を問い直す』
第13回	書評	『生命観を問い直す』
第14回	卒業論文	中間発表会
第15回	課題図書	夏休み課題図書の提示
第16回	書評	夏休み課題図書
第17回	質疑応答	『キノコの教え』
第18回	書評	『キノコの教え』
第19回	質疑応答	『地球のからくりにも挑む』
第20回	書評	『地球のからくりにも挑む』
第21回	質疑応答	『「ゼロリスク社会」の罨』
第22回	書評	『「ゼロリスク社会」の罨』
第23回	質疑応答	『日本農業への正しい絶望法』
第24回	書評	『日本農業への正しい絶望法』
第25回	質疑応答	『就活の前に』
第26回	書評	『就活の前に』
第27回	書評	『資源大国アフリカ』
第28回	書評	『資源大国アフリカ』
第29回	卒業論文	卒業論文発表会
第30回	総合討論	全体についての討論

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

指定された図書を読んで、締め切り時刻までに書評をアップしてください。

**【テキスト】**

順次指定します。上記授業計画に示した図書は2012年度の実績です。2013年度はこれとは異なる図書を指定します。

**【参考書】**

使用しません。

**【成績評価基準】**

書評の提出状況と内容を中心に評価します。

4年生は卒業論文か書評提出のいずれかで単位が取得できます。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

指定図書の候補の選定にあたっては学生からのリクエストも考慮します。また、適宜、卒業生や社会人のお話を伺う機械を設けます。

**【その他】**

2013年度は4年生はA研究会、3年生はB研究会の混成クラスになります。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。



## 研究会 (A)

### 松本 倫明

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

#### 【授業の到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。

プレゼンの方法と論文の書き方も学びます。

[]

#### 【授業の概要と方法】

「環境速報」(通年) …環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。

「文献輪講」(春学期) …地球温暖化に関する文献を輪講します。

「グループワーク」(断続的) …いくつかのテーマにもとづき、グループワークを行います。

「ピアレビュー」…個人の成果物についてピアレビューを行います。

「研究報告」(秋学期) …個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。

「報告書」(年度末) …1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は卒論を提出します。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 14 回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 15 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 16 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 17 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 28 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 29 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 30 回	まとめ	1年間のまとめをします。

#### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

環境速報・文献輪講・研究報告においてレポートを担当する学生は事前に準備が必要です。

#### 【テキスト】

授業中に指示をします。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価基準】

出席日数、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度よりもグループワークの比重を若干増加させます。スケジュールの都合上、昨年度はピアレビューを行いませんでしたが、好評につき今年度はピアレビューを行います。

#### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

**研究会 (A)****宮川 路子**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

現代社会を健康に生きていくために  
 ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

**【授業の到達目標】**

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

**【】****【授業の概要と方法】**

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。

**【】****【】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上 (14)	同上 (14)
第 19 回	同上 (15)	同上 (15)
第 20 回	同上 (16)	同上 (16)
第 21 回	同上 (17)	同上 (17)
第 22 回	同上 (18)	同上 (18)
第 23 回	同上 (19)	同上 (19)
第 24 回	同上 (20)	同上 (20)
第 25 回	同上 (21)	同上 (21)
第 26 回	同上 (22)	同上 (22)
第 27 回	同上 (23)	同上 (23)
第 28 回	同上 (24)	同上 (24)
第 29 回	同上 (25)	同上 (25)
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

**【テキスト】**

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

**【関連の深いコース】**

環境サイエンスコース

**研究会 (A)****宮川 路子**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

現代社会を健康に生きていくために  
 ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

**【授業の到達目標】**

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

**【】****【授業の概要と方法】**

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。

**【】****【】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上 (14)	同上 (14)
第 19 回	同上 (15)	同上 (15)
第 20 回	同上 (16)	同上 (16)
第 21 回	同上 (17)	同上 (17)
第 22 回	同上 (18)	同上 (18)
第 23 回	同上 (19)	同上 (19)
第 24 回	同上 (20)	同上 (20)
第 25 回	同上 (21)	同上 (21)
第 26 回	同上 (22)	同上 (22)
第 27 回	同上 (23)	同上 (23)
第 28 回	同上 (24)	同上 (24)
第 29 回	同上 (25)	同上 (25)
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

**【テキスト】**

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

**【関連の深いコース】**

環境サイエンスコース

## 研究会 (A)

安岡 宏和

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

伊豆諸島の自然・文化・観光

## 【授業の到達目標】

フィールドワークにもとづく地域研究をととして、自身の具体的な経験のなかから問題意識を練りあげ、じっさいに自分が取り組むことのできる問いを明確にし、それに解答をあたえる方法を身につける。

[]

## 【授業の概要と方法】

授業時間外にフィールドワークをおこなうことが必須である。授業中は、春学期はフィールドワークの構想、秋学期は調査レポートの進行に関するプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。随時、サブゼミをおこなうので、都合のゆるすかぎり参加すること（金曜日4限、5限に部屋を確保する予定）。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	年間の計画を調整する。
第 2 回	プレゼンテーションとディスカッション (1)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 3 回	プレゼンテーションとディスカッション (2)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 4 回	プレゼンテーションとディスカッション (3)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 5 回	プレゼンテーションとディスカッション (4)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 6 回	プレゼンテーションとディスカッション (5)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 7 回	プレゼンテーションとディスカッション (6)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 8 回	プレゼンテーションとディスカッション (7)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 9 回	プレゼンテーションとディスカッション (8)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 10 回	プレゼンテーションとディスカッション (9)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 11 回	プレゼンテーションとディスカッション (10)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 12 回	プレゼンテーションとディスカッション (11)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 13 回	プレゼンテーションとディスカッション (12)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 14 回	プレゼンテーションとディスカッション (13)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 15 回	プレゼンテーションとディスカッション (14)	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第 16 回	プレゼンテーションとディスカッション (15)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 17 回	プレゼンテーションとディスカッション (16)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 18 回	プレゼンテーションとディスカッション (17)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 19 回	プレゼンテーションとディスカッション (18)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 20 回	プレゼンテーションとディスカッション (19)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。

第 21 回	プレゼンテーションとディスカッション (20)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 22 回	プレゼンテーションとディスカッション (21)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 23 回	プレゼンテーションとディスカッション (22)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 24 回	プレゼンテーションとディスカッション (23)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 25 回	プレゼンテーションとディスカッション (24)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 26 回	プレゼンテーションとディスカッション (25)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 27 回	プレゼンテーションとディスカッション (26)	年度末報告 (1)
第 28 回	プレゼンテーションとディスカッション (27)	年度末報告 (2)
第 29 回	プレゼンテーションとディスカッション (28)	年度末報告 (3)
第 30 回	プレゼンテーションとディスカッション (29)	年度末報告 (4)

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

フィールドワーク、サブゼミへの参加、プレゼンテーションと報告書の準備。

## 【テキスト】

資料を配付する。

## 【参考書】

授業中に提示する。

## 【成績評価基準】

毎回のディスカッションへの貢献 (50 点)、年度末報告 (50 点)。ただしフィールドワークは評価の前提。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度担当なし。(2012 年度は代講教員)

## 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 研究会 (A)

## 渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える  
 「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

## 【授業の到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標のひとつです。

[]

## 【授業の概要と方法】

1年間の授業内容はおおむね次の通りです。＜春学期＞まず2名ずつのチーム作り調査や討論を進め報告します。その後、チームを発展させて4～5名ずつに分かれてグループ研究を行います。その研究結果を発表し合い、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。これは参加者間のディスカッションがよりスムーズにいくように考えた段階的方法です。また学外の施設見学や環境展示会などに参加し、そこでの調査内容を報告し検討します。これにより企業や団体・組織などの環境問題の捉え方や取組の最前線を調査します。＜秋学期＞個人の研究テーマについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。具体事例についてのメリット・デメリット、経済性、環境貢献性などについて多角的に考察を行います。4年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行います
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第3回	小チームによる検討	2名ずつに分かれてテーマを決めて話し合いをし、検討内容を報告します
第4回	小チームによる検討	2名ずつに分かれてテーマを決めて話し合いをし、検討内容を報告します
第5回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第6回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第7回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第8回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第9回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第10回	学外視察などへの参加と事後検討	実施された視察内容にもとづきグループごとに論点整理をして報告します
第11回	学外視察などへの参加と事後検討	実施された視察内容にもとづきグループごとに論点整理をして報告します
第12回	学外視察などへの参加と事後検討	実施された視察内容にもとづきグループごとに論点整理をして報告します
第13回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第14回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第15回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第16回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第17回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第18回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第19回	卒論の中間報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の中間報告と質疑応答を行います
第20回	卒論の中間報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の中間報告と質疑応答を行います

第21回	卒論の中間報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の中間報告と質疑応答を行います
第22回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第23回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第24回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第25回	個人研究の報告と検討(2,3年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第26回	総合討論	それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います
第27回	総合討論	それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います
第28回	卒論の最終報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の最終報告と質疑応答を行います
第29回	卒論の最終報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の最終報告と質疑応答を行います
第30回	卒論の最終報告(4年生)	研究会修了論文(卒論)の最終報告と質疑応答を行います

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

グループ研究テーマあるいは個人研究テーマを進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

## 【テキスト】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況、報告内容、討論参加の積極性、レポート内容などをもとに総合的に評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

**研究会 (A)**

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、科学的な視点、国際的な視点、地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会をとおして、多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、卒業論文を目指します。

**【授業の到達目標】**

個々の学生において以下の 4 点を目標とします。

- ①自然環境の保全に関して幅広い知識と、柔軟な考え方を身に付けること
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力を身に付けること
- ③他者との議論をとおして、異なった観点からの意見を受け入れ合意を形成する能力を身に付けること
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的に論文にまとめる能力を身に付けること

[]

**【授業の概要と方法】**

設定した課題について、グループワーク、フィールド学習、個人学習をとおして、議論・調査・考察を行い、成果を取りまとめることを基本とします。これと並行して、各自の自然環境に対する問題意識に沿って自主的に課題を設定し、情報収集と整理分析、事例研究などの調査活動を行い、研究考察を経て成果として取りまとめ、最終的な卒業論文作成につなげます。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 3 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 4 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 5 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 6 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 7 回	グループ研究	中間まとめ
第 8 回	中間発表	研究成果の発表
第 9 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 10 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 11 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 12 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 13 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 14 回	グループ研究	グループ成果まとめ
第 15 回	春学期成果発表	グループ研究の成果発表
第 16 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 17 回	個人研究	研究計画作成と発表
第 18 回	個人研究	情報収集と発表
第 19 回	個人研究	情報収集と発表
第 20 回	個人研究	情報整理と発表
第 21 回	個人研究	調査分析と発表
第 22 回	個人研究	調査分析と発表
第 23 回	中間発表	研究成果の発表
第 24 回	個人研究	調査分析と発表
第 25 回	個人研究	評価・考察と発表
第 26 回	個人研究	評価・考察と発表
第 27 回	個人研究	成果まとめ
第 28 回	個人研究	成果まとめ
第 29 回	年間成果発表	個人研究の成果発表
第 30 回	年間成果発表	個人研究の成果発表

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

各自または共通の課題に関して、文献資料の収集や資料作成、必要なフィールドワークなど、成果に向けた調査研究を着実に行ってください。

**【テキスト】**

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席点、平常点（議論への参加、学習意欲、自主的な取り組みなど）、成果の内容等を総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性を重視しこれを促すよう学習していきます。

**【その他】**

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ（春学期）及びⅡ（秋学期）」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「自然環境科学の基礎（生態学）」及び「自然環境論Ⅳ」を併せて履修することを推奨します。

**【関連の深いコース】**

環境サイエンスコース・国際環境協力コース



## 研究会（B）

## 梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究をおこなう。（なお今年度の新規参加者には「海と日本人の生活文化との関わり」というテーマ設定を推奨し、フィールド調査の具体的な機会として教員企画の沖縄ゼミ合宿への参加を奨励する。）

## 【授業の到達目標】

「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の実地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかめること。また、一見「環境」というテーマと関係が薄そうな事例も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養えること。

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）は、都会も含めて身近な地域を選んでも構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。沖縄ゼミ合宿参加者は、これを現地訪問に替えることもできる。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、重要なキーワードをめぐって随時グループワークも行う。例年夏に、親睦をはかるゼミ合宿（学生企画）が行われている。なお金曜5限 A ゼミとは、卒業時に修了論文を書く資格の有無以外は、レベル・内容に差はない。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 3 回	①に関連するグループワーク（GW）	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第 4 回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第 2 回に同じ。
第 5 回	②に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換（1）	第 3 回に同じ。
第 6 回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第 2 回に同じ。
第 7 回	③に関連する GW	第 3 回に同じ。
第 8 回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第 2 回に同じ。
第 9 回	④に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換（2）	第 3 回に同じ。
第 10 回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第 2 回に同じ。
第 11 回	⑤に関連する GW	第 3 回に同じ。
第 12 回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第 2 回に同じ。
第 13 回	現地訪問の個別構想情報交換（3）	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第 14 回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭事）	90 分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第 15 回	ゼミ合宿	個別の現地訪問計画書提出
通年	テーマ	内容
第 16 回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 17 回	①に関連する GW	第 3 回に同じ
第 18 回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第 16 回に同じ
第 19 回	②に関連する GW	第 3 回に同じ
第 20 回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第 16 回に同じ

第 21 回	③に関連する GW	第 3 回に同じ
第 22 回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第 16 回に同じ
第 23 回	④に関連する GW	第 3 回に同じ
第 24 回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第 16 回に同じ
第 25 回	⑤に関連する GW	第 3 回に同じ
第 26 回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第 16 回に同じ
第 27 回	⑥に関連する GW、4 年生による自主就活セミナー	第 3 回に同じ
第 28 回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第 29 回	小フィールドスタディ (年末の街のイベント)	第 14 回に同じ。
第 30 回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介します。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース



## 研究会（B）

### 北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは気象を基礎から学ぶことである。

#### 【授業の到達目標】

1. 人の生活・社会と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしきみについて説明できる。
3. 気象に表れる環境問題について説明できる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的に付き合っゆく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とも密接な関係がある。本研究会では、これらの気象と社会や経済との関係を念頭に、気象を基礎からゆっくと勉強する。テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第17回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第27回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第28回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第29回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第30回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

第1～30回：輪読箇所精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

#### 【テキスト】

授業時に指定する。

#### 【参考書】

適宜、紹介する。

#### 【成績評価基準】

発表（50％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）、議論（50％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）により評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

おおむね好評でした。

#### 【その他】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん、気象予報士に興味がある学生さん、一緒に勉強してゆきましょう。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 研究会 (B)

## ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

\* Human Communication \*

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

## 【授業の到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

第 15 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 16 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 17 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 18 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 19 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 20 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 21 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 22 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 23 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 24 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 25 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 26 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 29 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 30 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2009). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.

## 【成績評価基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

There were no particular requirements about this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 研究会 (B)

### 後藤 彌彦

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位  
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3  
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

テーマ 行政、国会の仕組み  
行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。

#### 【授業の到達目標】

現代国家に生きるものとして行政に関わる基本的な知識とその応用を習得する。

[]

#### 【授業の概要と方法】

行政府（内閣等）と立法府（国会）の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。  
したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材（テキスト、プリント）による講義と学生による事例発表、行政法の個別テーマに関するレポート発表により進める。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	行政①内閣
第 3 回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第 4 回	教材による講義	行政③議院内閣制
第 5 回	教材による講義	行政④行政組織
第 6 回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第 7 回	事例発表	学生による発表と討論
第 8 回	事例発表	学生による発表と討論
第 9 回	事例発表	学生による発表と討論
第 10 回	事例発表	学生による発表と討論
第 11 回	事例発表	学生による発表と討論
第 12 回	事例発表	学生による発表と討論
第 13 回	事例発表	学生による発表と討論
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	国会①選挙
第 17 回	教材による講義	国会②任務
第 18 回	教材による講義	国会③政策立案
第 19 回	教材による講義	国会④サポーター
第 20 回	教材による講義	国会⑤政党
第 21 回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第 22 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教材を予習する  
事例、レポート発表のために、準備する

#### 【テキスト】

まず、法学ナビゲーション（有斐閣アルマ）を用いる

#### 【参考書】

その都度 紹介する

#### 【成績評価基準】

発表、討議の状況により評価する

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

初年時は、人数に応じて、グループによる事例研究を行う。

#### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・エコ経済経営コース

## 研究会 (B)

### 関口 和男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位  
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 6  
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

仏教とは何か、という素朴な疑問が発せられるほど、私たち日本人は仏教について無知であり、その結果、巷に溢れる多くのいい加減な解説書に振り回される結果となっている。そこで、当研究会では、インド初期仏教の最古層に属する経典をじっくり読んで、本来の仏教の教えとは何かをみにつけるようにする。

#### 【授業の到達目標】

仏教の源泉について、しっかり理解できるようになり、そこから、日本仏教などへの正しいアプローチの仕方を習得する。

[]

#### 【授業の概要と方法】

毎回の担当者を決めて、じっくり読み、考え、質疑応答していく。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前年度までの概説 1	質疑応答
第 2 回	前年度までの概説 2	質疑応答
第 3 回	前年度に引き続き、文献講読	質疑応答
第 4 回	文献講読	質疑応答
第 5 回	文献講読	質疑応答
第 6 回	文献講読	質疑応答
第 7 回	文献講読	質疑応答
第 8 回	文献講読	質疑応答
第 9 回	文献講読	質疑応答
第 10 回	文献講読	質疑応答
第 11 回	文献講読	質疑応答
第 12 回	文献講読	質疑応答
第 13 回	文献講読	質疑応答
第 14 回	文献講読	質疑応答
第 15 回	文献講読	質疑応答
	夏休み中の学習の指示	
第 16 回	文献講読	質疑応答
第 17 回	文献講読	質疑応答
第 18 回	文献講読	質疑応答
第 19 回	文献講読	質疑応答
第 20 回	文献講読	質疑応答
第 21 回	文献講読	質疑応答
第 22 回	文献講読	質疑応答
第 23 回	文献講読	質疑応答
第 24 回	文献講読	質疑応答
第 25 回	文献講読	質疑応答
第 26 回	文献講読	質疑応答
第 27 回	文献講読	質疑応答
第 28 回	文献講読	質疑応答
第 29 回	文献講読	質疑応答
第 30 回	文献講読	質疑応答

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

世界史・日本史の並行学習。

#### 【テキスト】

岩波文庫『ブッダのころろスッタニパーター』中村元訳  
岩波文庫『感興のことは』中村元訳

#### 【参考書】

適宜指示する

#### 【成績評価基準】

平常点

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

活発な討議を期待する。

#### 【関連の深いコース】

環境文化創造コース

## 研究会（B）

## 武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

2013 年度は、途上国の開発と環境に大きくかかわると同時に、先進国の私たちの生活とのかかわりも大きい、「食糧」をテーマに持続可能な社会のあり方について議論を深めます。

## 【授業の到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようにすることを目標とします。

I]

## 【授業の概要と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読 b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

I]

I]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	貧困における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 18 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 19 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション

第 25 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	同上	同上
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 9	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1 年間を通しての議論をまとめる

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること

## 【テキスト】

開講時に指示します

## 【参考書】

ゼミ開講前に村井吉敬著「エビと日本人Ⅱ」（2007 年）岩波新書を一読しておくことが望ましい。

## 【成績評価基準】

研究会への出席および議論への貢献、最終レポートを勧奨します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013 年 1 月現在、2012 年度の授業改善アンケートの集計結果はまだ出ていませんが、研究会 A 同様、グループ内での意見交換の時間、グループ発表後のディスカッション時間の確保、さらにゼミ生同士のコミュニケーションの機会増のため、議論と意見表明に十分な時間をとるように留意することとします。

## 【その他】

今年度は試行的に水曜日 1 限をサブゼミの時間と設定します（通年／水ゼミと共通）。具体的な内容や参加が望ましい者（必須ではありません）については、その都度連絡します。

## 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 研究会（B）

## 田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

## 【授業の到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。  
千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。  
これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

[]

## 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。  
このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などとおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。  
なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2012年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第3回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2013年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2013年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。
第10回	プログラムミーティング④	実施グループメンバーへの割り振り。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田大研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第21回	千代田大研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第22回	千代田大研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第23回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。

第24回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとの討議。
第25回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとの討議。
第26回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとの討議。
第27回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第28回	年度活動報告書作成会議②	報告書原稿の進捗確認。
第29回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第30回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。  
ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史  
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

## 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

区内施設見学、外部講師による講演を充実する。

## 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録はできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 研究会（B）

## 田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

## 【授業の到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。  
千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。  
これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

## 【】

## 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。  
このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。  
なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

## 【】

## 【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2012年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第3回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2013年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2013年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。
第10回	プログラムミーティング④	実施グループメンバーへの割り振り。 各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田大研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第21回	千代田大研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第22回	千代田大研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第23回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。

第24回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第25回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとの討議。
第26回	プログラムミーティング⑬	各プログラムグループごとの討議。
第27回	プログラムミーティング⑭	各プログラムグループごとの討議。
第28回	年度活動報告書作成会議②	報告書原稿の進捗確認。
第29回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第30回	活動のふり取りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。  
ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史  
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣  
篠木幹子「環境問題へのアプローチ」多賀出版

## 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

区内施設見学、外部講師による講演の機会を充実します。

## 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録は出来ません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 研究会 (A)

## 谷本 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位  
 開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火2  
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】  
 大森荘蔵の科学哲学の研究

【授業の到達目標】  
 科学的なものの見方、考え方の概略的理解を目指す

□

【授業の概要と方法】  
 大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく

□

□

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第2回	イントロダクション1	「夢まぼろし」 「記憶について」
第3回	イントロダクション2	「真実の百面相」 「心の中」
第4回	イントロダクション3	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第5回	イントロダクション4	イントロダクションの総括のための議論と解説
第6回	初期大森哲学1	「哲学的知見の性格」
第7回	初期大森哲学2	「他我の問題と言語」
第8回	初期大森哲学3	「言語と集合」
第9回	初期大森哲学4	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第10回	初期大森哲学5	「決定論の論理と、自由」
第11回	初期大森哲学6	「知覚の因果説検討」
第12回	初期大森哲学7	「知覚風景と科学的世界像」
第13回	初期大森哲学8	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第14回	春学期総括1	それぞれの描く大森哲学1
第15回	春学期総括2	夏休みの課題解説
第16回	秋学期の展望	夏休みの課題の発表と議論
第17回	中期大森哲学1	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」1
第18回	中期大森哲学2	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」2
第19回	中期大森哲学3	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」3
第20回	中期大森哲学4	「科学の畏」
第21回	中期大森哲学5	「虚想の公認を求めて」
第22回	中期大森哲学6	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第23回	後期大森哲学1	「過去の制作」
第24回	後期大森哲学2	「ホーリズムと他我問題」
第25回	後期大森哲学3	「脳と意識の無関係」
第26回	後期大森哲学4	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第27回	後期大森哲学5	「「後の祭り」を祈る－過去は物語」
		「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第28回	後期大森哲学6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第29回	秋学期総括1	それぞれの描く大森哲学2
第30回	秋学期総括2	科学的なものの見方考え方の実像についてのまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する

## 【テキスト】

『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011年）

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

## 【成績評価基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度に出席を加味して、総合的に評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013年度より担当

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## 研究会 (B)

## 金子 良事

配当年次／単位：2～4年／4単位  
 開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：金2  
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】  
 職業生活をおとして労働環境を考える。

## 【授業の到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をおとして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

□

## 【授業の概要と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基いた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

□

□

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといっようでよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいをみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係あるのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。
第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	

第 12 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 13 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどういう問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第 14 回	大学生の就職 3 (就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どういう意味においてそうなのかについて考える。
第 15 回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第 16 回	春学期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	春学期に行った日本的雇用慣行について総合的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 17 回	春学期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本的雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本的雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 19 回	学生による研究発表 2	上記に同じ
第 20 回	学生による研究発表 3	上記に同じ
第 21 回	学生による研究発表 4	上記に同じ
第 22 回	学生による研究発表 5	上記に同じ
第 23 回	学生による研究発表 6	上記に同じ
第 24 回	学生による研究発表 7	上記に同じ
第 25 回	学生による研究発表 8	上記に同じ
第 26 回	学生による研究発表 9	上記に同じ
第 27 回	学生による研究発表 1 0	上記に同じ
第 28 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第 29 回	学生による研究発表 1 1	第 1 8 回に同じ
第 30 回	学生による研究発表 1 2	上記に同じ

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、秋学期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるように準備する。

#### 【テキスト】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

#### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012 年。

#### 【成績評価基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2013 年度より担当。

#### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

## 研究会 (B)

加藤 貴、根崎 光男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

テーマ：江戸の都市問題を考える

江戸の都市問題について歴史史料の読解、古文書の解読、グループ学習、史跡探索、各自の研究発表を通じて、教員と学生が一体となって、環境史研究を進めていきます。

#### 【授業の到達目標】

日本歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・史料読解・課題解決の能力を養います。このなかで、環境史研究のテーマを自ら見つけ、研究レポートを提出することを目標とします。

【】

#### 【授業の概要と方法】

この授業は、調査テーマに関連した歴史史料・古文書の読解、フィールドの探索、各自研究のプレゼンテーション、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行います。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション-環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学習する。
第 2 回	史料読解 (1)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解 (2)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解 (3)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	史料読解 (4)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 6 回	古文書解読 (1)	古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 7 回	史料読解のグループ学習 (1)	史料を読解・分析し、グループ別に発表する。
第 8 回	史料読解のグループ学習 (2)	史料を読解・分析し、グループ別に発表する。
第 9 回	史跡探索 (1)	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 10 回	特定テーマ中間発表 (1)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表 (2)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表 (3)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表 (4)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表 (5)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	特定テーマ中間発表 (6)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 17 回	史料読解 (5)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 18 回	史料読解 (6)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解 (7)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	史料読解 (8)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 21 回	史料読解 (9)	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 22 回	古文書解読 (2)	古文書を解読・分析し、討論を行う。



発行日：2021/6/1

- 第 23 回 史料読解のグループ学習 (3) 史料を読解し、グループ別に発表する。
- 第 24 回 史料読解のグループ学習 (4) 史料を読解し、グループ別に発表する。
- 第 25 回 特定テーマ研究発表 (1) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 26 回 特定テーマ研究発表 (2) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 27 回 特定テーマ研究発表 (3) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 28 回 特定テーマ研究発表 (4) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 29 回 特定テーマ研究発表 (5) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 30 回 特定テーマ研究発表 (6) 各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

歴史史料・古文書の読解、研究テーマの文献探索・講読。

**【テキスト】**

必要に応じて配付します。

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席状況、授業時の積極的姿勢を重視するが、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行います。

**【関連の深いコース】**

地域環境共生コース・環境文化創造コース

## 研究会 (B)

### 長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

**【授業の到達目標】**

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【】

**【授業の概要と方法】**

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	CSR に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	CSR に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	CSR に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	CSR に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	CSR に関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第 7 回	CSR に関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議
第 8 回	経営分析に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営分析に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 10 回	経営分析に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 11 回	経営分析に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第 12 回	経営分析に関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	経営分析に関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	ストックリーグ活動 ゲストスピーカー講和	詳細はガイダンス時に提示
第 15 回	ストックリーグ活動	ファンドテーマの構想発表
第 16 回	ストックリーグ活動	ファンドテーマの発表
第 17 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告
第 18 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告 ユニバース発表
第 19 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 20 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 22 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動	ポートフォリオ発表
第 24 回	ストックリーグ活動	バーチャルトレード
第 25 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 26 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 27 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 29 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 30 回	スピーチ	全員による 3 分間スピーチ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

**【テキスト】**

研究会の開講前に掲示します。

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価基準】**

〔共通評価〕平常点（ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度）  
〔個別評価〕ストックリーグのレポート

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【関連の深いコース】**

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

**研究会（B）**

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

私たちの日常生活を支えている様々なモノに焦点をあて、それらを通じた途上国の人々とのつながりを学ぶ。

**【授業の到達目標】**

国際協力や国際交流に関心のある学生が、ゼミでのディスカッションや自主的な課外活動に取り組み、互いに刺激しあう機会を設け、自ら考えて行動する能力を培う。

プレゼンテーション、論理的な文書作成、論理的思考、英文読解などのスキルを向上させる。

【】

**【授業の概要と方法】**

日本と世界をつなげるモノ（とヒト、カネ）を選び、その流れについて調べて討論・発表する。

それらの過程で、各スキルを向上させる題材や方法を取り入れる。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	概要紹介
第 2 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 3 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 4 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 5 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 6 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 7 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 8 回	グループ分け	各自でテーマを出し合い、テーマごとにグループ分けを行う
第 9 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 10 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 11 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 12 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 13 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 14 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 15 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 16 回	グループ分け	特定地域・分野の課題を選び、グループ分けを行う
第 17 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 18 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 19 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 20 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 21 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 22 回	ゲストスピーカー	関連分野のゲストに話を聞く
第 23 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 24 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 25 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 26 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 27 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 28 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 29 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 30 回	卒業論文報告会	卒論執筆者の報告を聞く

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

テキストや参考資料は必ず予習すること。  
グループ活動には積極的にかかわってください。

**【テキスト】**

授業内で紹介します。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介します。

**【成績評価基準】**

出席と平常点：50%

発表・レポート：各 25%

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

昨年度以上に、アウトプット重視で行きたいと思います。

**【関連の深いコース】**

国際環境協力コース

## 研究会（B）

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、科学的な視点、国際的な視点、地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会をとおして、多様な知識を今後上積みしていくための基盤を作り、より高度な学習に向けて素養と技術を身につけることを目指します。

### 【授業の到達目標】

個々の学生において以下の 4 点を目標とします。

- ①自然環境の保全に関して幅広い知識と、柔軟な考え方を身に付けること
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力を身に付けること
- ③他者との議論をとおして、異なった観点からの意見を受け入れ合意を形成する能力を身に付けること
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的に成果をまとめる能力を身に付けること

II

### 【授業の概要と方法】

設定した課題について、グループワーク、フィールド学習、個人学習をとおして、議論・調査・考察を行い、成果を取りまとめることを基本とします。併せて講義形式により知識を深めることをとおして基礎的な思考力を高めます。さらに、各自の自然環境に対する問題意識に沿って自主的に課題を設定し、情報収集と整理分析、事例研究などの調査活動を行い、成果として取りまとめます。

II

II

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 3 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 4 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 5 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 6 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 7 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 8 回	中間発表	研究成果の発表
第 9 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 10 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 11 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 12 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 13 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 14 回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第 15 回	春学期成果発表	課題研究成果の発表
第 16 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 17 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 18 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 19 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 20 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 21 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 22 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 23 回	中間発表	研究成果の発表
第 24 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 25 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 26 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 27 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 28 回	グループ研究	成果まとめ
第 29 回	年間成果発表	研究の成果発表
第 30 回	年間成果発表	研究の成果発表

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自または共通の課題に関して、文献資料の収集や資料作成、必要なフィールドワークなど、成果に向けた調査研究を着実に行ってください。

### 【テキスト】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

出席点、平常点（議論への参加、学習意欲、自主的な取り組みなど）、成果の内容等を総合的に評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性を重視しこれを促すよう学習していきます。

### 【その他】

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ（春学期）及びⅡ（秋学期）」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「自然環境科学の基礎（生態学）」及び「自然環境論Ⅳ」を併せて履修することを推奨します。

### 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・地域環境共生コース

## 研究会（B）

## 永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

## 【授業の到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 15 回	英文契約の読解（5）	実際の英文契約読解（班による発表）

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

## 【テキスト】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価基準】

平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

## 研究会（B）

## 日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

俳句実作講座

## 【授業の到達目標】

- ・俳句の実作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・日本の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

[]

## 【授業の概要と方法】

俳句の実作をする授業である。毎回、句会形式で授業を進める。参加者は毎回俳句を3句ほど用意して投句する。清記、選句、披講のあと、投句された作品を対象に討議する。随時「題詠」も行なう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	句会	句会を体験する（題詠）、歳時記の紹介
第 2 回	句会	当季雑詠、「切字」の説明
第 3 回	句会	当季雑詠、「取り合わせ」の説明
第 4 回	句会	当季雑詠、散文と俳句の違い
第 5 回	句会	当季雑詠、題詠
第 6 回	句会	当季雑詠、題詠
第 7 回	句会	当季雑詠、題詠
第 8 回	句会	当季雑詠、題詠
第 9 回	句会	当季雑詠、題詠
第 10 回	句会	当季雑詠、題詠
第 11 回	句会	当季雑詠、題詠
第 12 回	句会	当季雑詠、題詠
第 13 回	句会	当季雑詠、題詠
第 14 回	句会	当季雑詠、題詠
第 15 回	句会	当季雑詠、題詠

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回俳句を3句ほど作って持参する。
- ・歳時記の世界に親しむ。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）  
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）  
『歳時記』（授業のなかでいくつか紹介する）

## 【成績評価基準】

平常点（出席状況・提出作品）70％  
最終レポート 30％

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

**研究会（B）**

谷本 有美子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【成績評価基準】**

出席、課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012年度より担当

**【関連の深いコース】**

地域環境共生コース

**【授業のテーマ】**

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対策になり、さらに学生が自治体職員になった場合に必要となる政策能力の基礎を身につけることも目的としています。

**【授業の到達目標】**

第1に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第2に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第3に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力について理解を深めることです。

[]

**【授業の概要と方法】**

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討議、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討（担当職員のキャリア形成も含む）、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告などを組み合わせていきます。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と討議形式で自治体職員のミッションについて考える
第2回	講義「いま、自治体職員に求められていること」	自治体職員として求められる人物像に関する講義
第3回	自治体の政策課題の発見（1）	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を抽出し、受講者がレポート、その対策アイデアを検討
第4回	自治体の政策課題の発見（2）	第3回の続き
第5回	ケース分析「自治体職員の仕事（1）」	テキストの事例を題材に自治体職員の仕事について受講者がレポート
第6回	ケース分析「自治体職員の仕事（2）」	第5回の続き
第7回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際について聞き取り
第8回	自治体職員のキャリア形成を考える	ゲストスピーカーからの聞き取り内容と文献からのケース分析を比較しながら、キャリア形成に焦点を当てて討議
第9回	自治体管理職（ゲストスピーカー）に聞く	自治体の管理職をゲストスピーカーとして招き自治体職員に求められる資質や能力について聞き取り
第10回	政策形成思考のトレーニング（1）	最近、注目されている地域レベルの政策課題について、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第11回	政策形成思考のトレーニング（2）	第10回の続き
第12回	特定地域のフィールドワーク（1）	都内または東京近郊の自治体における特定地域を対象に現地調査と政策立案実習を行う
第13回	特定地域のフィールドワーク（2）	第12回の続き
第14回	特定地域のフィールドワーク（3）	第12・13回の続き
第15回	総括討論	学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき像などについて総括的に討論

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

**【テキスト】**

稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）

**【参考書】**

授業内で適宜指示します。

## 研究会（B）

石神 隆

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「サステイナブルなまちづくり」を基本テーマとした、都市環境および地域形成に関する集中学習型のゼミナール。

### 【授業の到達目標】

都市環境および地域形成に関して定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解し、研究のおもしろさを体得し、また、様々な企画能力をも培う。

[]

### 【授業の概要と方法】

国内外の都市や地域を対象に、環境、生活、経済、産業、歴史などの視点から、文献購読と事例研究を行う。文献については年度初めにいくつか提示すると同時に、必要に応じ適宜提示する。事例研究の具体的なテーマ等に関しては、議論しつつ決めていく。ゼミでは、①文献の輪読と議論、②グループによる事例研究、③個人研究を進める。グループ研究と個人研究は自主的に進め、その成果を逐次、ゼミで発表・議論し、最終的にはレポートとしてまとめる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第2回	年間研究全体テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第3回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第4回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第5回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第6回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第7回	各グループ小テーマ議論	グループを形成し、それぞれ議論
第8回	各グループ小テーマ議論	主にグループごとの研究活動
第9回	各グループ研究構想発表	各グループの小テーマと研究の企画
第10回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第11回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第12回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第13回	第1回中間発表会	各グループの研究成果の発表・討論
第14回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第15回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第16回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第17回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第18回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第19回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第22回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第23回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第24回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第25回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第26回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第27回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第28回	最終研究発表会準備	主にグループごとの研究活動
第29回	最終研究発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に購読し習得していく。また、グループ毎に適宜計画し、事例研究の現地調査を積極的に実施する。

### 【テキスト】

輪読のための共通テキスト（3冊程度：年度初めに提示）を使用する。また、テーマの設定によっては、別途に共通の資料を使用する場合がある。

### 【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究の評価）50%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当のため該当なし

### 【関連の深いコース】

地域環境共生コース

## 研究会 (B)

安岡 宏和

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境人類学文献講読

### 【授業の到達目標】

文献を読み、レビューを書く作業をとおして、自分の興味のあるテーマにおける論点を整理し、みずから取り組むことのできる問いを明確にする。

[]

### 【授業の概要と方法】

教員が選定した文献について、毎回の授業で、一人ないし二人が内容の一部を紹介し、全員でディスカッションをおこなう。担当者をあらかじめ決めることはしない。したがって参加者は、つねにその週の講読部分を紹介できるよう準備しておく必要がある。講読ペースは春学期に 2～3 冊、秋学期に 2～3 冊とする。環境人類学 I・II・III の内容に密接に関連する文献を取り上げるので、同時に履修することが望ましい。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	年間の計画を調整する。
第 2 回	プレゼンテーションとディスカッション (1)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 3 回	プレゼンテーションとディスカッション (2)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 4 回	プレゼンテーションとディスカッション (3)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 5 回	プレゼンテーションとディスカッション (4)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 6 回	プレゼンテーションとディスカッション (5)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 7 回	プレゼンテーションとディスカッション (6)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 8 回	プレゼンテーションとディスカッション (7)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 9 回	プレゼンテーションとディスカッション (8)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 10 回	プレゼンテーションとディスカッション (9)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 11 回	プレゼンテーションとディスカッション (10)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 12 回	プレゼンテーションとディスカッション (11)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 13 回	プレゼンテーションとディスカッション (12)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 14 回	プレゼンテーションとディスカッション (13)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 15 回	プレゼンテーションとディスカッション (14)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 16 回	プレゼンテーションとディスカッション (15)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 17 回	プレゼンテーションとディスカッション (16)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 18 回	プレゼンテーションとディスカッション (17)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 19 回	プレゼンテーションとディスカッション (18)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 20 回	プレゼンテーションとディスカッション (19)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 21 回	プレゼンテーションとディスカッション (20)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 22 回	プレゼンテーションとディスカッション (21)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 23 回	プレゼンテーションとディスカッション (22)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 24 回	プレゼンテーションとディスカッション (23)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 25 回	プレゼンテーションとディスカッション (24)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 26 回	プレゼンテーションとディスカッション (25)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 27 回	プレゼンテーションとディスカッション (26)	レビューの執筆

第 28 回	プレゼンテーションとディスカッション (27)	レビューの執筆
第 29 回	プレゼンテーションとディスカッション (28)	レビューの執筆
第 30 回	プレゼンテーションとディスカッション (29)	レビューの執筆

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

文献を読む、プレゼンテーションの準備、レビューの執筆。

### 【テキスト】

未定。取り上げる文献は購入すること。

### 【参考書】

授業中に提示する。

### 【成績評価基準】

ディスカッションへの貢献 (50 点)、年度末のレビュー (50 点)。ただし準備不足により発表できない場合には大幅に減点する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度担当なし。

### 【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

## 研究会（B）

## 渡邊 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：情報の理論と実務から環境とマネジメントまでを考える  
 本研究会では、情報とその処理についての理論と応用法を学習し、ユーザとしての立場からIT技術を応用して業務改善を図るための能力を養います。国家試験（経済産業省）「ITパスポート試験」を受験することを念頭に置いています。また「基本情報技術者試験」を目指すための基礎を習得します。（これまでにこれらの試験には両方とも相応の合格者が出ています。）この内容に沿って学習を進めていくと、環境とそのマネジメントの問題が接点として浮かび上がってきます。最終的にその問題を考えてみたいと思っています。

## 【授業の到達目標】

ITに関する知識を習得し、上で述べた国家試験のカリキュラムの内容を理解することを最初の目標としています。さらにそこで得られた知識を実際の環境問題の検討に向けてどのように応用できるのかを考える力を養うことがもうひとつの目標です。

[]

## 【授業の概要と方法】

情報教室は使わず通常教室でテキストを使用して学習することを中心におこないます。春学期はコンピュータの仕組みやソフトウェア、業務組織の機能・運用と業務改善、品質管理手法など広範囲の内容について基本的事項を学習します。秋学期はその応用的・実務的内容を主として学習します。学習量はかなり多いので、どちらかというと講義的な形式で授業が進められていくことになることを理解してください。それにより得られた知識が環境問題の研究にどのように生かしていくことができるのかを模索することは重要であり、この研究会のもうひとつの柱はそこにあります。現代の科学技術社会の典型であるITとその応用について学習することにより、科学技術と現代の文明社会との関係性についても考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行います
第2回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第3回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第4回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第5回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第6回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第7回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第8回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第9回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第10回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第11回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第12回	テキストで学ぶ	テキストを使用して基礎事項を習得します
第13回	練習問題で学ぶ	練習問題による学習をおこないます
第14回	練習問題で学ぶ	練習問題による学習をおこないます
第15回	春学期の総括と到達度の確認	サンプル問題を解くことにより学習到達度のチェックをおこないます
第16回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第17回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第18回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第19回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第20回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第21回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します

第22回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第23回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第24回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第25回	応用・実務的事項の学習	テキストを使用して実務的事項を中心に学習します
第26回	環境問題へ向けた展開	習得した知識などの生かし方を研究します
第27回	環境問題へ向けた展開	習得した知識などの生かし方を研究します
第28回	環境問題へ向けた展開	習得した知識などの生かし方を研究します
第29回	環境問題へ向けた展開	習得した知識などの生かし方を研究します
第30回	秋学期の総括と到達度の確認	サンプル問題を解くことにより学習到達度のチェックをおこないます

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

使用するテキストについて、毎回予習と復習をおこなってください。テキストの中にある練習問題も含めて学習してください。

## 【テキスト】

開講時に紹介します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況と授業参加への積極性などをもとに総合的に判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていく予定です。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース



## 研究会修了論文

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年以上継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

#### 【授業の到達目標】

研究会修了論文の執筆。

【

#### 【授業の概要と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【

【

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

#### 【テキスト】

各教員が指示する。

#### 【参考書】

各教員が指示する。

#### 【成績評価基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

#### 【その他】

Bタイプ研究会受講者は登録できない。

各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

#### 【関連の深いコース】

全コース

## 人間環境セミナー I

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

環境の科学と技術

#### 【授業の到達目標】

1. 環境問題における科学と技術の位置づけを説明できる。
2. 環境に関する科学と技術の最近の動向を説明できる。
3. 環境問題に貢献する科学と技術の仕組みについて説明できる。

【

#### 【授業の概要と方法】

本セミナーでは、環境に関連する科学や技術に携わる方々を講師としてお招きし、活動とその成果について講演いただきます。各講師の豊かな知見や実務経験に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。担当：北川・高田・松本・渡邊

【

【

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	セミナーのねらいと進め方 各回の講師と講演タイトルの紹介 外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

配布資料等を復習してください。また、各講師の講演内容についてメモを取り、その内容についても復習してください。

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

#### 【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

#### 【成績評価基準】

成績評価の基準は、出席 50 %、期末試験 50 % です。

出席は毎回とります。

10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。

また、4回以上の欠席はD評価となりますので注意してください。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

該当なし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

#### 【その他】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださりますので、理解を深められるはずです。

#### 【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース・環境文化創造コース・環境サイエンスコース



## フィールドスタディ

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

現場（自然環境や社会環境）を訪問し、環境保全に関連するとりくみについて触れ、あるいは実習する。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムである。

#### 【授業の到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、改めて啓発を受けて自らの問題意識を高めること。

[]

#### 【授業の概要と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会、小テストなどを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第 2 回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第 4 回		たつての注意事項等。
第 5 回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数はコースによって異なる。3泊4日が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第 11 回		現地体験の総括講義、報告会等。
第 12 回	事後講義	
～第 14 回		
第 15 回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【テキスト】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし

#### 【その他】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。  
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。